

**IBM WebSphere Commerce Business
Edition
IBM WebSphere Commerce Professional
Edition**



**インストール・ガイド
(UNIX システム用)**

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、以下の製品のバージョン 5.5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

- IBM WebSphere Commerce Business Edition for AIX
- IBM WebSphere Commerce Business Edition for Solaris オペレーティング環境
- IBM WebSphere Commerce Professional Edition for AIX
- IBM WebSphere Commerce Professional Edition for Solaris オペレーティング環境

製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典 : IBM WebSphere Commerce Business Edition
IBM WebSphere Commerce Professional Edition
Installation Guide
for UNIX systems
Version 5.5

発 行 : 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当 : ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

本書について

本書の内容

このインストール・ガイドは、UNIX[®] オペレーティング・システムに IBM[®] WebSphere[®] Commerce Business Edition と IBM WebSphere Commerce Professional Edition をインストールして構成する方法について解説しています。その対象読者は、システム管理者や、インストールと構成の作業に携わるすべての担当者です。

本書では、以下の UNIX オペレーティング・システムのインストールに関する指示を述べています。

- AIX[®]
- Solaris オペレーティング環境

WebSphere Commerce では、他の UNIX オペレーティング・システムはサポートされていません。

本書での更新

最終的な製品に対する変更について調べたい場合は、WebSphere Commerce ディスク 1 CD のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。さらに、このマニュアルのコピーおよび更新版は、以下の Web サイトの WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーに PDF ファイルの形式で掲載されています。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

本書の更新版は、WebSphere Developer Domain 中の WebSphere Commerce Zone にも掲載されています。

<http://www.ibm.com/software/wsdd/zones/commerce/>

WebSphere Commerce サポートの以下の Web サイトからサポート情報を入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>

本書の表記規則

本書では、強調表示に対して次の規則が定められています。

太字体	フィールド名、アイコン、メニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) コントロールを示します。
モノスペース (Monospace)	示されたとおりに入力するテキスト、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前の例を示します。
イタリック体	語を強調するために使用します。イタリックはまた、ご使用のシステムに合った値に置換しなければならない名前も示します。



このアイコンはヒントのマークであり、タスクの実行に役立つ追加情報が示されます。

重要

この項は、特に重要な情報を強調しています。

注意

この項は、データの保護を目的とした情報に重点を置いています。

Business

特に WebSphere Commerce Business Edition に関連した情報を示します。

Professional

特に WebSphere Commerce Professional Edition に関連した情報を示します。

DB2

特に DB2 Universal Database™ に関連した情報、または WebSphere Commerce での DB2 Universal Database の使用法を示します。

Oracle

特に Oracle9i Database に関連した情報、または WebSphere Commerce での Oracle9i Database の使用法を示します。

AIX

特に AIX で実行するプログラムに関連した情報を示します。

Solaris

特に Solaris オペレーティング環境 で実行するプログラムに関連した情報を示します。

本書の使用用語

本書では、以下の用語を使用しています。

セル セルとは、 WebSphere Network Deployment Manager によってまとめて管理される WebSphere Application Server 分散ネットワーク内の 1 つ以上のノード上の任意の論理グループのことです。この定義におけるノードとは、単一の WebSphere Application Server インスタンスのことです。 WebSphere Application Server デプロイメント・マネージャーの単一の実在によって管理される 1 つ以上のセルを *WebSphere Application Server* デプロイメント・マネージャー・セル と呼びます。

クラスター

1 つの同じ企業アプリケーションを実行する WebSphere Application Server の実在の集まり。旧リリースではクラスターは、サーバー・グループまたは複製と呼ばれていました。クラスターを作成する作業をクラスター化 といいます。旧リリースではクラスター化は、複製 と呼ばれていました。

クラスター・メンバー

クラスター内の WebSphere Application Server の単一の実在。

連合 いくつかの WebSphere Application Server の単一の実在をセル内に集めて、複数の実在をまとめて管理すること。

ノード 本書では、ノードにはその用いられ方に応じて 2 とおりの意味があります。

WebSphere Commerce のインストールの場合

WebSphere Commerce のインストールの解説中のノードは、1 つ以上の WebSphere Commerce コンポーネントのインストール先である固有の IP ホスト・アドレスをもった単一のマシンまたはマシン区画のことです。

クラスター化の場合

クラスター化について述べている場合のノードは、WebSphere Application Server の単一の実在と、そのような WebSphere Application Server の実在のもとに稼働するアプリケーションを指します。セル内のノードは、同じセル内の他のノードと同じ企業アプリケーションを実行していることもしていないこともあります。

パス変数

本書では、ディレクトリー・パスを表すのに次の変数を使用しています。

DB2_installdir


これは、DB2 Universal Database のインストール・ディレクトリーです。以下は、DB2 Universal Database のインストール・ディレクトリーです。


 /usr/opt/db2_08_01

 /opt/IBM/db2/V8.1

Oracle_installdir

これは、Oracle9i Database のインストール・ディレクトリーです。以下は、Oracle9i Database のインストール・ディレクトリーです。

 /oracle/u01/app/oracle/product/9.2.0.1.0

 /opt/oracle/u01/app/oracle/product/9.2.0.1.0

HTTPServer_installdir

これは、IBM HTTP Server のインストール・ディレクトリーです。以下は、IBM HTTP Server のインストール・ディレクトリーです。

 /usr/IBMHttpServer

 /opt/IBMHttpServer

SunONEweb_installdir

これは、Sun ONE Web Server のインストール・ディレクトリーです。以下

は、Sun ONE Web Server のインストール・ディレクトリーです。

AIX WebSphere Commerce は、AIX 上の Sun ONE Web Server をサポートしません。

Solaris /opt/iplanet/servers
重要: Sun ONE Web Server は、必ずデフォルト・ロケーションにインストールしてください。Sun ONE Web Server のインストール・ロケーションを変更すると、WebSphere Commerce のインストール・ウィザードは Sun ONE Web Server がインストールされていることを認識しなくなるので、WebSphere Commerce のインストールが失敗することになります。

WAS_installdir

これは、WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーです。以下は、WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーです。

AIX /usr/WebSphere/AppServer

Solaris /opt/WebSphere/AppServer

WAS_ND_installdir

これは、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストール・ディレクトリーです。以下は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストール・ディレクトリーです。

AIX /usr/WebSphere/DeploymentManager

Solaris /opt/WebSphere/DeploymentManager

WC_installdir

これは、WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリーです。以下は、WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリーです。

AIX /usr/WebSphere/CommerceServer55



Solaris /opt/WebSphere/CommerceServer55

必要な知識

本書には、システム管理者や、WebSphere Commerce のインストールと構成に携わるすべての担当者が目を通す必要があります。

WebSphere Commerce のインストールと構成に携わる担当者には、以下の分野における知識が必要です。

- AIX または Solaris オペレーティング環境

- オペレーティング・システムの基本コマンド
- DB2 Universal Database または Oracle9i Database
-  IBM HTTP Server の操作と保守
-  IBM HTTP Server または Sun ONE Web Server の操作と保守
- SQL の基本コマンド
- インターネット

WebSphere Commerce の構成と管理の詳細は、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」と「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」を参照してください。

ストアを作成してカスタマイズするには、以下の知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- DB2 Universal Database または Oracle9i Database
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java™ のプログラミング

ストアまたはモールのカスタマイズに関する詳細は、「*WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル*」を参照してください。WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio には、いずれもこれらのマニュアルのコピーが付属しています。

Oracle の知識

この章では、Oracle を WebSphere Commerce とともに使用する前に知っておく必要のある Oracle の重要な概念のいくつかを扱っています。これらの概念に関する解説は、Oracle システムに付属している *Oracle9i Database Concepts* の資料に記載されています。Oracle システムのインストールとセットアップを行う前に、Oracle の製品に付属している Oracle 資料 (特に、概念、管理、およびインストールに関する情報) をお読みになり、理解しておくことをお勧めします。

Oracle システムを WebSphere Commerce とともに動作するよう構成する前に理解しておく必要のある概念は次のとおりです。

- Oracle インスタンス
- データベース構造およびスペース管理。これには、以下のものが含まれます。
 - 論理データベース構造
 - テーブル・スペース
 - スキーマおよびスキーマ・オブジェクト
 - データ・ブロック、エクステンツ、およびセグメント
 - 物理データベース構造
 - データ・ファイル
 - 再実行ログ・ファイル
 - 制御ファイル
- 構造化照会言語 (SQL)
- メモリー構造および処理

- システム・グローバル域 (SGA)
- プログラム・グローバル域 (PGA)
- サーバーおよびバックグラウンド・プロセスなどから成る Oracle プロセス・アーキテクチャー
- 通信ソフトウェアおよび Net9
- プログラム・インターフェース
- データベース管理者のユーザー名
 - SYS
 - SYSTEM
- システム ID (SID)
- データベース、テーブル・スペース、およびデータ・ファイル
 - SYSTEM テーブル・スペース
 - 複数のテーブル・スペースの使用
 - テーブル・スペース内のスペース管理
 - オンラインおよびオフラインのテーブル・スペース
 - 一時テーブル・スペース
 - データ・ファイル

目次

本書について	iii
本書の内容	iii
本書での更新	iii
本書の表記規則	iii
本書の使用用語	iv
パス変数	v
必要な知識	vi
Oracle の知識	vii

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ	3
WebSphere Commerce の付属製品	3
代替の Web サーバー	4
代替のデータベース	4
すでにインストール済みのコンポーネント	4
IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1	4
IBM HTTP Server バージョン 1.3.26	5
サポートされている Web ブラウザー	6
WebSphere Commerce で使用されるポート番号	7
WebSphere Commerce で使用されるロケール	9

第 2 章 プリインストール要件	11
AIX の前提条件のハードウェアとソフトウェア	11
AIX の前提条件ハードウェア	11
AIX の場合の前提条件ソフトウェア	12
Solaris オペレーティング環境の前提条件のハードウェアとソフトウェア	13
Solaris オペレーティング環境の前提条件ハードウェア	13
Solaris オペレーティング環境の前提条件ソフトウェア	14
DB2 Universal Database 用の Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーターの更新	15
Oracle9i Database 用の Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーターの更新	16
ネットワーク構成要件	16
README ファイルの確認	17
その他の要件	17

第 3 章 WebSphere Commerce のインストール方法 19

第 2 部 データベースのインストール 21

第 4 章 WebSphere Commerce でのローカル・データベースの使用 23

ローカル WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用	23
ローカル WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用	23
次のステップ	24

第 5 章 WebSphere Commerce でのリモート・データベースの使用 25

リモート WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用	25
リモート WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用	25
次のステップ	26

第 6 章 WebSphere Commerce 用の Oracle9i Database の設定 27

WebSphere Commerce に必要な Oracle9i Database の設定	27
WebSphere Commerce 用にお勧めする Oracle9i Database の設定	28

第 3 部 Web サーバーのインストール 29

第 7 章 Sun ONE Web Server のインストール 31

Sun ONE Web Server のインストールと構成	31
次のステップ	33

第 4 部 WebSphere Commerce のインストール 35

第 8 章 WebSphere Commerce のインストール前に 37

必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成	37
プリインストール・チェックリスト	38
インストール・タイプの選択	39
クイック・インストール	40
標準 1 ノード・インストール	40
標準 3 ノード・インストール	41
カスタム・インストール	43

第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス 45

インストール・ウィザードの処理の完了に必要なユーザー ID	46
DB2 Universal Database ユーザー ID の要件	47

第 10 章 標準インストールの実行	49
標準 1 ノード・インストールの実行	49
標準 3 ノード・インストールの実行	52
標準 3 ノード・インストールでのデータベースのインストール	52
標準 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール	55
標準 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール	57
次のステップ	60
第 11 章 カスタム・インストールの実行	61
カスタム・インストールの実行	64
次のステップ	66
第 12 章 インストールの検証	67
DB2 Universal Database のインストール・ログ	67
WebSphere Application Server のインストール・ログ	68
WebSphere Commerce コンポーネントのインストール・ログ	69
次のステップ	69
<hr/>	
第 5 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	71
第 13 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に	73
構成マネージャーの前提条件	73
構成マネージャーの開始	73
次のステップ	76
第 14 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成	77
新規の WebSphere Commerce インスタンスの作成	77
インスタンスの作成の検証	78
次のステップ	79
第 15 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	81
新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	81
インスタンスの作成の検証	82
次のステップ	83
<hr/>	
第 6 部 最終ステップ	85
第 16 章 インスタンス作成後の必須タスク	87
ローカル Web サーバーのインスタンス作成後のタスク	87
リモート Web サーバーのインスタンス作成後のタスク	87

第 17 章 インスタンス作成後の推奨タスク	89
-------------------------------	-----------

第 7 部 拡張構成オプション 91

第 18 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	93
前提条件	94
Web サーバーの前提条件	95
複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成	96
複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	97
複数インスタンスのテスト	98

第 19 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合 101

WebSphere Commerce の連合	101
WebSphere Commerce Payments の連合	104
プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更	106
セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去	107

第 20 章 WebSphere Commerce のクラスタ化 109

水平複製のクラスタ化	111
垂直複製のクラスタ化	112
水平複製の準備	112
WebSphere Commerce クラスタの作成	113
JDBC プロバイダー・パスの検証	114
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成	116
インスタンス情報のコピー	117
WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー	117
さらに別のクラスタ・メンバーの追加	118
WebSphere Commerce クラスタの開始または停止	120
クラスタ・メンバーの除去	120
WebSphere Commerce クラスタ内でのストアの発行	121
水平複製を使用したクラスタ内でのストアの発行	121
垂直複製を使用したクラスタ内でのストアの発行	122

第 8 部 インストールと管理のタスク 123

第 21 章 WebSphere Commerce のタスク	125
---------------------------------------	------------

WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止	125
WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止	125
WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更	126
WebSphere Commerce インスタンスの削除	126
WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除	129

第 22 章 WebSphere Application Server のタスク 133

アプリケーション・サーバーの開始または停止	133
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止	134
WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止	134
WebSphere Application Server 管理コンソールの開始	135
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止	135
WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成	136

第 23 章 リモート Web サーバーのタスク 139

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー	139
WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ	140
ストアの発行後のタスク	142

第 24 章 パスワードの設定と変更 143

構成マネージャー・パスワードの変更	143
WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更	143
サイト管理者パスワードのリセット	144
サイト管理者 ID のリカバリー	146

第 25 章 通常の管理用タスク 147

コマンド行での構成作業	147
リモート DB2 データベースをカタログに入れる	147

第 26 章 AIX のタスク 149

CD ファイル・システムの割り振りとマウント	149
CD ファイル・システムの割り振り	149
CD ファイル・システムのマウント	149
フリー・スペースの増加	150
ページング・スペース	151
ページング・スペースの検証	151
非アクティブ・ページング・スペースの活動化	151
既存のページング・スペースのサイズ増加	152
ページング・スペースの新規作成	152
物理区画のサイズの判別	153

前提条件ファイル・セットがインストール済みかどうかの確認	154
--	-----

第 27 章 WebSphere Commerce の管理に必要なユーザー ID 157

第 9 部 付録 159

付録 A. 確認済みの問題と制限事項 . . . 161

インストール上の問題と制限事項	161
コンソール・モードでのインストール時に、フリー・スペースのメッセージが変わらない	161
マシンへの以前の DB2 Universal Database インストールによってもたらされるインストールの問題	161
Web サーバーの問題と制限事項	162
セキュア (HTTPS) URL が機能しない	162
WebSphere Commerce インスタンスの問題と制限事項	162
構成マネージャー開始時の不正 ulimit メッセージ	162
createsp.log ファイルにエラーが含まれる	162
WebSphere Commerce のインストール言語以外のデフォルト言語での WebSphere Commerce インスタンスの作成	163
インスタンスの作成中にメモリー不足エラーが発生する	164
root 以外のユーザーとしてログインしたときに WebSphere Commerce インスタンスが始動しない	164
ログ内のポートの競合の表示	165
WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題と制限事項	165
リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが機能しない	165
WebSphere Commerce Payments インスタンスが始動しない	166
root 以外のユーザーとしてログインしたときに WebSphere Commerce Payments インスタンスが始動しない	167
WebSphere Application Server の問題と制限事項	168
addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す	168
removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す	168

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール 169

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール	169
WebSphere Application Server のアンインストール	170
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのアンインストール	170
IBM HTTP Server のアンインストール	171

DB2 Universal Database のアンインストール . . . 171

付録 C. 詳細情報の入手方法 173

WebSphere Commerce に関する情報 173

 WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ . . . 173

 WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリ

 — 173

WebSphere Commerce Payments に関する情報 . . . 173

IBM HTTP Server に関する情報 175

WebSphere Application Server に関する情報 . . . 175

DB2 Universal Database に関する情報 175

その他の IBM 資料 175

特記事項. 177

商標 178

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ

本書は、WebSphere Commerce バージョン 5.5 for AIX および Solaris オペレーティング環境のインストールと構成の方法について説明しています。その対象読者は、システム管理者や、インストールと構成の作業に携わるすべての担当者です。


WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 または WebSphere Commerce バージョン 5.4 をインストールしている場合、バージョン 5.1 の場合は「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」に、バージョン 5.4 の場合は「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」に説明されているマイグレーション・ステップをそれぞれ行ってください。「マイグレーション・ガイド」は、以下の WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

WebSphere Commerce の付属製品



WebSphere Commerce には以下の製品がパッケージされています。

- WebSphere Commerce のコンポーネント
 - WebSphere Commerce サーバー
 - WebSphere Commerce Payments。これには、以下が組み込まれています。
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for VisaNet
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for BankServACH
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for Paymentech
 - WebSphere Commerce Payments CustomOffline Cassette
 - WebSphere Commerce Payments OfflineCard Cassette
 - WebSphere Commerce アクセラレーター
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - WebSphere Commerce 組織管理コンソール
 - 商品アドバイザー
 - Blaze Rules Server バージョン 4.5.5 および Blaze Innovator Runtime バージョン 4.5.5
 - LikeMinds クライアント
- IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1 Enterprise Edition (FixPak 1 を適用した DB2 Universal Database バージョン 8.1 Enterprise Edition)。これには、以下が組み込まれています。
 - IBM DB2 Universal Database Administration Clients バージョン 8.1.1
- IBM DB2[®] Text Extender 8.1
- IBM HTTP Server バージョン 1.3.26
- WebSphere Application Server バージョン 5.0
- IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5
- IBM Directory Server バージョン 4.1

- WebSphere Commerce バージョン 5.5 Recommendation Engine powered by LikeMinds
-  IBM Lotus® QuickPlace® バージョン 3.0
- IBM Lotus Sametime® バージョン 3.0

代替の Web サーバー

次のように、オペレーティング・システムに応じて WebSphere Commerce は、IBM HTTP Server 以外の Web サーバーもサポートすることができます。

-  WebSphere Commerce は IBM HTTP Server のみをサポートします。
-  Solaris オペレーティング環境では、WebSphere Commerce に付属している IBM HTTP Server の代用として Sun ONE Web Server, Enterprise Edition 6.0 が WebSphere Commerce でサポートされます。

代替のデータベース

WebSphere Commerce とともに提供されているデータベースは IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1 Enterprise Edition ですが、Oracle9i Database Release 2、Enterprise Edition または Standard Edition も使用できます。

すでにインストール済みのコンポーネント

このセクションでは、WebSphere Commerce バージョン 5.5 に組み込まれている IBM 製品のいずれかをすでにインストール済みの場合に実行する必要があるタスクについて略述します。

WebSphere Commerce と一緒に使用する IBM 以外のソフトウェアは、WebSphere Commerce のインストールの前にインストールしておかなければなりません。IBM 以外のソフトウェアに関する説明は、本書の別の箇所ですべて説明されています。

IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1

現在 IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1 Workgroup Edition を使用している場合、それを IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1 Enterprise Edition にアップグレードする必要があります。

DB2 Application Development Client がインストール済みであることを確認してください。WebSphere Commerce を使用するには、DB2 Application Development Client を正しく機能させる必要があります。

現在 IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1 Enterprise Edition を使用している場合、DB2 バージョン 8.1 のフィックスパック 1 を適用する必要があります。

IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1 Enterprise Edition をすでにインストールしている場合、次のようにします。

1. 37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』に略述されているとおりに、WebSphere Application Server で必要なユーザー

ー ID を作成します。このようなユーザー ID に関する詳細は、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』に記載されています。

mqm とデータベース・ユーザー ID を除く任意のユーザー ID を、WebSphere Commerce の root 以外のユーザー ID として使用することができます。この root 以外のユーザー ID は、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments ノード上の任意のアプリケーション・サーバーの開始に使用します。アプリケーション・サーバーは、できる限り root で開始しないようにしてください。アプリケーション・サーバーを root で開始すると、主要な WebSphere Commerce ファイルの許可が変更されてしまうため、WebSphere Commerce が正しく機能しなくなるからです。

ユーザー ID とグループの作成方法の詳細は、オペレーティングの資料を参照してください。

そのユーザー ID 用のパスワードを必ず設定してください。パスワードなしでユーザー ID を作成することは可能だからです。そのユーザー ID にパスワードが関連付けられていないと、WebSphere Commerce は正しく機能しないことがあります。

2. WebSphere Commerce の root 以外のユーザー ID に関連したグループのリストに、DB2 隔離ユーザー・グループを追加します。

DB2 隔離ユーザー・グループの詳細は、DB2 Universal Database の資料を参照してください。

3. DB2 Universal Database を再始動します。

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26

テスト用の SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルの準備

IBM HTTP Server がすでにシステムにインストールされている場合、その SSL を必ず使用可能にしなければなりません。SSL を使用可能にすると、Web ブラウザーで次の URL をオープンできるはずです。

```
https://host_name
```

host_name は、IBM HTTP Server が稼働しているマシンの完全修飾ホスト名です。

上記の URL をオープンできない場合、Web サーバー上で SSL を使用可能にする必要があります。SSL の使用可能化に関する詳細は、IBM HTTP Server の資料を参照してください。

ショップパーに対してストアをオープンする前に、「*WebSphere Commerce* セキュリティー・ガイド」を読み直してください。

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26 および WebSphere Application Server バージョン 5.0

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26 と WebSphere Application Server バージョン 5.0 をすでにインストールしている場合、次のようにします。

1. WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルがあるか調べます。以下は、プラグイン構成ファイルの絶対パスです。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

2. plugin-cfg.xml ファイルの有無に応じて、以下のいずれかを行います。

- plugin-cfg.xml ファイルが存在する場合は、プラグインが `HTTPServer_installdir/conf/httpd.conf` ファイルに適用されていることを確認します。ファイルに、以下のような 4 行が存在しなければなりません。

```
Alias /IBMWebAS/ WAS_installdir/web/  
Alias /WSsamples WAS_installdir/WSsamples/  
LoadModule ibm_app_server_http_module WAS_installdir/bin/  
mod_ibm_app_server_http.so  
WebSpherePluginConfig WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

これらの行は一緒には存在しない場合があります。その場合、ファイルに対してテキスト検索を実行して、これらの行が存在するかどうか確認することができます。これらの行が脱落している場合には、ファイルの末尾に追加して、Web サーバーを再始動してください。

- plugin-cfg.xml ファイルが存在しない場合は、プラグインが `HTTPServer_installdir/conf/httpd.conf` ファイルに適用されていないことを確認します。ファイルに、以下のような 4 行が存在してはなりません。以下の 4 行のいずれかが存在する場合は、それをファイルから除去してください。

```
Alias /IBMWebAS/ WAS_installdir/web/  
Alias /WSsamples WAS_installdir/WSsamples/  
LoadModule ibm_app_server_http_module WAS_installdir/bin/  
mod_ibm_app_server_http.so  
WebSpherePluginConfig WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

これらの行は一緒には存在しない場合があります。その場合、ファイルに対してテキスト検索を実行して、これらの行が存在するかどうか確認することができます。これらの行のいずれかが存在する場合、それらを除去し、変更を保管した後、Web サーバーを再始動してください。

サポートされている Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプへのアクセスは、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上において Windows[®] オペレーティング・システムを実行しているマシンから、Microsoft[®] Internet Explorer 6.0 を使用するのが唯一の方法です。Internet Explorer は、フル・バージョン 6.0 のもの (別称は Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) あるいはそれ以降のものであって、しかも Microsoft— 社製の最新の重要なセキュリティー上の更新を適用されているものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールの機能は完全にはサポートされていません。

ショッパーは、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Windows 用の AOL 7 以上
- 以下の Microsoft Internet Explorer:
 - Windows の場合はバージョン 6 以上
 - Macintosh の場合はバージョン 5 以上

- 以下の Netscape:
 - Windows の場合はバージョン 6.1 以上
 - Linux の場合はバージョン 6.2.3 以上
- 以下の Netscape Navigator:
 - Windows の場合はバージョン 4.51 以上
 - Linux の場合はバージョン 4.79 以上

WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

どのポートが使用中かの判別に関する詳細は、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

重要

このセクションでは、WebSphere Commerce 付属のソフトウェアで必要なポートだけをリストしています。IBM 以外のソフトウェアで必要なポート番号については、IBM 以外のソフトウェアのパッケージ用の資料を参照してください。

ポート番号

使用するソフトウェア

- 21** FTP ポート。このポートは、リモート Web サーバーを使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するときに必要です。
- 80** IBM HTTP Server
- 389** Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) Directory Server
- 443** IBM HTTP Server - セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 1099** WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー。
- 2809** WebSphere Application Server ブートストラップ・アドレス。
- 5432** WebSphere Commerce Payments 非セキュア・サーバー。
- 5433** WebSphere Commerce Payments セキュア・サーバー。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 5557** WebSphere Application Server 内部 Java Messaging Service サーバー。
- 5558** WebSphere Application Server Java Messaging Service サーバーのキューに入られたアドレス。
- 5559** WebSphere Application Server Java Messaging Service の直接アドレス。

- 7873 WebSphere Application Server DRS クライアント・アドレス。
- 8000 WebSphere Commerce Tools。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8002 WebSphere Commerce 管理コンソール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8004 WebSphere Commerce 組織管理コンソール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8008 IBM HTTP Server 管理ポート。
- 8880 WebSphere Application Server SOAP Connector アドレス。
- 9043 WebSphere Application Server 管理コンソール・セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 9080 WebSphere Application Server HTTP トランスポート。
- 9090 WebSphere Application Server 管理コンソール・ポート。

注:

AIX では、AIX WebSM システム管理サーバーはデフォルトでこのポートを listen します。ポートの競合があると思われる場合、以下のコマンドを実行します。

```
netstat -an | grep 9090
```

一致するものがあれば、ポート 9090 ですでに別のプロセスが listen しているということです。

重要: ポート 9090 は使用可能でなければなりません。そうでないと、WebSphere Commerce がシステム上にインストールされません。

WebSM サーバーと WebSphere Application Server を共存させたい場合、以下のようにします。

1. WebSM サーバーを停止します。
2. /etc/services ファイルのポート 9090 の WebSM エントリを除去するかコメント化します。
3. WebSphere Commerce のインストールと構成を完了させます。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールの HTTP トランスポートのポートを変更します。詳しくは、WebSphere Application Server InfoCenter のトピック『Changing HTTP transport ports』を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

注: WebSphere Application Server 管理コンソールの HTTP トランスポート・ポートを変更する場合には、どのポートが使用されているかを覚えておくことが重要です。WebSphere Application Server 管理コンソールへのアクセスを必要とする WebSphere Commerce 指示はすべて、ポート 9090 を参照することになります。これはご使用の構成には適用されません。

お勧めしませんが、WebSM サーバーを使用不可にすることができます。WebSM サーバーを使用不可にするには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/websm/bin/wmsserver -disable
```

このコマンドは、WebSM サーバーの始動を永続的に使用不可にします。

詳しくは、WebSphere Application Server InfoCenter のトピック『Platform-specific tips for installing and migrating』の AIX に関する記事を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

- 9443** WebSphere Application Server HTTPS トランスポートのポート。
- 9501** WebSphere Application Server セキュア・アソシエーション・サービス。
- 9502** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 9503** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 50000** DB2 サーバー・ポート。
- 60000** 以上の少なくとも 1 つ以上のポート。
DB2 TCP/IP 通信。

WebSphere Commerce で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java のロケールだけが使用されます。使用する言語に該当するロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケールに関係するすべての環境変数には、WebSphere Commerce でサポートされているロケールを使用して設定するようにしてください。

表 1. WebSphere Commerce でサポートされる AIX ロケール・コード

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
ドイツ語	de_DE	de_DE
英語	en_US	en_US
スペイン語	es_ES	es_ES
フランス語	fr_FR	fr_FR
イタリア語	it_IT	it_IT
日本語	Ja_JP	Ja_JP
韓国語	ko_KR	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW	zh_TW

表 2. WebSphere Commerce でサポートされる Solaris オペレーティング環境のロケール・コード

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
ドイツ語	de_DE	de_DE.ISO8859-1
英語	en_US	en_US.ISO8859-1
スペイン語	es_ES	es_ES.ISO8859-1
フランス語	fr_FR	fr_FR.ISO8859-1
イタリア語	it_IT	it_IT.ISO8859-1

表 2. *WebSphere Commerce* でサポートされる *Solaris* オペレーティング環境のロケール・コード (続き)

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
日本語	ja_JP	ja_JP.eucJP
韓国語	ko_KR	ko_KR.EUC
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR	pt_BR.ISO8859-1
中国語 (簡体字)	zh_CN	zh_CN.GBK
中国語 (繁体字)	zh_TW	zh_TW.BIG5

ロケールを調べるには、次のコマンドを実行します。

```
echo $LANG
```

使用するロケールがサポートされていない場合、`root` ユーザーとして以下のコマンドを実行して、ロケールのプロパティを変更してください。

```
LANG=xx_XX  
export LANG
```

`xx_XX` は、上記の表に示されている 4 文字のロケール・コードです。大文字小文字の別は、表のとおりでなければなりません。

第 2 章 プリインストール要件

この章では、WebSphere Commerce をインストールする前に行う必要のあるステップについて説明します。ここで説明されているステップを実行するには、root ユーザー・アクセスが必要です。

それぞれのオペレーティング・システムに応じて、以下の項の説明に従ってインストール前提条件を調べてください。

- 『AIX の前提条件のハードウェアとソフトウェア』
- 13 ページの『Solaris オペレーティング環境の前提条件のハードウェアとソフトウェア』

AIX の前提条件のハードウェアとソフトウェア

AIX の前提条件ハードウェア

以下のような、IBM @server pSeries または IBM RS/6000[®] マシン・ファミリーに属する専用マシンが必要です。

- RS64: @server pSeries 620/660/680、RS/6000 F80/H80/M80
- Power3: @server pSeries 640、RS/6000 44P-170 または 44P-270
- Power4: Regatta

さらに、以下のハードウェア要件も満たす必要があります。

- 375 MHz のプロセッサ。
- 最初の WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンス用に、プロセッサ当たり 1GB 以上のランダム・アクセス・メモリー (RAM)。
- 追加の WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスのセットごとに、さらに 512 MB ずつの RAM。
- 6 GB 以上の空きディスク・スペース (以下のように割り振られた推奨ファイル・サイズのもの)。
 - /usr 4 GB (ブロック・サイズ 512 バイトで 8388608 ブロック)
 - /tmp 1 GB (ブロック・サイズ 512 バイトで 2097152 ブロック)
 - /home 1 GB (ブロック・サイズ 512 バイトで 2097152 ブロック)
- プロセッサ当たり 1GB 以上のページング・スペース。
- CD-ROM ドライブ。
- グラフィックス表示可能モニター。
- TCP/IP プロトコルがサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター。

AIX の場合の前提条件ソフトウェア

- システムで DNS が使用可能であり、ホスト名およびドメインが提示されることを確認してください。WebSphere Commerce では、純粋な IP アドレス環境はサポートされていません。
 - システムに Web ブラウザーがインストール済みであることを確認してください。
 - WebSphere Commerce は、32 ビット・モードでのみサポートされます。64 ビット・モードは活用されません。
 - WebSphere Commerce マシン上に AIX 5.1 保守レベル 02 以降が備わっていることを確認してください。コマンド `oslevel -r` を発行して、オペレーティング・システムのレベルを調べてください。
- このコマンドは、以下を戻すはずです。

5100-02

コマンドからの出力が -02 以上で終わっていない場合、誤った保守レベルの WebSphere Commerce を使用しているということです。次の IBM @server pSeries サポートから正しい保守レベルを取得してください。

<https://techsupport.services.ibm.com/server/support?view=pSeries>

- 以下の AIX APAR を必ずインストールしてください。
 - IY26221
 - IY29345
 - IY31254
 - IY32217
 - IY32905

以下のコマンドで、システムを参照して、特定の APAR がインストール済みかどうかを調べることができます。

```
instfix -v -i -k APAR_number
```

たとえば、

```
instfix -v -i -k IY31254
```

これらのパッチは次の Web サイトにあります。

<https://techsupport.services.ibm.com/server/aix.fdc>

- 以下のファイル・セットをインストールしなければなりません、これらは AIX 5.1 の基本のインストール内容には組み込まれていません。
 - X11.adt.lib
 - X11.adt.motif
 - X11.base.lib
 - X11.base.rte
 - X11.motif.lib
 - bos.adt.base
 - bos.adt.include
 - bos.rte.net

- bos.rte.libc
- bos.net.tcp.client

必要なすべてのファイル・セットがインストールされているかを判別し、それらをインストールする方法を調べるには、149 ページの『第 26 章 AIX のタスク』を参照してください。

- **Oracle** Oracle9i Database をインストールする予定の場合、以下のファイル・セットもインストールする必要があります。

- bos.adt.lib
- bos.adt.libm
- bos.perf.perfstat

必要なすべてのファイル・セットがインストールされているかを判別し、それらをインストールする方法を調べるには、149 ページの『第 26 章 AIX のタスク』を参照してください。

- 以下のコマンドを入力して、WebSphere Commerce を使用する際に使用する言語に適した文字ファイル・セットがインストールされていることを確認します。

```
lspp -l X11.fnt.ucs.ttf*
```

WebSphere Commerce を使用する際の言語に応じて、次のファイル・セットが表示されるはずですが、

- X11.fnt.ucs.ttf (単一バイト文字と日本語文字の表示の場合)
- X11.fnt.ucs.ttf_KR (韓国語文字の表示の場合)
- X11.fnt.ucs.ttf_TW (中国語 (簡体字) 文字の表示の場合)
- X11.fnt.ucs.ttf_CN (中国語 (繁体字) 文字の表示の場合)

- スタック割り当て量の限度が少なくとも 32768 であることを確認します。現在の限度を調べるには、コマンド・ウィンドウに次のように入力します。

```
ulimit -a
```

戻されたスタックの値が 32768 より小さい場合、以下のコマンドを実行して増加します。

```
ulimit -s 32768
```

Solaris オペレーティング環境の前提条件のハードウェアとソフトウェア

Solaris オペレーティング環境の前提条件ハードウェア

Solaris 8 Operating Environment (SPARC プラットフォーム版) ソフトウェアをサポートするプロセッサ (Sun SPARC または UltraSPARC ステーションなど)。ただし、以下の仕様のもの。

- 400 MHz のプロセッサ。
- 最初の WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments 用に、プロセッサあたり 1GB 以上のランダム・アクセス・メモリー (RAM)。
- 追加の WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスのセットごとに、さらに 512 MB ずつの RAM。

- 必須コンポーネントとオプション・コンポーネントのすべてをインストールする場合は、6 GB 以上の空きディスク・スペース (以下のように割り振られた推奨ファイル・サイズのもの)。
 - /opt: 4 GB
 - /export: 1 GB
 - /tmp: 1 GB
- プロセッサあたり 1 GB 以上のスワップ・スペース。
- TCP/IP プロトコル・スタックを使用してネットワーク接続を確立する通信ハードウェア・アダプター。
- CD-ROM ドライブ。
- グラフィックス表示可能モニター。

注: WebSphere Commerce において、Solaris 8 Operating Environment (Intel プラットフォーム版) ソフトウェアはサポートされていません。

Solaris オペレーティング環境の前提条件ソフトウェア

- システムで DNS が使用可能であり、ホスト名およびドメインが提示されることを確認してください。WebSphere Commerce では、純粋な IP アドレス環境はサポートされていません。
- システムに Web ブラウザーがインストール済みであることを確認してください。
- WebSphere Commerce は、64 ビット・システム上では 32 ビット互換モードでのみサポートされます。64 ビット・モードは活用されません。
- Solaris 8 Operating Environment (SPARC プラットフォーム版) ソフトウェアがメンテナンス更新 5 (MU5) 以上であって、最新の Solaris 推奨パッチ・クラスタを適用されていることを確認してください。
- 15 ページの『DB2 Universal Database 用の Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーターの更新』の解説どおりにカーネルが構成されていることを確認してください。
- 以下に示されているレベル以上の Solaris パッチがインストールされていることを確認してください。
 - 108434-03
 - 108652-27
 - 108528-12
 - 108827-01
 - 108921-12
 - 108940-24
 - 109147-16

パッチ・レベルは、`showrev -p` コマンドを使用して確認できます。 `showrev -p` コマンドの使用方法については、Solaris の資料をご覧ください。

- スタック割り当て量の限度が少なくとも 32768 であることを確認します。現在の限度を調べるには、コマンド・ウィンドウに次のように入力します。

```
ulimit -a
```

戻されたスタックの値が 32768 より小さい場合、以下のコマンドを実行して増加します。

```
ulimit -s 32768
```

DB2 Universal Database 用の Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーターの更新

重要

DB2 Universal Database を WebSphere Commerce で使用する場合、Solaris オペレーティング環境 カーネル・パラメーターを、以下の図のように設定しなければなりません。複数層の構成を使用している場合、それらのパラメーターが設定されていなければならないのは、DB2 Universal Database ノードのみです。

指示に従ってパラメーターを設定しない場合、DB2 Universal Database は DB2 インスタンス ID を作成できません。

Solaris オペレーティング環境 カーネル・ファイル・パラメーターを設定したら、変更内容を実際に適用するために、マシンを再起動することが必要です。

ユーザー ID root としてログインし、テキスト・エディターを使用して、Solaris オペレーティング環境 カーネル・ファイル /etc/system に以下のパラメーターを追加してください。カーネル・パラメーターを設定するには、ファイル /etc/system の末尾に次のような行を追加します。

```
set parameter-name=value
```

カーネル・ファイルに入力するステートメントでは、末尾にスペースを入力しないようにしてください。システムに適用される構成に基づいて、以下のパラメーターの値を選択してください。

表 3. Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーター (最小必要値)

カーネル構成 パラメーター	物理メモリー			
	64 MB ~ 128 MB	128 MB ~ 256 MB	256 MB ~ 512 MB	512 MB+
msgsys:msginfo_msgmax	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)
msgsys:msginfo_msgmnb	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)
msgsys:msginfo_msgmap	258	514	1026	1026
msgsys:msginfo_msgmni	256	512	1024	1024
msgsys:msginfo_msgssz	16	16	32	32
msgsys:msginfo_msgtql	512	1024	2048	2048
msgsys:msginfo_msgseg	8192	16384	32767 (2)	32767 (2)
shmsys:shminfo_shmmax	67108864 (3)	134217728 (3)	4294967295 (3)	4294967295 (3)
shmsys:shminfo_shmseg	100	100	100	100
shmsys:shminfo_shmmni	1024	1024	1024	1024

表 3. Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーター (最小必要値) (続き)

カーネル構成 パラメーター	物理メモリー			
	64 MB ~ 128 MB	128 MB ~ 256 MB	256 MB ~ 512 MB	512 MB+
semsys:seminfo_semmni	256	512	1024	2048
semsys:seminfo_semmsl	250	250	250	250
semsys:seminfo_semmap	260	516	1028	2050
semsys:seminfo_semms	512	1024	2048	4096
semsys:seminfo_semopm	100	100	100	100
semsys:seminfo_semnu	256	512	1024	4096
semsys:seminfo_sevmx	32767	32767	32767	32767
semsys:seminfo_semume	50	50	50	50

注:

1. msgsys:msginfo_msgmnb と msgsys:msginfo_msgmax の 2 つのパラメーターは、65535 以上に設定しなければなりません。
2. msgsys:msginfo_msgseg パラメーターは、32767 以下に設定しなければなりません。
3. パラメーター shmsys:shminfo_shmmax には、上記の表に示される推奨値または物理メモリーのバイト数の 200 % のうち、高い方の値を設定してください。たとえば、システムの物理メモリーが 256 MB の場合、パラメーター shmsys:shminfo_shmmax を 536870912 (つまり 256*1024*1024*2) に設定します。

DB2 DB2 Universal Database でこのパラメーターを調整する方法の詳細は、「*IBM DB2 Universal Database 概説およびインストール*」を参照してください。

注: Solaris オペレーティング環境 カーネル・パラメーターを更新した後、マシンを再始動してください。

Oracle9i Database 用の Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーターの更新

Oracle9i Database が必要とする Solaris オペレーティング環境 カーネル・パラメーターの変更について詳しくは、Oracle9i Database 資料を参照してください。

ネットワーク構成要件

ハードウェアおよびソフトウェア要件のほかに、システムのネットワーク構成が以下の要件を満たしているかを確認してください。

- システムに解決可能なドメイン・ネームがあること。
ドメイン・ネームと組み合わされたホスト名は完全修飾ホスト名です。例えば、ホスト名が *system1* でドメインが *ibm.com* ならば、完全修飾ホスト名は *system1.ibm.com* です。

以下のコマンドをコマンド・プロンプト・セッションから発行すると、システムの IP アドレスが返されます。

```
nslookup 'fully_qualified_host_name'
```

システムの正しい IP アドレスが応答されれば、正常に設定されています。

- システムの IP アドレスはホスト名 (ドメインを含む) に解決される必要があります。IP アドレスが完全修飾ホスト名と対応しているか判別するには、コマンド・プロンプト・セッションを開始して以下のコマンドを実行します。

```
nslookup 'IP_address'
```

システムの正しい完全修飾ホスト名が応答されれば、正常に設定されています。

README ファイルの確認

README ファイルの内容の確認は、WebSphere Commerce のインストールにおける重要な前提条件です。README ファイルには、本製品に対する最新の変更に関する情報が記載されています。最新の変更には、WebSphere Commerce の使用前にインストールする必要がある追加のフィックスが入っていることがあります。

README ファイルに一覧で示されているすべての最新のフィックスをインストールしないと、WebSphere Commerce が正しく機能しない原因になります。

README ファイルは、WebSphere Commerce ディスク 1 CD のルート・ディレクトリに置かれています。README ファイルの名前は以下のとおりです。

```
readme_language_code.htm
```

ただし *language_code* は以下のいずれかです。

言語	言語コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

その他の要件

さらに、以下を実行する必要があります。

- WebSphere Commerce をインストールする前に、Web サーバー、Java アプリケーション・サーバー、および必須ではない Java プロセスが停止されていることを確認します。

- WebSphere Commerce をインストールする前に、他の InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了または停止しているか確認してください。
- マシン上で Lotus Notes™ などのサーバーが実行されている場合には、そのサーバーを停止します。現在ポート 80、443、5442、5443、8000、8002、および 8004 を使用している Web サーバーがマシン上にあれば無効にしてください。

第 3 章 WebSphere Commerce のインストール方法

この章では、WebSphere Commerce を正常にインストールするために実行する必要のあるステップの概要を述べています。

WebSphere Commerce のインストールと構成を正常に完了するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce の構成計画を立てます。

構成の計画では、データベースや Web サーバーなどの WebSphere Commerce のさまざまなコンポーネントのインストール先のマシンの数を決める必要があります。

39 ページの『インストール・タイプの選択』に記載されている WebSphere Commerce インストール・ウィザードでサポートされているインストール構成の解説を参考にして、構成の計画を立ててください。

2. 計画上の構成内のすべてのノードが、11 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に概略されている前提条件を満たしていることを確認します。

3. 21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』に記載されている解説に従って、データベースをインストールおよび構成します。

データベースのインストールと構成の前に、必ずこのセクションの章をすべて読み直してください。

4. 29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』に記載されている解説に従って、Web サーバーをインストールおよび構成します。

Web サーバーのインストールと構成の前に、必ずこのセクションの章をすべて読み直してください。

5. WebSphere Commerce で必要な、オペレーティング・システムのユーザー ID とグループを作成します。詳細は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』を参照してください。

6. WebSphere Commerce インストール・ウィザードの完了に必要なすべての ID およびその他の情報を収集します。この情報については、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』に略述されています。

7. 38 ページの『プリインストール・チェックリスト』に記載されているインストール前のチェックリストに記入して、WebSphere Commerce のインストールの準備ができたことを確認します。

8. 計画上の構成と、35 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce のインストール』に記載されている情報に従って、WebSphere Commerce をインストールします。

WebSphere Commerce のインストールと構成の前に、必ずこのセクションの章をすべて読み直してください。

9. 71 ページの『第 5 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に示されている情報を参考に、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成します。

重要

WebSphere Commerce インスタンスを作成するときには、サイト管理者のユーザー ID とパスワードを作成します。このユーザー ID とパスワードを覚えておくことが大切です。これが、インスタンスの作成後に、WebSphere Commerce 管理コンソール、WebSphere Commerce 組織管理コンソール、および WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスするための唯一のユーザー ID となるからです。

サイト管理者パスワードを忘れてしまった場合は、144 ページの『サイト管理者パスワードのリセット』の説明に従って、パラメーターをリセットできます。

サイト管理者 ID を忘れてしまった場合は、146 ページの『サイト管理者 ID のリカバリー』の説明に従って、ID をリカバリーできます。

10. 87 ページの『第 16 章 インスタンス作成後の必須タスク』に略述されているインスタンス作成後の必須タスクを実行します。

これらのステップを完了すると、89 ページの『第 17 章 インスタンス作成後の推奨タスク』に略述されているすべてのタスクを実行する準備ができたこととなります。

第 2 部 データベースのインストール

WebSphere Commerce は、DB2 データベースと Oracle データベースをサポートします。データベースは、他の WebSphere Commerce コンポーネントと同じノード上にインストールしても、またはリモート・ノードにインストールしてもかまいません。

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments と同じノード上で実行するデータベースの使用を計画している場合、23 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce でのローカル・データベースの使用』の解説に従ってください。

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のものとは異なるノード上で実行するデータベースの使用を計画している場合、25 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce でのリモート・データベースの使用』の解説に従ってください。

第 4 章 WebSphere Commerce でのローカル・データベースの使用

この構成では、WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、およびデータベース管理システムは、同じノードにインストールされます。

ローカル WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用

ローカル WebSphere Commerce データベースとして DB2 Universal Database を使用する場合、さらに別のステップは必要ありません。WebSphere Commerce の作成の一環として、DB2 Universal Database がインストールされ、WebSphere Commerce データベースが作成されて構成されます。29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』の解説に従って、WebSphere Commerce のインストールを先に進めます。

ローカル WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用

Oracle9i Database を WebSphere Commerce データベースとして使用する場合、WebSphere Commerce のインストールの前に、Oracle9i Database をインストールして構成しておく必要があります。

Oracle9i Database の資料の解説に従って、以下の Oracle9i Database コンポーネントを必ずインストールしてください。

- Oracle9i データベース
- Oracle Net Services
- Oracle Net Listener
- Oracle JDBC/OCI Interface

Oracle9i Database のインストールが完了したら、WebSphere Commerce のインストールの前に WebSphere Commerce で使用するデータベースを作成して構成する必要があります。データベースの設定値は、27 ページの『第 6 章 WebSphere Commerce 用の Oracle9i Database の設定』に一覧で示されています。

WebSphere Commerce の「インスタンス作成ウィザード」で「新規データベースまたはテーブル・スペースの作成」を選択すると、このウィザードは以下のことを行います。

- WebSphere Commerce スキーマ用の Oracle9i Database ユーザー ID を作成します。
- WebSphere Commerce 用のテーブル・スペースを作成します。
- WebSphere Commerce テーブル・スペースへの移植を行います。

WebSphere Commerce Payments の「インスタンス作成ウィザード」で「**新規データベースまたはテーブル・スペースの作成**」を選択すると、このウィザードは以下のことを行います。

- WebSphere Commerce Payments 用の Oracle9i Database ユーザー ID を作成します。
- WebSphere Commerce Payments 用のテーブル・スペースを作成します。
- WebSphere Commerce Payments テーブル・スペースへの移植を行います。

次のステップ

この章の解説どおりに実行し終わったら、29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』の解説に従って、WebSphere Commerce のインストールを先に進めます。

第 5 章 WebSphere Commerce でのリモート・データベースの使用

この構成では、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce データベース管理システムは、別々のノードにインストールされます。

リモート WebSphere Commerce データベースとしての DB2 Universal Database の使用

リモート WebSphere Commerce データベースとして DB2 Universal Database を使用する場合、さらに別のステップは必要ありません。WebSphere Commerce インストール・ウィザードは、WebSphere Commerce ノード上で DB2 管理クライアントをインストールして構成します。WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用してデータベース・サーバー・ノードに DB2 Universal Database をインストールすることもできます。

リモート WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用

Oracle9i Database Release 2, Enterprise Edition または Standard Edition を WebSphere Commerce データベースとして使用する場合、WebSphere Commerce のインストールの前に、Oracle9i Database をインストールしておく必要があります。Oracle9i Database を WebSphere Commerce データベースとしてインストールするには、以下のようにします。

1. Oracle9i Database の資料の解説に従って、以下の Oracle9i Database コンポーネントを Oracle9i Database サーバー・ノードにインストールします。
 - Oracle9i データベース
 - Oracle Net Services
 - Oracle Net Listener
 - Oracle JDBC/OCI Interface

既存の WebSphere Commerce バージョン 5.5 データベースを Oracle9i Database サーバー上で使用する予定の場合、このステップをスキップすることができます。既存の WebSphere Commerce バージョン 5.4 (またはそれ以下) データベースを WebSphere Commerce バージョン 5.5 で使用することはできません。まず、既存のデータベースを WebSphere Commerce バージョン 5.5 にマイグレーションする必要があります。データベースのマイグレーションの詳細は、「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」を参照してください。

2. Oracle9i Database の資料の解説に従って、以下の Oracle9i Database コンポーネントを WebSphere Commerce (Oracle9i Database クライアント) ノードにインストールします。
 - Oracle9i Enterprise Client
 - SQL*Plus

- Oracle JDBC/Thin Interface
 - Oracle JDBC/OCI Interface
 - Oracle ネットワーク・ユーティリティー
3. WebSphere Commerce および Oracle9i Database サーバー・ノードとは異なるノード上に WebSphere Commerce Payments を置く予定の場合、ステップ 2 (25 ページ) を WebSphere Commerce Payments ノード上で繰り返します。
 4. Oracle9i Database の資料の解説に従って、Oracle9i Database クライアントおよびサーバーが、正しく通信できるように構成されていることを確認します。

Oracle9i Database のサーバーおよびクライアントのインストールが完了したら、WebSphere Commerce のインストールの前に WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments で使用するデータベースを作成して構成する必要があります。データベースの設定値は、27 ページの『第 6 章 WebSphere Commerce 用の Oracle9i Database の設定』に一覧で示されています。Oracle9i Database の作成と構成に関する説明は、Oracle9i Database の資料を参照してください。

WebSphere Commerce の「インスタンス作成ウィザード」で「**新規データベースまたはテーブル・スペースの作成**」を選択すると、このウィザードは以下のことを行います。

- WebSphere Commerce スキーマ用の Oracle9i Database ユーザー ID を作成します。
- WebSphere Commerce 用のテーブル・スペースを作成します。
- WebSphere Commerce テーブル・スペースへの移植を行います。

WebSphere Commerce Payments の「インスタンス作成ウィザード」で「**新規データベースまたはテーブル・スペースの作成**」を選択すると、このウィザードは以下のことを行います。

- WebSphere Commerce Payments 用の Oracle9i Database ユーザー ID を作成します。
- WebSphere Commerce Payments 用のテーブル・スペースを作成します。
- WebSphere Commerce Payments テーブル・スペースへの移植を行います。

次のステップ

この章の解説どおりに実行し終わったら、29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』の解説に従って、WebSphere Commerce のインストールを先に進めます。

第 6 章 WebSphere Commerce 用の Oracle9i Database の設定

この章では、WebSphere Commerce で使用する際に推奨される Oracle9i Database データベースの設定について述べています。

注:

1. WebSphere Commerce は Oracle9i Database Release 2, Enterprise Edition または Standard Edition のみをサポートします。
2. この章で推奨されているとおりにデータベース設定を変更するには、Oracle9i Database の高度な知識 (DBA レベル) が必要です。
3. Oracle9i Database について詳しくは、<http://www.oracle.com> にアクセスしてください。 <http://otn.oracle.com> からは、Oracle9i Database 資料とソフトウェアのコピーを入手できます。 Oracle9i Database に関するこの章の情報は、ガイドラインにすぎません。
4. Oracle9i Database の用語や概念について詳しくは、Oracle9i Database 製品に付属の *Oracle 9i Concepts* を参照してください。

重要

この章では、インストールしようとしている WebSphere Commerce の構成にとって正しい Oracle9i Database コンポーネントをインストール済みであることが前提になっています。 Oracle9i Database をまだインストールしていない場合、以下の WebSphere Commerce 構成に該当する項を参照してください。

- 23 ページの『ローカル WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用』
- 25 ページの『リモート WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用』

WebSphere Commerce に必要な Oracle9i Database の設定

以下の表は、WebSphere Commerce で Oracle9i Database を使用するときに必要なかつ強くお勧めするデータベース・パラメーター設定を一覧で示しています。

表 4. Oracle9i Database に必要なデータベース・パラメーター設定

パラメーター	値
データベース文字セット	UTF-8
国別文字セット	UTF-8

データベース・パラメーターの設定または変更に関する解説は、Oracle9i Database の資料を参照してください。

WebSphere Commerce 用にお勧めする Oracle9i Database の設定

以下の表は、WebSphere Commerce で Oracle9i Database を使用するときを設定するお勧めのデータベース・パラメーターを、一覧で示しています。

表 5. Oracle9i Database 用の推奨データベース・パラメーター設定

パラメーター	値
ブロック・サイズ	4KB
db_cache_size	120MB
open_cursors	1000
pga_aggregate_target	50MB
shared_pool_size	120MB
sort_area_size	655350

データベース・パラメーターの設定または変更に関する解説は、Oracle9i Database の資料を参照してください。

第 3 部 Web サーバーのインストール

WebSphere Commerce は、オペレーティング・システムに応じてさまざまな Web サーバーをサポートします。

AIX

WebSphere Commerce は、Web サーバーとして IBM HTTP Server をサポートします。Web サーバーは、他の WebSphere Commerce コンポーネントと同じマシン上にインストールしても、またはリモート・マシンにインストールしてもかまいません。

WebSphere Commerce をインストールする際に IBM HTTP Server を Web サーバーとして選択する場合、IBM HTTP Server がインストールされます。次に、35 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce のインストール』に進んでください。

Solaris

WebSphere Commerce は、Web サーバーとして IBM HTTP Server と Sun ONE Web Server をサポートします。Web サーバーは、他の WebSphere Commerce コンポーネントと同じマシン上にインストールしても、またはリモート・マシンにインストールしてもかまいません。

WebSphere Commerce をインストールする際に IBM HTTP Server を Web サーバーとして選択する場合、IBM HTTP Server がインストールされます。次に、35 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce のインストール』に進んでください。

Sun ONE Web Server を Web サーバーとして使用する場合、その他の WebSphere Commerce コンポーネントのインストールの前に第 3 部の該当章に記載されている作業を行う必要があります。この後の章の説明に従って Web サーバーをインストールしてから、35 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce のインストール』に進んでください。

第 7 章 Sun ONE Web Server のインストール

WebSphere Commerce には IBM HTTP Server バージョン 1.3.26 のコピーが組み込まれていますが、Web サーバーとして Sun ONE Web Server, Enterprise Edition 6.0 も使用できます。Sun ONE Web Server を使用する場合は、WebSphere Commerce の他のコンポーネントをインストールする前に、この章の該当するステップを完了する必要があります。

Sun ONE Web Server のインストールと構成

Web サーバーとして Sun ONE Web Server, Enterprise Edition 6.0 を使用する場合は、以下のステップを完了してください。

1. Sun による指定手順に従って、Sun ONE Web Server をインストールします。次のコンポーネントを必ずインストールしてください。

- Sun ONE Web Server, Enterprise Server
- Server Core
- Java ランタイム環境
- Java Support
- SSJS Support
- SSJS Database Support

「Use Custom JDK (カスタム JDK を使用)」を選択しないでください。

重要

Sun ONE Web Server は、必ずデフォルト・ロケーションにインストールしてください。Sun ONE Web Server のインストール・ロケーションを変更すると、WebSphere Commerce のインストール・ウィザードは Sun ONE Web Server がインストールされていることを認識しなくなるので、WebSphere Commerce のインストールが失敗することになります。

2. Sun ONE Web Server の資料の中の解説に従って、以下の仮想サーバーを確実に作成します。

- ポート 80 上に非 SSL 通信
- ポート 443 上に SSL 通信
- ポート 8000 上に SSL 通信
- ポート 8002 上に SSL 通信
- ポート 8004 上に SSL 通信

WebSphere Commerce とともに WebSphere Commerce Payments を使用する計画の場合は、以下の仮想サーバーも作成してください。

- ポート 5432 上に非 SSL 通信
- ポート 5433 上に SSL 通信

重要: 仮想サーバーは必ず必要なポートに対してのみ作成してください。必要なポートごとにそれぞれ個別に Web サーバーを作成すると、WebSphere Commerce が正しく機能しなくなってしまう。

3. Sun ONE Web Server の資料の手順に従って、証明権限によって署名されたセキュア証明書をインストールします。
4. Web ブラウザーを開いて以下の URL にアクセスし、Sun ONE Web Server のインストールと構成をテストします。

```
http://SunONEWebServer_hostname  
https://SunONEWebServer_hostname  
https://SunONEWebServer_hostname:8000  
https://SunONEWebServer_hostname:8002  
https://SunONEWebServer_hostname:8004
```

WebSphere Commerce とともに WebSphere Commerce Payments を使用する計画の場合は、以下の URL もテストしてください。

```
http://SunONEWebServer_hostname:5432  
https://SunONEWebServer_hostname:5433
```

ただし *SunONEWebServer_hostname* は、Sun ONE Web Server マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

事前に仮想サーバーの作成を正常に完了していれば、各 URL ごとにデフォルトの Sun ONE Web Server ページが表示されるはずですが、ページが表示されないか、または他のエラーが発生した場合、WebSphere Commerce と併用できるように Sun ONE Web Server が正しく構成されていないということです。

このステップを完了しないかぎり、WebSphere Commerce のインストールを先に進めないでください。このステップを正常に完了しないまま WebSphere Commerce のインストールを続行すると、WebSphere Commerce のインストールと構成は失敗します。

問題の解決法の詳細は、Sun ONE Web Server の文書を参照してください。

重要

デフォルトでは、Sun ONE Web Server からサービスを受けられるどのファイルにでも外部ユーザーからアクセスすることができます。セキュリティ上の理由から、Web ディレクトリーへのアクセスを制限する必要があります。ファイルおよびディレクトリーへのアクセスの制限については、Sun ONE Web Server の文書を参照してください。さらに、obj.conf ファイルをオープンして NameTrans エントリーを探す必要があります。ターゲットのディレクトリー内のファイルが保護されていることを確認します。

また、WebSphere Commerce をインストールし、構成すると、以下のディレクトリーとファイルの所有権が変わり、WebSphere Commerce 構成マネージャーがファイルを構成できるようになります。

```
SunONE_installdir/https-admserv/config/  
SunONE_installdir/https-admserv/config/magnus.conf  
SunONE_installdir/https-host_name/config/  
SunONE_installdir/https-host_name/config/magnus.conf  
SunONE_installdir/https-host_name/config/identifier.obj.conf
```

注: 定義済みの WebSphere Commerce Web サーバー・ポートまたは WebSphere Commerce Payments Web サーバー・ポートごとに、1 つの obj.conf ファイルがあります。変数は次のように定義されています。

SunOne_installdir

このパスのデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

host_name

これは、Web サーバーのホスト名 (完全修飾ではない) です。

identifier

これは、Web サーバーと関連付けられている仮想サーバーのさまざまな構成の識別に使用される obj.conf ファイル名の一部です。

次のステップ

以上で Sun ONE Web Server のインストールと構成は完了したので、次に 35 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce のインストール』の説明に従って WebSphere Commerce をインストールすることができます。

第 4 部 WebSphere Commerce のインストール

第 8 章 WebSphere Commerce のインストール前に

この章では、WebSphere Commerce インストール・ウィザードの使用の前に何を実行する必要があるかについて説明します。WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用する前に、以下を行う必要があります。

1. WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments の予定インストール先の任意のマシン上で、WebSphere Application Server で必要なユーザー ID およびグループを作成します。詳細は、『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. プリインストール・チェックリストを完了して、プリインストール要件がすべて満たされていることを確認します。プリインストール・チェックリストは、38 ページの『プリインストール・チェックリスト』に用意されています。
3. 39 ページの『インストール・タイプの選択』に述べられている解説に基づいて、インストール・タイプを選びます。この項の説明では、選択したタイプのインストールを完了するための具体的な指示を述べています。

必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー クライアントを含む WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするマシンで、以下のようにします。

1. root でログオンします。
2. root 以外のユーザー ID を作成して、その新規ユーザー ID にパスワードを与えます。

このユーザー ID を使用して、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のアプリケーション・サーバー、WebSphere Commerce 構成マネージャー サーバーおよびクライアントを開始しなければなりません。root を使用してこれらのコンポーネントを開始すると、許可に関する問題が生じて、WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー が誤って機能する原因となります。

デフォルトで WebSphere Commerce インストール・ウィザードは、root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID として **wasuser** を指定し、root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID のグループ ID として **wasgroup** を指定します。このユーザーとグループを作成することもできますし、作成するユーザー ID とグループでインストール・ウィザードのデフォルト値を置換することもできます。

3. 新規ユーザー・グループを作成して、その新グループに root 以外のユーザー ID を追加します。

root 以外のユーザー ID、root 以外のユーザーのユーザー・グループ ID、およびその root 以外のユーザーのホーム・ディレクトリーの絶対パスを書き留めておきます。この情報は、WebSphere Commerce インストール・ウィザードの実行で必要になります。


4. mqm というユーザー ID を作成して、そのユーザー ID にパスワードを与えます。
5. 以下のユーザー・グループを作成します。
 - mqm
 - mqbrkrs
6. 以下のユーザーを mqm ユーザー・グループに追加します。
 - mqm
 - root
7. 以下のユーザーを mqbrkrs ユーザー・グループに追加します。
 - root
8. ログオフします。
9. root でログオンして、グループ・メンバーシップが有効化されるようにします。

ユーザーの作成、ユーザー・グループの作成、およびグループに対するユーザーの追加についての詳細は、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

WebSphere Commerce インストール・ウィザードの開始の前に、これらのユーザー ID とグループが正しくセットアップされていないと、インストール・ウィザードは、ウィザードが必要なユーザーとグループが存在するかどうかを調べるところから先には進めません。

プリインストール・チェックリスト

WebSphere Commerce のインストールの前に以下のチェックリストを実行して、必ずプリインストール要件をすべて満たすようにしてください。

- インストール計画におけるすべてのシステムは、11 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に概略されているハードウェアとソフトウェアの要件を満たしている。
- WebSphere Commerce に必要なすべてのポートが使用可能である。
WebSphere Commerce に必要なポートは、7 ページの『WebSphere Commerce で使用されるポート番号』に一覧で示されています。
- インストール計画内のすべてのノードのマシン上に正しいロケール・コードが設定されている。WebSphere Commerce に必要なロケール・コードは、9 ページの『WebSphere Commerce で使用されるロケール』に一覧で示されています。
-  DB2 Universal Database をデータベースとして使用する予定の場合、15 ページの『DB2 Universal Database 用の Solaris オペレーティング環境 カーネル構成パラメーターの更新』の説明どおりにカーネル・パラメーターが設定されている。
- WebSphere Commerce インストール・ウィザードの実行に必要なすべての ID、パスワード、およびその他の情報がそろっている。WebSphere Commerce インストール・ウィザードの実行に必要な情報は、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』に一覧で示されています。

- WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・ユーザー ID とグループが作成済みかつ正しく構成済みである。その ID、グループ、および構成については、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』に説明されています。
- WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の開始と実行に必要な root 以外のユーザー ID が作成済みであって、そのユーザー ID 用のパスワードが設定済みである。このユーザー ID の詳細は、46 ページの『インストール・ウィザードの処理の完了に必要なユーザー ID』に記載されています。
- **Oracle** Oracle9i Database をデータベースとして使用する場合、21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』の説明どおりにそのデータベースがすでにインストール済みである。
- **Oracle** リモート Oracle9i Database サーバーを設ける予定の場合、25 ページの『リモート WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用』に説明されているとおりに、その Oracle9i Database がデータベース・ノードにインストール済みであって、Oracle9i Database クライアントが WebSphere Commerce ノード上で構成済みである。WebSphere Commerce ノードで SQL*Plus が正常に稼働することを確認してください。
- **Solaris** Sun ONE Web Server を実行する場合、29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』の説明に従ってすでにインストール済みである。
- 事前インストール済みの Web サーバーはすべて停止している。WebSphere Commerce のインストール中にマシン上で Web サーバーが稼働していると、インストールは正常に完了しなくなります。
- Java アプリケーション・サーバーおよび必須ではない Java プロセスを停止している。
- 他の InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了しているか、停止している。

重要

このチェックリストを完了しないと、インストールが失敗したり、WebSphere Commerce とそのコンポーネントで予想外の振る舞いが生じたりすることになります。WebSphere Commerce とそのコンポーネントのインストール先のシステムにおいて、このチェックリストに略述されているすべての要件を満たすことを強くお勧めします。

インストール・タイプの選択

以下に、WebSphere Commerce インストール・ウィザードで利用できるインストール・タイプについて説明します。説明をよく読んで、インストール・タイプを選択してから、選択したインストール・タイプに該当する解説中の参照情報に進んでください。

WebSphere Commerce インストール・ウィザードでは、次のインストール・タイプを選択することができます。

- 『クイック・インストール』
- 『標準 1 ノード・インストール』
- 41 ページの『標準 3 ノード・インストール』
- 43 ページの『カスタム・インストール』

クイック・インストール

この場合、何もコンポーネントがノード上にないかぎり、以下のコンポーネントが 1 つのノードにインストールされます。

- IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1
- IBM HTTP Server バージョン 1.3.26
- WebSphere Application Server の基本製品、バージョン 5.0
- WebSphere Commerce バージョン 5.5 (WebSphere Commerce Payments も含む)

クイック・インストールでは WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスも作成されます。

IBM 以外のソフトウェアのクイック・インストールはサポートされていません。

クイック・インストールの実行に関する指示は、「*WebSphere Commerce* クイック・スタート」に述べられています。

標準 1 ノード・インストール

この場合、すべての WebSphere Commerce ソフトウェアが 1 つのノードにインストールされます。たとえば、データベース、Web サーバー、WebSphere Application Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバーなどがインストールされます。

このインストールはクイック・インストールと似ていますが、以下の相違点があります。

- WebSphere Commerce にサポートされているデータベースであり、かつ必要なバージョン・レベルである限り、プリインストールされたデータベースがサポートされる。
- WebSphere Commerce にサポートされている Web サーバーであり、かつ必要なバージョン・レベルである限り、プリインストールされた Web サーバーがサポートされる。
- WebSphere Commerce にサポートされているバージョン・レベルである限り、プリインストールされた WebSphere Application Server がサポートされる。
- IBM 以外のソフトウェアが標準 1 ノード・インストールによりサポートされています。
- WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスはインストール・プロセスの一部として作成されません。

標準 1 ノード・インストールの実行については、49 ページの『第 10 章 標準インストールの実行』に説明されています。

標準 3 ノード・インストール

この場合、以下の 3 つのノードに振り分けて WebSphere Commerce ソフトウェアがインストールされます。

- 第 1 ノード: データベース
- 第 2 ノード: Web サーバー
- 第 3 ノード: WebSphere Application Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバー

すべてのノードが、11 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に一覧で示されているオペレーティング・システム要件を満たす同一のオペレーティング・システムを実行していなければなりません。

3 ノード・インストールの実行に関する説明は、49 ページの『第 10 章 標準インストールの実行』に述べられています。

重要: 上記にリストされている順序どおりに、コンポーネントを標準 3 ノード・インストールでインストールする必要があります。インストールを完了するために、前のノードに関する情報を必要とするノードもあります。

次ページの図は、標準 3 ノード・インストールでさまざまな WebSphere Commerce コンポーネントが分散化される方法を示しています。

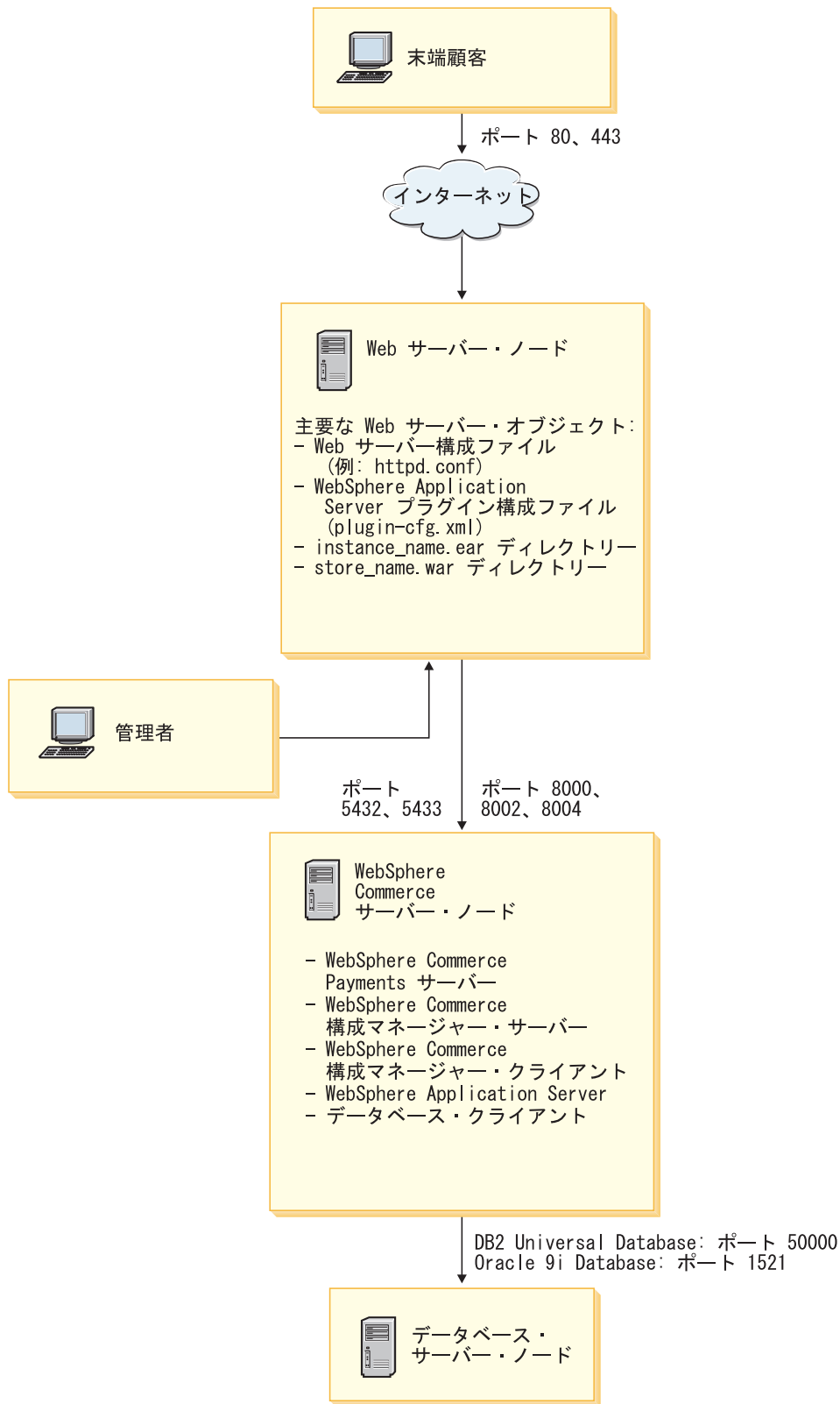


図 1. 標準 3 ノード・インストール

カスタム・インストール

カスタム・インストールを使用すると、複数のノードに WebSphere Commerce コンポーネントをインストールすることができます。すべてのノードが、11 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に一覧で示されているオペレーティング・システム要件を満たす同一のオペレーティング・システムを実行していなければなりません。

カスタム・インストールを実行するシナリオ例を以下に示します。

- 他のインストール・オプションによってサポートされない WebSphere Commerce のトポグラフィーをインストールしたい場合。たとえば、データベース・サーバーを 1 つのノードに、他のすべての WebSphere Commerce コンポーネントをもう 1 つのノードにインストールする 2 ノード・インストール。
- WebSphere Commerce に対してリモート側で WebSphere Commerce Payments を実行する予定の場合。
- システム上で WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのみをインストールする場合。
- リモート Web サーバー用の WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインのみをインストールする場合。
- WebSphere Commerce コンポーネントをいくつかのマシンに分散させたい場合。これには以下のような利点があります。
 - CPU の負荷を分散させることにより、トランザクションの速度が改善される。
 - 既存のデータベース、Web サーバー、およびスペースの限られたマシンを利用できる。
 - WebSphere Commerce の基幹データを冗長化するためのクラスター能力が提供される。
 - 拡張容易性およびロード・バランシングが改善される。

このインストールは、WebSphere Commerce に関する知識の豊富なユーザーだけが行うようにしてください。これには以下のものが含まれます。

- 分散環境での WebSphere Application Server バージョン 5.0 の構成および操作に関する高度な知識。これにはクローン作成、クラスター化、連合の概念が含まれます。
- 分散環境での WebSphere Commerce インスタンス作成の経験。
- リモート・データベースの構成および管理の経験。
- リモート・アプリケーションと連動する Web サーバーの構成の経験。

カスタム・インストールの実行方法は、61 ページの『第 11 章 カスタム・インストールの実行』に説明されています。

カスタム・インストールの使用例として、標準 5 ノード・インストールでさまざまな WebSphere Commerce コンポーネントが分散化される方法を次ページの図に示します。

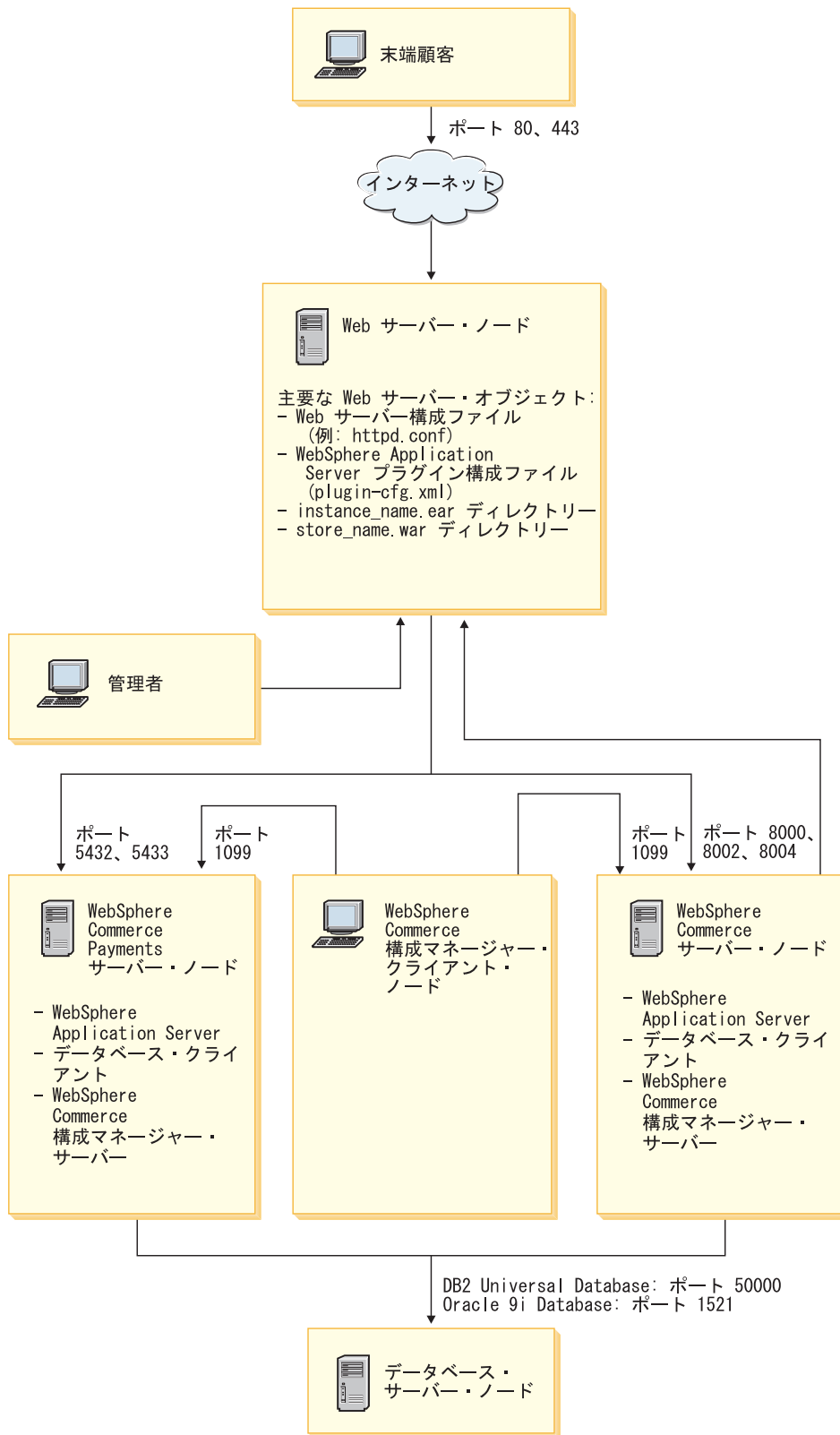


図2. カスタム 5 ノード・インストール

第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス

WebSphere Commerce インストール・ウィザードでは、インストールの完了までに多種多様なユーザー ID やその他の情報の入力をプロンプトで指示されます。WebSphere Commerce のインストールを開始する前に以下の表に記入して、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを実行するときに情報が手近にそろっているようにしてください。

ユーザー ID

46 ページの『インストール・ウィザードの処理の完了に必要なユーザー ID』の説明を読み直してから、以下の表に記入します。

ユーザー ID の説明	ユーザー ID	パスワード	グループ	ホーム・ディレクトリーの絶対パス
DB2 ユーザー ID				
Oracle ユーザー ID				
root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID				

ユーザー ID の作成、グループの作成、およびパスワードの設定に関する詳細は、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

root 以外の WebSphere Commerce ユーザーの作成に関する説明は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』に記載されています。

デフォルトで WebSphere Commerce インストール・ウィザードは、root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID として **wasuser** を指定し、root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID のグループ ID として **wasgroup** を指定します。このユーザーとグループを作成することもできますし、作成するユーザー ID とグループでインストール・ウィザードのデフォルト値を置換することもできます。

必要なその他のユーザーおよびグループ

WebSphere Commerce のインストールでは、WebSphere Commerce のインストールの前に具体的なユーザー ID とグループが存在していなければなりません。WebSphere Commerce のインストールの前に、存在していないユーザーおよびグループをすべて作成して、必ずそれらのユーザーをグループに追加しておきます。

ユーザー ID またはグループの説明	ユーザー ID	グループ内に存在している必要のあるユーザー ID
root ユーザー	root	mqbrkrs、mqm
WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・ユーザー	mqm	mqm

これらのユーザー ID とグループの作成に関する詳細は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』に記載されています。

重要: これらのユーザー ID とグループの存在は、オプションでは ありません。これらの特定のユーザー ID とグループが存在しない場合、インストール・ウィザードは停止します。

これらのユーザー ID とパスワードが存在しないためにインストール・ウィザードが停止する場合は、ユーザー ID とグループを作成した後、「戻る」をクリックし、続いて「次へ」をクリックしてください。インストール・ウィザードが継続されるはずですが。

インストール・ウィザードの処理の完了に必要なユーザー ID

WebSphere Commerce のインストールを実行するには、次のような ID を定義しておく必要があります。

ユーザー ID	説明
DB2 データベース・ユーザー ID	<p>このオペレーティング・システム ID が必要なのは、WebSphere Commerce で DB2 Universal Database をインストールしたい場合です。WebSphere Commerce インストール・ウィザードを介した DB2 Universal Database のインストールの前に、この ID が存在してはなりません。</p> <p>DB2 Universal Database のインストールの一環として、すべての DB2 プロセスで使われるユーザー ID が作成されます。</p> <p>DB2 ユーザーを作成するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー ID • パスワード • ユーザー ID の所属先となるグループ • そのユーザー ID のホーム・ディレクトリーへの絶対パス <p>ユーザー ID の .profile スクリプトにエラーが残っていないことを確認してください。</p> <p>注: ユーザー ID は、47 ページの『DB2 Universal Database ユーザー ID の要件』に略述されている DB2 Universal Database ユーザー ID の要件を満たしていなければなりません。</p>

ユーザー ID	説明
Oracle データベース・ユーザー ID	<p>このオペレーティング・システム ID が必要なのは、WebSphere Commerce とともに Oracle9i Database を使用している場合です。これは、システム上に物理 Oracle9i Database ファイルを所有するオペレーティング・システム・ユーザー ID です。</p> <p>この ID は、WebSphere Commerce のインストールの前に存在していなければなりません。WebSphere Commerce のインストール時に、Oracle データベース・ユーザー ID に関する以下の情報を求めるプロンプトが出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー ID • パスワード • ユーザー ID の所属先となるグループ • そのユーザー ID のホーム・ディレクトリーへの絶対パス <p>ユーザー ID の .profile スクリプトにエラーが残っていないことを確認してください。</p> <p>注: ユーザー ID は、Oracle9i Database の資料に略述されている Oracle9i Database ユーザー ID の要件をすべて満たしていなければなりません。</p>
root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID	<p>この ID は、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のアプリケーション・サーバーの開始に必要です。この ID は、WebSphere Commerce のインストールの前に存在していなければなりません。このユーザー ID 用のパスワードを必ず設定してください。</p> <p>そうすれば、root 特権をもったユーザーによるアプリケーション・サーバーの実行において、機密漏れが起きないようにすることができます。</p> <p>root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID を作成するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー ID • ユーザー ID の所属先のグループ • そのユーザー ID のホーム・ディレクトリーの絶対パス <p>この情報はまた、WebSphere Commerce インストール・ウィザードの実行にも必要です。</p>

root 以外の WebSphere Commerce ID の作成に関する説明は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』に記載されています。

DB2 Universal Database ユーザー ID の要件

DB2 では、データベース管理者とデータベース・ユーザーのユーザー ID とパスワードは、以下の規則を順守していなければなりません。

- 長さは 8 文字以下です。
- 使用できる文字は、a から z、および 0 から 9 のみです (大文字は使用できません)。
- 先頭文字として下線 () は使用できません。
- USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL は、大文字、小文字、またはこれらの混合文字のいずれのタイプであっても、ユーザー ID として使用できません。
- IBM、SQL、SYS は、大文字、小文字、またはこれらの混合文字のいずれのタイプのものであっても、ユーザー ID の先頭に置くことはできません。

第 10 章 標準インストールの実行

この章は、WebSphere Commerce インストール・ウィザードで利用できる種類の標準インストールを実行する方法について述べています。

標準 1 ノード・インストールの実行

標準 1 ノード・インストールを実行するには、次のようにします。

1. WebSphere Application Server で必要なユーザー ID が作成済みであることを確認します。このユーザー ID の作成に関する詳細は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. インストール前のチェックリストに記入済みであることを確認します。このチェックリストを完了しないと、インストールが失敗することがあります。詳しくは、38 ページの『プリインストール・チェックリスト』を参照してください。
3. 必ず `root` としてシステムにログオンします。
4. WebSphere Commerce Disk 1 CD をノードの CD-ROM ドライブに差し込みます。CD-ROM ドライブをマウントします。ただし、ディレクトリーをマウント・ポイントへ変更しないでください。ディレクトリーをマウント・ポイントに変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
5. 端末セッションから、以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

`host_name` は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: インストール・ウィザードを X クライアントで実行する場合は、X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与える必要があります。X クライアントを許可するには、`root` で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

`host_name` は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

6. オペレーティング・システムに応じて、`root` として以下のコマンドのうちの 1 つを発行します。

```
mount_point/setup_aix
```



または

```
mount_point/setup_aix -console
```

```
mount_point/setup_solaris
```

Solaris

または

```
mount_point/setup_solaris -console
```

`mount_point` は、CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` のようにします。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードと GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、インストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

この節では、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのインストール・ウィザードに対してのみ、記載しています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合は、テキスト・ベースのインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。



ディレクトリを CD-ROM マウント・ポイントに変更しないでください。このようにすると、インストール・ウィザードによって CD-ROM の CD を交換するように促されたときに、CD を交換できません。

7. インストール中に使用したい言語を選択してから、「OK」をクリックします。

重要: ここで選択した言語は、WebSphere Commerce インスタンスのデフォルト言語になります。ここで選択した言語以外のデフォルト言語で WebSphere Commerce インスタンスの作成を試みると、WebSphere Commerce インスタンスに無効データが取り込まれる原因になります。

インストール中に使用したい言語を選択し終わると、プリインストール要件がシステムで満たされているかどうかの検査が行われます。

プリインストール要件がシステムで満たされていると、「ウェルカム」パネルが表示されます。

プリインストール要件がシステムで満たされていない場合、不足の要件の詳細を示したダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップ終了 (Exit Setup)」をクリックして、インストール・プログラムを終了してください。リストされたプリインストール要件を満たすための適切なステップを取り、それから再びインストールを開始してください。

8. プリインストール要件がシステムで満たされている場合、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。
9. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページの使用許諾契約書に目を通してください。

使用許諾契約書に同意する場合は「使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)」を選択し、「次へ」をクリックして使用許諾契約書を受諾します。

使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。使用許諾契約書を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

10. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「標準」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
11. トポロジーに関するプロンプトが表示されたら、「**1 ノード・インストール (1-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
12. ドロップダウン・リストでデータベースと Web サーバーを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
13. データベースに Oracle9i Database を選択した場合、インストール済みの Oracle9i Database のバージョンを確認してください。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. インストールする製品のデフォルト宛先ディレクトリーをそのまま受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
15. インストール・ウィザードのプロンプトで指示されたら、データベース・ユーザーに関する情報を入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。データベースのユーザー ID とパスワードが、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』に略述されている要件を満たしていることを確認します。

注: データベースのユーザー情報が、データベース・インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID の情報であることを確認してください。

16. インストールしようとしている文書の言語を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
17. インストール・ウィザードのプロンプトで指示されたら、root 以外のユーザー ID に関する情報を入力します。このユーザー ID は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』の説明に従って実行したときに作成したものです。
18. 以下のいずれかを行います。
 - Web サーバーとして Sun ONE Web Server または IBM HTTP Server を選択し、Web サーバーがすでにインストール済みの場合、Web サーバーの構成ファイルが置かれているディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
 - Web サーバーをインストールしていない場合、「次へ」をクリックして先に進みます。IBM HTTP Server がインストールされます。
この場合、Web サーバー構成ファイルへのパスを表示するフィールドを編集できません。このフィールドの内容は表示のみを目的としています。

「要約」パネルが表示されます。

19. 「要約」パネルの内容を確認してから、「次へ」をクリックして先に進みます。
20. プロンプトで指示されたら CD を挿入して、CD のロケーションを入力します。

コンポーネントのインストール中には、コンポーネントのインストールの進行状況を示すパネルが表示されます。

CD-ROM ドライブ内の CD を交換するために CD-ROM ドライブをアンマウントするよう要求される場合があります。CD を交換した後、CD-ROM ドライブを再マウントする必要があります。

21. 「要約」パネルが表示されたら、インストールが完了したということです。「次へ」をクリックして先へ進みます。
22. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

標準 1 ノード・インストールが完了したら、60 ページの『次のステップ』の指示に従ってください。

標準 3 ノード・インストールの実行

標準の 3 ノード・インストールを実行するには、次のようにします。

1. データベースをインストールします。詳細は、『標準 3 ノード・インストールでのデータベースのインストール』を参照してください。
2. Web サーバーをインストールします。詳細は、55 ページの『標準 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール』を参照してください。
3. 残りの WebSphere Commerce コンポーネントをインストールします。詳細は、57 ページの『標準 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール』を参照してください。

標準 3 ノード・インストールでのデータベースのインストール

Oracle Oracle9i Database をデータベースとして使用している場合、25 ページの『リモート WebSphere Commerce データベースとしての Oracle9i Database の使用』の説明どおりにそのデータベースをインストールします。Oracle9i Database のインストール後は、55 ページの『標準 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール』に進みます。

DB2 DB2 Universal Database をデータベースとして使用している場合、データベース・サーバー・ノードで次のようにします。

1. 必ず root としてシステムにログオンします。
2. WebSphere Commerce Disk 1 CD をデータベースのノードの CD-ROM ドライブに差し込みます。CD-ROM ドライブをマウントします。ただし、ディレクトリーをマウント・ポイントへ変更しないでください。ディレクトリーをマウント・ポイントに変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
3. 端末セッションから、以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: インストール・ウィザードを X クライアントで実行する場合は、X クライアントには、*xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許

可を与える必要があります。X クライアントを許可するには、root で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

4. オペレーティング・システムに応じて、root として以下のコマンドのうちの 1 つを発行します。

```
mount_point/setup_aix
```

▶ AIX

または

```
mount_point/setup_aix -console
```

```
mount_point/setup_solaris
```

▶ Solaris

または

```
mount_point/setup_solaris -console
```

mount_point は、CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、/mnt/cdrom0 のようにします。

-console パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードと GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、インストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

この節では、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのインストール・ウィザードに対してのみ、記載しています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合は、テキスト・ベースのインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。



ディレクトリーを CD-ROM マウント・ポイントに変更しないでください。このようにすると、インストール・ウィザードによって CD-ROM の CD を交換するように促されたときに、CD を交換できません。

5. インストール中に使用したい言語を選択してから、「OK」をクリックします。インストール中に使用したい言語を選択し終わると、プリインストール要件がシステムで満たされているかどうかの検査が行われます。プリインストール要件がシステムで満たされていると、「ウェルカム」パネルが表示されます。プリインストール要件がシステムで満たされていない場合、不足の要件の詳細を示したダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップ終了 (Exit Setup)」をクリックして、インストール・プログラムを終了してください。リストされたプリインストール要件を満たすための適切なステップを取り、それから再びインストールを開始してください。
6. プリインストール要件がシステムで満たされている場合、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。

7. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」 ページが表示されます。「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」 ページの使用許諾契約書に目を通してください。
使用許諾契約書に同意する場合は「**使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックして使用許諾契約書を受諾します。
使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。使用許諾契約書を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。
8. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「標準」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
9. トポロジーに関するプロンプトが表示されたら、「**3 ノード・インストール (3-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
10. インストール先のノード指定のプロンプトが出されたら、「**データベース・ノード (Database node)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
11. ドロップダウン・リストでデータベースを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
12. インストールする製品のデフォルト宛先ディレクトリーをそのまま受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
13. 各フィールドに該当する情報を入力して、パネルを完成させます。入力されたユーザー ID およびパスワードが、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』で略述されている要件を満たしていることを確認してください。

注: データベースのユーザー情報が、データベース・インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID の情報であることを確認してください。

「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. 確認ページで、インストールしようとしているコンポーネントとそれぞれのロケーションを確認します。変更を加える場合は、「戻る」ボタンを使用して、変更するパネルに戻ります。
確認ページに一覧で示されているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。
15. プロンプトで指示されたら CD を挿入して、CD のロケーションを入力します。
コンポーネントのインストール中には、コンポーネントのインストールの進行状況を示すパネルが表示されます。このとき、さらに別のプロンプトが表示されたら、それに従います。
16. 「要約」パネルが表示されたら、DB2 Universal Database のインストールが完了したということです。「次へ」をクリックして先へ進みます。
17. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

『標準 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール』の説明に従って、標準の 3 ノード・インストールを先に進めます。

標準 3 ノード・インストールでの Web サーバーのインストール

Solaris Sun ONE Web Server を使用している場合、29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』の説明に従って Web サーバーがインストールされ、構成されていることを確認してから、この節の指示に従います。この節の指示に従うことによって、Web サーバーが WebSphere Commerce とともに正しく作動するために必要な追加コンポーネントがインストールされます。

Web サーバー・ノードでインストールを完了するには、Web サーバー・ノードで以下のようにします。

1. 必ず `root` としてシステムにログオンします。
2. 端末セッションから、以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: インストール・ウィザードを X クライアントで実行する場合は、X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与える必要があります。X クライアントを許可するには、`root` で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

3. WebSphere Commerce Disk 1 CD を Web サーバー・ノードの CD-ROM ドライブに差し込みます。CD-ROM ドライブをマウントします。ただし、ディレクトリーをマウント・ポイントへ変更しないでください。ディレクトリーをマウント・ポイントに変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
4. オペレーティング・システムに応じて、`root` として以下のコマンドのうちの 1 つを発行します。

```
mount_point/setup_aix
```

AIX

または

```
mount_point/setup_aix -console
```

```
mount_point/setup_solaris
```

Solaris

または

```
mount_point/setup_solaris -console
```

mount_point は、CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` のようにします。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードと GUI ベ

ースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、インストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

この節では、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのインストール・ウィザードに対してのみ、記載しています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合は、テキスト・ベースのインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。



ディレクトリーを CD-ROM マウント・ポイントに変更しないでください。このようにすると、インストール・ウィザードによって CD-ROM の CD を交換するように促されたときに、CD を交換できません。

5. インストール中に使用したい言語を選択してから、「**OK**」をクリックします。インストール中に使用したい言語を選択し終わると、プリインストール要件がシステムで満たされているかどうかの検査が行われます。プリインストール要件がシステムで満たされていると、「ウェルカム」パネルが表示されます。プリインストール要件がシステムで満たされていない場合、不足の要件の詳細を示したダイアログ・ボックスが表示されます。「**キャンセル**」をクリックした後、「**セットアップ終了 (Exit Setup)**」をクリックして、インストール・プログラムを終了してください。リストされたプリインストール要件を満たすための適切なステップを取り、それから再びインストールを開始してください。
6. プリインストール要件がシステムで満たされている場合、「ウェルカム」パネルの「**次へ**」をクリックします。
7. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページの使用許諾契約書に目を通してください。使用許諾契約書に同意する場合は「**使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「**次へ**」をクリックして使用許諾契約書を受諾します。使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。使用許諾契約書を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。
8. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「**標準**」を選択します。「**次へ**」をクリックして先へ進みます。
9. トポロジーに関するプロンプトが表示されたら、「**3 ノード・インストール (3-node installation)**」を選択します。「**次へ**」をクリックして先へ進みます。
10. インストール先のノード指定のプロンプトが出されたら、「**Web サーバー・ノード (Web server node)**」を選択します。「**次へ**」をクリックして先へ進みます。
11. ドロップダウン・リストで Web サーバーを選択します。「**次へ**」をクリックして先へ進みます。

12. インストールする製品のデフォルト宛先ディレクトリーをそのまま受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
13. インストールしようとしている文書の言語を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. インストール・ウィザードのプロンプトで指示されたら、root 以外のユーザー ID に関する情報を入力します。このユーザー ID は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』の説明に従って実行したときに作成したものです。
15. 以下のいずれかを行います。
 - Web サーバーとして Sun ONE Web Server または IBM HTTP Server を選択し、Web サーバーがすでにインストール済みの場合、Web サーバーの構成ファイルが置かれているディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
 - Web サーバーをインストールしていない場合、「次へ」をクリックして先に進みます。IBM HTTP Server がインストールされます。
この場合、Web サーバー構成ファイルへのパスを表示するフィールドを編集できません。このフィールドの内容は表示のみを目的としています。
「要約」パネルが表示されます。
16. 「要約」パネルで、インストールしようとしているコンポーネントとそれぞれのロケーションを確認します。変更を加える場合は、「戻る」ボタンを使用して、変更するパネルに戻ります。
確認ページに一覧で示されているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。
17. プロンプトで指示されたら CD を挿入して、CD のロケーションを入力します。
コンポーネントのインストール中には、コンポーネントのインストールの進行状況を示すパネルが表示されます。このとき、さらに別のプロンプトが表示されたら、それに従います。
18. 「要約」パネルが表示されたら、Web サーバーのインストールが完了したということです。「次へ」をクリックして先へ進みます。
19. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。
『標準 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール』の説明に従って、標準の 3 ノード・インストールを先に進めます。

標準 3 ノード・インストールでの残りの WebSphere Commerce コンポーネントのインストール

Oracle インストールを先に進める前に、Oracle9i Database クライアント・コンポーネントがノードにインストール済みであることを確認してください。Oracle9i Database のインストールに関するガイドラインは、21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』に述べられています。

残りの WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするには、WebSphere Commerce ノードで以下のようにします。

1. WebSphere Application Server で必要なユーザー ID が作成済みであることを確認します。このユーザー ID の作成に関する詳細は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. 必ず root としてシステムにログオンします。
3. 端末セッションから、以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: インストール・ウィザードを X クライアントで実行する場合は、X クライアントには、*xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与える必要があります。X クライアントを許可するには、root で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

4. WebSphere Commerce Disk 1 CD を残りの WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするシステムの CD-ROM ドライブに差し込みます。CD-ROM ドライブをマウントします。ただし、ディレクトリーをマウント・ポイントへ変更しないでください。ディレクトリーをマウント・ポイントに変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
5. オペレーティング・システムに応じて、root として以下のコマンドのうちの 1 つを発行します。

```
mount_point/setup_aix
```

AIX

または

```
mount_point/setup_aix -console
```

```
mount_point/setup_solaris
```

Solaris

または

```
mount_point/setup_solaris -console
```

mount_point は、CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、/mnt/cdrom0 のようにします。

-console パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードと GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、インストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

この節では、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのインストール・ウィザードに対してのみ、記載しています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合

は、テキスト・ベースのインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。



ディレクトリーを CD-ROM マウント・ポイントに変更しないでください。このようにすると、インストール・ウィザードによって CD-ROM の CD を交換するように促されたときに、CD を交換できません。

6. インストール中に使用したい言語を選択してから、「OK」をクリックします。

重要: ここで選択した言語は、WebSphere Commerce インスタンスのデフォルト言語になります。ここで選択した言語以外のデフォルト言語で WebSphere Commerce インスタンスの作成を試みると、WebSphere Commerce インスタンスに無効データが取り込まれる原因になります。

インストール中に使用したい言語を選択し終わると、プリインストール要件がシステムで満たされているかどうかの検査が行われます。

プリインストール要件がシステムで満たされていると、「ウェルカム」パネルが表示されます。

プリインストール要件がシステムで満たされていない場合、不足の要件の詳細を示したダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「セットアップ終了 (Exit Setup)」をクリックして、インストール・プログラムを終了してください。リストされたプリインストール要件を満たすための適切なステップを取り、それから再びインストールを開始してください。

7. プリインストール要件がシステムで満たされている場合、「ウェルカム」パネルの「次へ」をクリックします。
8. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページの使用許諾契約書に目を通してください。

使用許諾契約書に同意する場合は「**使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックして使用許諾契約書を受諾します。

使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。使用許諾契約書を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。
9. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「標準」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
10. トポロジーに関するプロンプトが表示されたら、「**3 ノード・インストール (3-node installation)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
11. インストール先のノード指定のプロンプトが出されたら、「**WebSphere Commerce ノード (WebSphere Commerce node)**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
12. データベース・ノードにインストールされているデータベース管理システムをドロップダウン・リストで選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

13. データベースに Oracle9i Database を選択した場合、インストール済みの Oracle9i Database のバージョンを確認してください。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. インストールする製品のデフォルト宛先ディレクトリーをそのまま受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
15. 各フィールドに該当する情報を入力して、パネルを完成させます。「次へ」をクリックして先へ進みます。入力されたユーザー ID およびパスワードが、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』で略述されている要件を満たしていることを確認してください。

注: データベースのユーザー情報が、データベース・インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID の情報であることを確認してください。
16. インストールしようとしている文書の言語を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。
17. インストール・ウィザードのプロンプトで指示されたら、root 以外のユーザー ID に関する情報を入力します。このユーザー ID は、37 ページの『必須の WebSphere Application Server のユーザーとグループの作成』の説明に従って実行したときに作成したものです。
18. 確認ページで、インストールしようとしているコンポーネントとそれぞれのロケーションを確認します。変更を加える場合は、「戻る」ボタンを使用して、変更するパネルに戻ります。

確認ページに一覧で示されているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。
19. プロンプトで指示されたら CD を挿入して、CD のロケーションを入力します。

コンポーネントのインストール中には、コンポーネントのインストールの進行状況を示すパネルが表示されます。このとき、さらに別のプロンプトが表示されたら、それに従います。
20. 「要約」パネルが表示されたら、インストールが完了したということです。「次へ」をクリックして先へ進みます。
21. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

次のステップ

標準インストールを完了したら、以下を行います。

1. README ファイルをまだ読んでいなければ、読み直して、README ファイルに記載されているその他のすべてのフィックスをインストールします。

README ファイルの詳細は、17 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 67 ページの『第 12 章 インストールの検証』の説明に従って、インストール内容を検証します。

第 11 章 カスタム・インストールの実行

カスタム・インストールは、WebSphere Commerce に関する知識の豊富なユーザーだけが行うようにしてください。たとえば、以下のような知識や経験が必要です。

- WebSphere Application Server バージョン 5.0 の構成と分散環境における運用についての豊富な知識。
- 分散環境での WebSphere Commerce インスタンス作成の経験。
- リモート・データベースの構成および管理の経験。
- リモート・アプリケーションと連動する Web サーバーの構成の経験。

カスタム・インストールを実行すると、以下のコンポーネントをそれぞれ別々のノードにインストールすることができます。

WebSphere Commerce のコンポーネント

WebSphere Commerce Server

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のものを除く WebSphere Commerce のすべての機能を備えています。

このコンポーネントを選択すると、以下のものがノードにインストールされます。

- WebSphere Commerce サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce サンプル・ストア
- WebSphere Application Server
- DB2 Universal Database アプリケーション開発クライアント (必要な場合)

重要: Web サーバーおよびデータベースは、このコンポーネントをインストールする前にインストールしておく必要があります。なぜなら、Web サーバーおよびデータベースについての情報がなければ、このコンポーネントのインストール・ウィザードを完了できないからです。

DB2

WebSphere Commerce Server コンポーネントと一緒にローカルの DB2 Universal Database を使用する予定で、DB2 Universal Database をまだインストールしていない場合は、インストール・ウィザードで WebSphere Commerce Server コンポーネントを選択するときに、必ず **DB2 Universal Database** も選択してください。

WebSphere Commerce Server コンポーネントと一緒にリモートの DB2 Universal Database を使用する予定の場合、WebSphere Commerce Server コンポーネントのインストール時に追加のステップは必要ありません。

Oracle

WebSphere Commerce Server コンポーネントと一緒にローカルの Oracle9i Database データベースを使用する予定の場合、Oracle9i Database がノードにインストールおよび構成済みであることを WebSphere Commerce Server コンポーネントのインストールの前に確認してください。詳しくは、21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』を参照してください。

WebSphere Commerce Server コンポーネントと一緒にリモートの Oracle9i Database データベースを使用する予定の場合、Oracle9i Database クライアント・ソフトウェアがノードにインストールおよび構成済みであることを WebSphere Commerce Server コンポーネントのインストールの前に確認してください。詳しくは、21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』を参照してください。

WebSphere Commerce のサンプル・ファイル

このコンポーネントには、商品アドバイザー、Web サービス、および Payments を初めとして、さまざまなサンプル・ファイルが用意されています。

このコンポーネントには、WebSphere Commerce サンプル・ストアは組み込まれていません。

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

このコンポーネントは、WebSphere Commerce (WebSphere Commerce Payments も含む) のオンライン・ヘルプ・ファイルをインストールします。このコンポーネントをインストールすると、インストール・ウィザードで選択したロケーションにオンライン・ヘルプ・ファイルがコピーされますが、HTTP を通してファイルを見るための Web サーバーはインストールされません。ファイルは、ノードのファイル・システムからファイルを開いて初めて見ることができます。

WebSphere Commerce Payments

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のすべての機能をインストールします。

このコンポーネントを選択すると、以下のものがノードにインストールされます。

- WebSphere Commerce Payments
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー

- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Application Server
- DB2 Universal Database アプリケーション開発クライアント (必要な場合)

重要: Web サーバーおよびデータベースは、このコンポーネントをインストールする前にインストールしておく必要があります。なぜなら、Web サーバーおよびデータベースについての情報がなければ、このコンポーネントのインストール・ウィザードを完了できないからです。

DB2

WebSphere Commerce Payments コンポーネントと一緒にローカルの DB2 Universal Database を使用する予定で、DB2 Universal Database をまだインストールしていない場合は、インストール・ウィザードで WebSphere Commerce Payments コンポーネントを選択するときに、必ず **DB2 Universal Database** も選択してください。

WebSphere Commerce Payments コンポーネントと一緒にリモートの DB2 Universal Database を使用する予定の場合、WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストール時に追加のステップを行う必要はありません。

Oracle

WebSphere Commerce Payments コンポーネントと一緒にローカルの Oracle9i Database を使用する予定の場合、Oracle9i Database がノードにインストールおよび構成済みであることを WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストールの前に確認してください。詳しくは、21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments コンポーネントと一緒にリモートの Oracle9i Database を使用する予定の場合、Oracle9i Database クライアント・ソフトウェアがノードにインストールおよび構成済みであることを WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストールの前に確認してください。詳しくは、21 ページの『第 2 部 データベースのインストール』を参照してください。

リモート WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント

このコンポーネントを使用すると、WebSphere Commerce ノードと WebSphere Commerce Payments ノードに対してリモートのノードからインスタンスを作成して、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments を構成することができます。

サポートするソフトウェア

DB2 Universal Database

このコンポーネントを選択すると、IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.1 Enterprise Server Edition およびクライアントがノ

ードにインストールされて構成されます。このコンポーネントを選択すると、DB2 Administration Client だけがノードにインストールされるわけではありません。

IBM HTTP Server

このコンポーネントを選択すると、IBM HTTP Server がインストールされて構成されます。また、IBM HTTP Server 用の WebSphere Application Server プラグインもインストールされます。

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン

このコンポーネントを選択すると、インストール・ウィザードで選択した Web サーバー用の WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインがインストールされます。

Sun ONE Web Server を使用する場合、Sun ONE Web Server がデフォルト・ディレクトリーにインストールされていることを確認します。WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインのインストールが正常に完了するのは、Sun ONE Web Server がデフォルト・ディレクトリーにインストールされている場合だけです。

カスタム・インストールの実行

カスタム構成にすべての WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするには、ここで説明するステップを構成内の各ノードで繰り返します。

ノード上でカスタム・インストールを実行するには、次のようにします。

1. 必ず root としてシステムにログオンします。
2. 端末セッションから、以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

注: インストール・ウィザードを X クライアントで実行する場合は、X クライアントには、*xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与える必要があります。X クライアントを許可するには、root で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

3. WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするノードの CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce Disk 1 CD を挿入します。CD-ROM ドライブをマウントします。ただし、ディレクトリーをマウント・ポイントに変更しないでください。ディレクトリーをマウント・ポイントに変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
4. オペレーティング・システムに応じて、以下のコマンドのうちの 1 つを発行します。

```
mount_point/setup_aix
```

AIX

または

```
mount_point/setup_aix -console
```

```
mount_point/setup_solaris
```

Solaris

または

```
mount_point/setup_solaris -console
```

`mount_point` は、CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` のようにします。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードと GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、インストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

この節では、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのインストール・ウィザードに対してのみ、記載しています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合は、テキスト・ベースのインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。



ディレクトリーを CD-ROM マウント・ポイントに変更しないでください。このようにすると、インストール・ウィザードによって CD-ROM の CD を交換するように促されたときに、CD を交換できません。

5. 言語を選択してから、「OK」をクリックします。

重要: ここで選択した言語は、WebSphere Commerce インスタンスのデフォルト言語になります。ここで選択した言語以外のデフォルト言語で WebSphere Commerce インスタンスの作成を試みると、WebSphere Commerce インスタンスに無効データが取り込まれる原因になります。

6. 「ウェルカム」パネルで「次へ」をクリックします。

7. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページの使用許諾契約書に目を通してください。

使用許諾契約書に同意する場合は「**使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックして使用許諾契約書を受諾します。

使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。使用許諾契約書を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

8. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「カスタム」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

9. ノードにインストールするコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

各コンポーネントの説明は、この章の冒頭に述べられています。

10. 選択したコンポーネントに応じて、インストール・ウィザードの残りのパネルでさまざまな情報の入力をプロンプトで指示されます。各パネルのフィールドに情報を入力します。その際、次のパネルに移動するには「次へ」をクリックします。

インストール・ウィザードの処理を完了するのに必要な値の説明は、45 ページの『第 9 章 インストール時に必要なユーザー ID へのクイック・リファレンス』に記載されています。

情報を入力するパネルの処理が完了したら、確認ページが表示されます。

11. 確認ページで、インストールしようとしているコンポーネントとそれぞれのロケーションを確認します。変更を加える場合は、「戻る」ボタンを使用して、変更するパネルに戻ります。

確認ページに一覧で示されているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。

12. プロンプトで指示されたら CD を挿入して、CD のロケーションを入力します。

コンポーネントのインストール中には、コンポーネントのインストールの進行状況を示すパネルが表示されます。このとき、さらに別のプロンプトが表示されたら、それに従います。

13. 要約パネルが表示されたら、選択したコンポーネントのインストールが完了したということです。「次へ」をクリックして先へ進みます。
14. 「ランチパッド (Launchpad)」パネルが表示されます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

次のステップ

カスタム・インストールを完了したら、以下を行います。

1. README ファイルをまだ読んでいなければ、読み直して、README ファイルに記載されているその他のすべてのフィックスをインストールします。
README ファイルの詳細は、17 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 67 ページの『第 12 章 インストールの検証』の説明に従って、インストール内容を検証します。

第 12 章 インストールの検証

WebSphere Commerce とそのコンポーネントのインストール時にはログ・ファイルが生成されます。以下のログ・ファイルを調べて、インストールが正常に完了したことを確認してください。

- 『DB2 Universal Database のインストール・ログ』
WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用して DB2 Universal Database をインストールした場合にのみ、このログ・ファイルを検査してください。
- 68 ページの『WebSphere Application Server のインストール・ログ』
- 69 ページの『WebSphere Commerce コンポーネントのインストール・ログ』

IBM 以外のソフトウェアのインストールを確認するには、そのソフトウェアのパッケージに添付されている資料を参照してください。

DB2 Universal Database のインストール・ログ

WebSphere Commerce の分散インストールでは、DB2 Universal Database インストール・ログがデータベース・ノードに出力されます。

このログには、DB2 Universal Database のインストール中に生成されたメッセージが示されます。このログ・ファイルのデフォルト・ロケーションは次のとおりです。

`WC_installdir/logs/db2setup.log`

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』に一覧で示されています。

デフォルト・ディレクトリー内でログ・ファイルが見つからない場合、以下のディレクトリーでログ・ファイルを探してください。

`/tmp`

ログ・ファイルの末尾に DB2 Universal Database のインストールが正常に完了したというメッセージがあれば、正常完了を示します。例として、AIX での標準 1 ノード・インストールの場合の DB2 Universal Database のインストール・ログ・ファイルの最終セクションを以下に示してあります。


```
Installing DB2 file sets:.....Success
Registering DB2 licenses:.....Success
Setting default global profile registry variables:.....Success
Creating the DB2 Administration Server:.....Success
The Fast Connection Manager (FCM) base port was not specified for the instance "db2user".
Default parameters will be used.

Initializing instance list:.....Success
Customizing DB2 instance configuration:.....Success
Command to be run: "/usr/opt/db2_08_01/instance/db2icrt -a server -s ese -u db2fwc1 -w 32
-p db2c_db2user db2user".
The instance "db2user" has been created successfully.

The value "SVCENAME=db2c_db2user" was set in the DBM CFG file for the "db2user"instance.

The value "DB2AUTOSTART=YES" was set in the Profile Registry for the "db2user"instance.

Creating DB2 instances:.....Success
Registering DB2 licenses:.....Success
Configuring the DB2 Administration Server:.....Success
Updating global profile registry:.....Success
```

ログ・ファイルによっては、内容が異なる場合があります。

いずれかのコンポーネントの状況が `FAILURE` とログ・ファイルに示されている場合、インストール・ログ・ファイルを慎重に調べて、インストール中にどこでエラーが起きたかを確認してください。DB2 Universal Database の資料を参照して、発生したエラーを訂正してください。

本書の指示を進める前に、DB2 Universal Database のインストールでのエラーをすべて訂正してください。

WebSphere Application Server のインストール・ログ

WebSphere Commerce の分散インストールでは、WebSphere Application Server インストール・ログが WebSphere Commerce ノードおよび WebSphere Commerce Payments ノードに出力されます。

このログには、WebSphere Application Server のインストール中に生成されたメッセージが示されます。このログ・ファイルのデフォルト・ロケーションは次のとおりです。

```
WAS_installdir/logs/log.txt
```

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

ログ・ファイルに次のメッセージが示されていれば、WebSphere Application Server のインストールは完了したということです。

```
INSTFIN: The WebSphere 5.0 install is complete.
```

WebSphere Commerce コンポーネントのインストール・ログ

WebSphere Commerce の分散インストールの場合、WebSphere Commerce インストール・ログが WebSphere Commerce ノード、WebSphere Commerce Payments ノード、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントに出力されます。

このログには、WebSphere Commerce インストール・ウィザードで生成されたメッセージが示されます。このログ・ファイルのデフォルト・ロケーションは次のとおりです。

```
WC_installdir/logs/install_date_time.log
```

このログを調べて、WebSphere Commerce のすべてのコンポーネントが正常にインストールされたことを確認してください。

このログ・ファイルがデフォルト位置に見つからない場合、以下のディレクトリで探してください。

```
/tmp
```

ログ・ファイルに次のメッセージが示されていれば、WebSphere Commerce コンポーネントのインストールは完了したということです。

```
WebSphere Commerce installation Complete.
```

次のステップ

WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して、WebSphere Commerce のインストールと構成を先に進めます。インスタンスの作成の詳細は、71 ページの『第 5 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の説明を参照してください。

第 5 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

必須のソフトウェアをすべてインストールし終わったら、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要があります。これらのインスタンスは、構成マネージャーを使用して作成することができます。

第 5 部は、次の章で構成されています。

- 73 ページの『第 13 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』
- 77 ページの『第 14 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 81 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 13 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に

構成マネージャー・サーバーの開始や、構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または修正の前には、次のようにします。

1. README ファイルに記載されているすべてのフィックスをインストールしたことを確認します。README ファイルの詳細は、17 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 構成マネージャーの開始のための前提条件が満たされていることを確認します。前提条件は、『構成マネージャーの前提条件』に一覧で示されています。
3. 『構成マネージャーの開始』の説明に従って、構成マネージャーを開始します。

重要

「商取引 (Commerce)」関連のプロパティと同様に、以下の Web サーバー・プロパティは、構成マネージャーの GUI (Web サーバーの GUI や WebSphere Application Server 管理コンソールではない) を介して修正しなければなりません。

- SSL (使用可能化または使用不可)
- Web サーバー・インスタンス名またはポート番号
- SSL ポート番号
- システムの IP アドレス (Payment Server のホスト)

そうすれば、Web サーバーの構成ファイルだけでなくすべての構成ファイルが、正しい情報に合わせて正しく更新されることになります。

構成マネージャーの前提条件

WebSphere Commerce 構成マネージャーを始動する前に以下のチェックリストを見直して、すべての前提条件を満たしていることを確認してください。

- 構成マネージャー・サーバーと構成マネージャー・クライアントを始動するシステムが、9 ページの『WebSphere Commerce で使用されるロケール』の説明どおりのサポートされているロケールを使用している。
- Korn シェルを使用している。
- データベースのサーバーが稼働している。
- Web サーバーが WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされている場合は、そのサーバーが稼働している。

構成マネージャーの開始

WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始するには、次のようにします。

1. root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID でログインします。この ID は、WebSphere Commerce のインストール前に作成したものです。

Solaris オペレーティング環境のユーザーに関する重要情報

Bourne シェルで WebSphere Commerce コマンドを実行していないことを確認します。 Bourne シェルで WebSphere Commerce コマンドを実行すると、コマンドが失敗する場合があります。

現在 Bourne シェルを使用している場合は、ここでシェルを切り替えてください。 WebSphere Commerce コマンドを実行するときには、Korn シェルを使用します。

2. 作成または変更するインスタンスに応じて、WebSphere Commerce ノードか WebSphere Commerce Payments ノードで以下のようにして、サーバーを開始します。

- a. ターミナル・ウィンドウをオープンします。
- b. 以下のコマンドを実行します。

```
cd WC_installdir/bin
./config_server.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

注:

- 1) config_server コマンドを入力したターミナル・ウィンドウをクローズしないでください。クローズすると、構成マネージャー・サーバーが停止します。
- 2) 構成マネージャー・サーバーをバックグラウンド・プロセスとして実行しないでください。セキュリティ上の危険につながります。
- 3) 現在、構成マネージャーは、ポート 1099 で接続を listen しています。構成マネージャー・サーバーに別のポートを listen させるには、
./config_server.sh コマンドではなく、以下のコマンドを実行します。
./config_server.sh -port port_number

port_number は、構成マネージャーが接続を listen する対象のポートです。

3. 以下のいずれかを行って、クライアントを始動します。
 - ローカル・マシン上で WebSphere Commerce 構成マネージャーを実行するには、次のようにします。

- a. ターミナル・ウィンドウをもう 1 つオープンします。
- b. WebSphere Commerce のインストール前に作成した root 以外のユーザー ID で、以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
cd WC_installdir/bin
./config_client.sh [-port cm_port]
```

変数は以下のように定義されています。

cm_port

構成マネージャー・サーバーを開始したときに指定したポートです。

`-port` パラメーターはオプションです。 `-port` パラメーターを指定しないと、構成マネージャー・クライアントは、ポート 1099 を使用して構成マネージャー・サーバーに接続しようとします。

注: X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与える必要があります。 X クライアントを許可するには、`root` で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- c. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin**、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインしたときには、パスワードを変更するよう指示されます。
- リモート・マシン上で WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントを実行するには、次のようにします。
 - a. WebSphere Commerce のインストール前に作成した `root` 以外のユーザー ID で、リモート・マシンにログオンします。

Solaris オペレーティング環境のユーザーに関する重要情報

Bourne シェルで WebSphere Commerce コマンドを実行していないことを確認します。 Bourne シェルで WebSphere Commerce コマンドを実行すると、コマンドが失敗する場合があります。

現在 Bourne シェルを使用している場合は、ここでシェルを切り替えてください。 WebSphere Commerce コマンドを実行するときには、Korn シェルを使用します。

- b. ターミナル・ウィンドウをオープンします。
- c. 以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
cd WC_installdir/bin
./config_client.sh -hostname cm_hostname [-port cm_port]
```

変数は以下のように定義されています。

hostname

構成マネージャーへのアクセスに使用するマシンの完全修飾ホスト名です。

cm_hostname

構成マネージャー・サーバー・マシンの完全修飾ホスト名です。

cm_port

構成マネージャー・サーバーを開始したときに指定したポートです。

`-port` パラメーターはオプションです。 `-port` パラメーターを指定しないと、構成マネージャー・クライアントは、ポート 1099 を使用して構成マネージャー・サーバーに接続しようとします。

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』に一覧で示されています。

注: X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与える必要があります。 X クライアントを許可するには、`root` で、以下のコマンドをシステム・コンソールから発行します。

```
xhost +host_name
```

`host_name` は、インストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- d. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin**、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインしたときには、パスワードを変更するよう指示されます。

次のステップ

この節のステップを完了したら、次に示す項に進んでください。

- 77 ページの『第 14 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』。
- 81 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』。

第 14 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce インスタンスの修正に関する詳細は、126 ページの『WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

新規の WebSphere Commerce インスタンスの作成

新規の WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. **WebSphere Commerce** の下の *hostname* を拡張表示します。
3. 「**商取引 (Commerce)**」を拡張表示します。
4. 「**インスタンス・リスト**」をマウスの右ボタンでクリックします。
5. 表示されたポップアップ・メニューで、「**インスタンスの作成**」を選択します。「インスタンス作成ウィザード」が開始します。
6. 「インスタンス作成ウィザード」の処理を完了します。



インスタンス作成ウィザード内のパネルとフィールドの処理の完了方法に関するヘルプは、インスタンス作成ウィザード上の「ヘルプ」をクリックしてください。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルにあります。「ヘルプ」パネルは、サポートされるすべての WebSphere Commerce プラットフォームに適用されます。

7. すべてのパネルに必要な情報を入力し終わったら、「**終了**」ボタンが使用可能になります。「**終了**」をクリックすると、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。
 8. **Oracle** Oracle データベースにデータを取り込むかどうかを尋ねられます。データベースにデータを取り込む場合は「**はい**」を、取り込まない場合は「**いいえ**」を選択します。
 9. **DB2** 既存の DB2 データベースを使用する場合は、データベースにデータを取り込むかどうかを尋ねられます。データベースにデータを取り込む場合は「**はい**」を、取り込まない場合は「**いいえ**」を選択します。
- インスタンスの作成にかかる時間は、システムの速度によって異なります。プロセスが完了すると、インスタンスの作成を開始したときに表示される進行状況表示バーに通知が示されます。
10. インスタンスの作成が完了したら、要約を示したダイアログが表示されます。「**OK**」をクリックしてダイアログ・ウィンドウをクローズします。
ダイアログの内容を確認します。インスタンスを使用する前に実行する必要がある追加の手順が説明されている場合があります。
 11. 「**コンソール**」と「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、WebSphere Commerce インスタンスの作成を検証します。

インスタンスの作成の検証




新規の WebSphere Commerce インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_installdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml
```

ただし、*WC_installdir* は *v* ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、*instance_name* は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

このファイルが存在することを確認してから、インスタンスの作成中に作成されたログ・ファイルを検査します。

WebSphere Commerce インスタンスを作成すると、次のようなログ・ファイルが作成されます。

- auction.log
- createdb.log
-  createdb_db2.log
- createsp.log
- populatedb.err.log
- populatedb.log
- populatedb2.err.log
- populatedb2.log
- populatedbnl.err.log
-  reorgdb2.log
-  reorgdb2.err.log
- trace.txt

これらのファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

```
WC_installdir/instances/instance_name/logs
```

ただし、*WC_installdir* のデフォルト値は *v* ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、*instance_name* は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

以下のログが空の場合は、インスタンス作成の一部であるデータベースへのデータの取り込みは正常に完了しています。

- populatedb.err.log
- populatedb2.err.log
- populatedbnl.err.log

また、以下のログの内容を調べて、エラーが記載されていないことを確認します。

- createdb.log
- createsp.log

-  createdb_db2.log

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスの構成が完了したら、WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して先に進まなければなりません。WebSphere Commerce Payments の作成に関する解説は、81 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に述べられています。

第 15 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce Payments インスタンスの修正に関する詳細は、126 ページの『WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

特定の WebSphere Commerce Payments Cassette の使用方法についての詳細は、WebSphere Commerce Payments Cassette の補足を参照してください。WebSphere Commerce サンプル・ストアで WebSphere Commerce Payments Cassette を使用する場合は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。

注: WebSphere Commerce Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、73 ページの『第 13 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』の説明に従って、WebSphere Commerce 構成マネージャーを使用してください。これで、すべてのプロパティとファイルが同じ情報で更新されるようになります。

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成



新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
WebSphere Commerce Payments が WebSphere Commerce とは別のノード上にある場合は、WebSphere Commerce Payments ノード上の構成マネージャーを開始してください。
2. 「**WebSphere Commerce**」を拡張表示します。
3. ホスト名を拡張表示します。
4. 「**Payments**」を拡張表示します。
5. 「**インスタンス・リスト**」をマウスの右ボタンでクリックします。
6. 表示されたポップアップ・メニューで、「**Payments インスタンスの作成**」を選択します。「Payments インスタンス作成ウィザード (Payments Instance Creation wizard)」が開始します。
7. Payments インスタンス作成ウィザードに情報を入力します。



Payments インスタンス作成ウィザード内のパネルとフィールドの処理の完了方法に関するヘルプは、インスタンス作成ウィザード上の「ヘルプ」をクリックしてください。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルにあります。「ヘルプ」パネルは、サポートされるすべての WebSphere Commerce プラットフォームに適用されます。

重要: WebSphere Commerce Payments インスタンス作成ウィザードを完了するときに、「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力する値が、WebSphere Commerce サイト管理者 ID であることを確認してください。WebSphere Commerce サイト管理者 ID は、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成したもので、WebSphere Commerce インスタンス作成ウィザードの「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力した値です。

8. すべてのパネルにすべての必要情報を入力し終わったら、「**終了**」ボタンが使用可能になります。「**終了**」をクリックすると、WebSphere Commerce Payments インスタンスが作成されます。
9.  Oracle データベースにデータを取り込むかどうかを尋ねられます。データベースにデータを取り込む場合は「**はい**」を、取り込まない場合は「**いいえ**」を選択します。
10.  既存の DB2 データベースを使用する場合は、データベースにデータを取り込むかどうかを尋ねられます。データベースにデータを取り込む場合は「**はい**」を、取り込まない場合は「**いいえ**」を選択します。

インスタンスの作成にかかる時間は、システムの数値によって異なります。プロセスが完了すると、インスタンスの作成を開始したときに表示される進行状況表示バーに通知が示されます。

11. 「**コンソール**」と「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成を検証します。

インスタンスの作成の検証

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_installdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml
```

ただし、*WC_installdir* は v ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、*instance_name* は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

このファイルが存在することを確認してから、インスタンスの作成中に作成されたログ・ファイルを検査します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成すると、次のようなログ・ファイルが作成されます。

- createdb.log
- createdb.err.log

これらのファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

```
WC_installdir/instances/instance_name/logs
```

ただし、*WC_installdir* のデフォルト値は v ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、*instance_name* は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

createdb.err.log ファイルが空の場合は、インスタンスの作成は正常に完了したということです。

また、createdb.log ログ・ファイルの内容を調べて、エラーが記載されていないことを確認します。

次のステップ

WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成が完了したら、85 ページの『第 6 部 最終ステップ』の解説を参考に、先に進むことができます。

リモート Web サーバーを使用している場合、87 ページの『第 16 章 インスタンス作成後の必須タスク』の説明に従ってください。

第 6 部 最終ステップ

第 6 部では、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後に実行する必要がある必須タスクの概略を示しています。ここではまた、実行するのが望ましいその他のタスクについても述べています。

第 16 章 インスタンス作成後の必須タスク

WebSphere Commerce トポグラフィーに応じて、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のインスタンスを作成した後、以下のセクションのいずれかのタスクを実行します。

- 『ローカル Web サーバーのインスタンス作成後のタスク』
- 『リモート Web サーバーのインスタンス作成後のタスク』

ローカル Web サーバーのインスタンス作成後のタスク

Web サーバーが WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされている場合、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のインスタンスを作成した後、Web サーバーを停止し、再始動する必要があります。

リモート Web サーバーのインスタンス作成後のタスク

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments とは別のノードに Web サーバーがインストールされている場合、WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments のインスタンスの作成後に以下のようにしてください。

1. `plugin-cfg.xml` を WebSphere Commerce ノードから、Web サーバー・ノードにコピーします。詳細は、139 ページの『Web サーバーへの `plugin-cfg.xml` ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments がそれぞれ別のノードにインストールされている場合、WebSphere Commerce Payments ノード上の `plugin-cfg.xml` ファイルの内容を、Web サーバー・ノード上の `plugin-cfg.xml` にマージします。詳細は、140 ページの『WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイルのマージ』を参照してください。
3. このディレクトリが存在しない場合、WebSphere Commerce ノード上の `WAS_installdir` ディレクトリに一致するディレクトリを Web サーバー・ノード上に作成します。
4. 以下のディレクトリを WebSphere Commerce ノードから、Web サーバー・ノードにコピーします。

```
WAS_installdir/installedApps/cell_name/WC_Commerce_instance_name.ear
```

変数は以下のように定義されています。

`WAS_installdir`

この変数のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

`cell_name`

これは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のインストール先のマシンの短いホスト名です。

Commerce_instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

Web サーバー・ノードと WebSphere Commerce ノード上の絶対パスは同じであることを確認してください。

重要

Web サーバー上の *WC_Commerce_instance_name.ear* ディレクトリーから JSP および JAR ファイルをすべて除去することをお勧めします。Web サーバー上の *WC_Commerce_instance_name.ear* ディレクトリーには、静的内容のファイルのみが入ります。

5. IBM HTTP Server を使用している場合、WebSphere Application Server プラグインのパスが、Web サーバー・ノード上の `httpd.conf` ファイルに正しく示されていることを確認します。

パスを調べるには、`httpd.conf` ファイルをテキスト・エディターでオープンして、以下を探します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノード上の `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスが入っているはずです。パスが誤っている場合、パスを変更してから `httpd.conf` ファイルを保存して、Web サーバーを再始動します。

6. IBM HTTP Server を使用している場合、`httpd.conf` ファイルで以下の行のコメントが外されていることを確認します。

```
AddModule mod_ibm_ssl.c
```

7. Web サーバーを停止してから、再始動します。

第 17 章 インスタンス作成後の推奨タスク

インスタンス作成後の必須タスクを実行し終わったら、以下のタスクを実行して、WebSphere Commerce のインストールと構成を先に進めることができます。

WebSphere Commerce インストールのセキュリティの検討

セキュリティは、実働 WebSphere Commerce サイトの重要コンポーネントです。Secure Sockets Layer (SSL)、WebSphere Application Server のセキュリティの使用可能化、およびインストールに応じたシングル・サインオンおよびその他のセキュリティ・オプションの構成に関する詳細は、「*WebSphere Commerce セキュリティ・ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、173 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行

WebSphere Commerce には、WebSphere Commerce において各種機能を例示するいくつかのサンプル・ストアが用意されています。WebSphere Commerce サンプル・ストアは、WebSphere Commerce を習得するために使用したり、カスタマイズ・ストアの開発のベースとして使用したりすることができます。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプの「ストア・アーカイブの発行」の項を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発の詳細は、「*WebSphere Commerce ストア開発者ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、173 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

注: WebSphere Commerce バージョン 5.5 では、サンプル・ストアの発行は一部、WebSphere Commerce 管理コンソールによって行われます。

WebSphere Commerce のその他の付属ソフトウェアのインストール

WebSphere Commerce には、WebSphere Commerce の拡張と機能の追加のためのいくつかの追加のソフトウェア・パッケージが備えられています。

WebSphere Commerce のその他の付属ソフトウェアに関する詳細は、「*WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、173 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

拡張構成タスクの実行

WebSphere Commerce の拡張構成には、連合、クラスター化、および複数インスタンスが関係します。拡張構成については、91 ページの『第 7 部 拡張構成オプション』に説明されています。

第 7 部 拡張構成オプション

第 7 部では、以下の WebSphere Commerce のオプションの拡張構成について解説します。

- 93 ページの『第 18 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』
- 101 ページの『第 19 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合』
- 109 ページの『第 20 章 WebSphere Commerce のクラスター化』

第 18 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

WebSphere Commerce は、複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成をサポートしています。つまり、WebSphere Commerce では、各 WebSphere Commerce インスタンスごとに別々のホスト名を使用することで、複数の WebSphere Commerce インスタンスを同時に実行することができます。この場合、顧客は *host1.domain* および *host2.domain* にアクセスできます。この方法は、仮想ホスト名 の使用を伴います。

WebSphere Commerce Payments を使用して WebSphere Commerce で支払いを処理する場合、WebSphere Commerce の各インスタンスは、その独自の WebSphere Commerce Payments インスタンスを必要とします。作成するすべての新規 WebSphere Commerce インスタンスごとに、新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要もあります。

この章で説明するように、複数インスタンスの主な使用目的は、情報を共有しない異なる実在の WebSphere Commerce を設けることにあります。インスタンスはそれぞれ固有になります。同じ WebSphere Commerce インスタンスの実在をクローンによって複数設けるには、109 ページの『第 20 章 WebSphere Commerce のクラスター化』を参照してください。

複数インスタンスは WebSphere Commerce コンポーネントのどの構成でも作成できますが、この章の情報は、WebSphere Commerce インスタンスとその関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスが同じノードに存在することを前提としています。リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスを使用する複数の WebSphere Commerce インスタンスについては説明されていません。加えて、この章の指示は、Web サーバーが WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードに存在することも前提とします。

また、この章の情報は、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスがすでに存在することも前提とします。この章の説明は、追加の WebSphere Commerce インスタンス、および追加の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成に焦点を当てています。

この章では、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments の複数インスタンスの作成について説明する際、仮想ホスト名を使用する以下の変数が使用されます。

	元のインスタンス	新規インスタンス
WebSphere Commerce インスタンス名	<i>WC_instance_1</i>	<i>WC_instance_2</i>
WebSphere Commerce Payments インスタンス名	<i>Payments_instance_1</i>	<i>Payments_instance_2</i>
IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	yyy.yyy.yyy.yyy
ホスト名	<i>host1</i>	<i>host2</i>

	元のインスタンス	新規インスタンス
ドメイン・ネーム	<i>domain</i>	<i>domain</i>
完全修飾ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>
DB2 WebSphere Commerce データベース名	<i>WC_db1</i>	<i>WC_db2</i>
Oracle WebSphere Commerce データ・ファイル名	<i>Oracle_datafile1</i>	<i>Oracle_datafile2</i>
Oracle WebSphere Commerce データベースのユーザー ID	<i>Oracle_user1</i>	<i>Oracle_user2</i>
Oracle WebSphere Commerce テーブル・スペース名	<i>WC_instance_1TBLSPC</i>	<i>WC_instance_2TBLSPC</i>
DB2 WebSphere Commerce Payments データベース名	<i>Payments_db1</i>	<i>Payments_db2</i>
Oracle WebSphere Commerce Payments テーブル・スペース名	<i>Payments_instance_1TBLSPC</i>	<i>Payments_instance_2TBLSPC</i>

これらの変数は 1 番目と 2 番目のインスタンスのパラメーター値を表しており、これらの値がインスタンス間で固有値となる場所、または共通値となる場所を示すことを目的としています。

通常は操作可能な既存の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスがあるので、追加のインスタンスを作成するだけで済みます。既存のインスタンスがある場合、他のインスタンスを追加するためにそのインスタンスのパラメーター値を変更する必要はありません。ただし判断次第で、マルチインスタンス環境の編成を改善するために、最初のインスタンスのパラメーターの一部を変更することもできます。

前提条件

仮想ホスト名を使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments の複数インスタンスを作成する各ノードが、以下の要件を満たすようにしてください。

- WebSphere Commerce インスタンスごとに独自のホスト名が必要です。このホスト名は、関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスによっても使用されます。
- 各インスタンスのホスト名ごとに独自の IP アドレスが必要です。IP アドレスはネットワーク上で有効であり、関連するホスト名が DNS サーバーに存在しなければなりません。IP アドレスは、元のインスタンスの IP アドレスと同じ VLAN に存在する必要もあります。



- 1 つのインスタンスのノード IP アドレスとホスト名を使用することもできます。この場合、2 つのインスタンスに対しちょうど 2 つの IP アドレスが必要です。
- WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの各セットごとに独自のホスト名が必要です。


注: IBM HTTP Server では、ホスト名に下線文字 (_) を使用できません。

マシンに対する別の IP アドレスの追加についての詳細は、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

- 各インスタンスのホスト名は、完全に別々の IP アドレスに対し解決されなければなりません。たとえば、WebSphere Commerce 構成マネージャーを実行して複数のインスタンスを作成できることを確認するために、各インスタンスごとにホスト名と IP アドレスの両方に対して nslookup コマンドを実行することができます。ホスト名は正しい IP アドレスに対し解決して、IP アドレスは正しいホスト名に対し解決するはずです。

```
nslookup 'host1.domain'  
nslookup 'xxx.xxx.xxx.xxx'
```

```
nslookup 'host2.domain'  
nslookup 'yyy.yyy.yyy.yyy'
```

- システム上の追加 WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスごとにそれぞれ、システムのメモリーを 512MB 単位で増やしてください。
- システム上の追加 WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスごとにそれぞれ、システムのページング・スペースを 1 つのプロセッサにつき 1GB 単位で増やしてください。
-  WebSphere Commerce とともに Oracle9i Database を使用する場合、追加 WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスはそれぞれ、独自のデータ・ファイルを必要とします。WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が必要とするテーブル・スペースと Oracle9i Database ID は、インスタンスを作成するときに自動的に作成されます。

Web サーバーの前提条件

Sun ONE Web Server を使用する場合は、以下のようにします。

1. 新規仮想ホスト名および新規 IP アドレスに関連付けられた新規 Web サーバーを作成する。詳しくは、Web サーバーの資料を参照してください。
2. 29 ページの『第 3 部 Web サーバーのインストール』の指示に従って、Web サーバーを構成する。

続ける前に、以下の URL が機能することを確認してください。




元のインスタンス	新規インスタンス
<ul style="list-style-type: none"> • <code>http://host1.domain</code> • <code>http://host1.domain:5432</code> • <code>https://host1.domain</code> • <code>https://host1.domain:5433</code> • <code>https://host1.domain:8000</code> • <code>https://host1.domain:8002</code> • <code>https://host1.domain:8004</code> 	<ul style="list-style-type: none"> • <code>http://host2.domain</code> • <code>http://host2.domain:5432</code> • <code>https://host2.domain</code> • <code>https://host2.domain:5433</code> • <code>https://host2.domain:8000</code> • <code>https://host2.domain:8002</code> • <code>https://host2.domain:8004</code>

複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成

最初の WebSphere Commerce インスタンスをすでに作成したと想定した場合、77 ページの『第 14 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』の指示に従って、必要な追加のインスタンスを 1 つずつ作成できます。以下の表で、既存のインスタンスは**元のインスタンス**で表され、新規のインスタンスは**新規インスタンス**で表されます。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。

複数の WebSphere Commerce インスタンスは同じ WebSphere Commerce 構成マネージャー・セッションに作成することができます。

以下の表は、新しいインスタンスの変更済みデフォルト値をリストしています。これらの値を、インスタンスのために使用したい実際の値で置き換えてください。

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
インスタンス - インスタンス名	<code>WC_instance_1</code>	<code>WC_instance_2</code>
インスタンス - インスタンス・ルート・パス	<code>WC_installdir/ instances/ WC_instance_1</code>	<code>WC_installdir/instances/ WC_instance_2</code>
 データベース - データベース名	<code>WC_db1</code>	<code>WC_db2</code>
 データベース - データ・ファイル名	<code>Oracle_datafile1</code>	<code>Oracle_datafile2</code>
 データベース - データベース・ユーザー ID	<code>Oracle_user1</code>	<code>Oracle_user2</code>

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
データベース - テーブル・スペース名 > Oracle	<i>WC_instance_1TBLSPC</i>	<i>WC_instance_2TBLSPC</i>
Web サーバー - ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>
Web サーバー - 1 次文書ルート (IBM HTTP Server)	<i>HTTP_installdir/htdocs1</i>	<i>HTTP_installdir/htdocs2</i>
Web サーバー - 1 次文書ルート (Sun ONE Web Server)	<i>SunONEweb_installdir/docs1</i>	<i>SunONEweb_installdir/docs2</i>
WebSphere Commerce Payments - ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>

WC_installdir、*SunONEweb_installdir*、および *IBM HTTP Server* のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧されています。

78 ページの『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、インスタンスの作成を検証します。

WebSphere Commerce Payments を使用して WebSphere Commerce で支払いを処理する場合、各追加 WebSphere Commerce インスタンスごとに WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要があります。

複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

最初の WebSphere Commerce Payments インスタンスをすでに作成したと想定した場合、81 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の指示に従って、必要な追加のインスタンスを 1 つずつ作成できます。以下の表で、既存のインスタンスは**元のインスタンス**で表され、新規のインスタンスは**新規インスタンス**で表されます。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。

複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスは同じ WebSphere Commerce 構成マネージャー・セッションに作成することができます。

以下の表は、新しいインスタンスの変更済みデフォルト値をリストしています。これらの値を、インスタンスのために使用したい実際の値で置き換えてください。

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
インスタンス - インスタンス名	<i>Payments_instance_1</i>	<i>Payments_instance_2</i>
データベース - データベース名 > DB2	<i>Payments_db1</i>	<i>Payments_db2</i>

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
Oracle データベース - データ・ファイル名	Oracle_datafile1	Oracle_datafile2
Oracle データベース - データベース・ユーザー ID	Oracle_user1	Oracle_user2
Oracle データベース - テーブル・スペース名	Payments_instance_1TBLSPC	Payments_instance_2TBLSPC
Web サーバー - ホスト名	host1.domain	host2.domain
WebSphere Commerce - ホスト名	host1.domain	host2.domain
Web サーバー - 1 次文書ルート (IBM HTTP Server)	HTTP_installdir/htdocs1	HTTP_installdir/htdocs2
Web サーバー - 1 次文書ルート (Sun ONE Web Server)	SunONEweb_installdir/docs1	SunONEweb_installdir/docs2

82 ページの『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、インスタンスの作成を検証します。

追加の WebSphere Commerce Payments インスタンスを検証した後、インスタンスをテストします。

複数インスタンスのテスト

元のインスタンスと新規インスタンスをテストするには、以下のようにします。

1. すべての WebSphere Commerce インスタンスを開始する。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』を参照してください。
2. すべての WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始する。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』を参照してください。

3. 以下の URL をテストする。

元のインスタンス	新規インスタンス
<ul style="list-style-type: none">• http://host1.domain• http://host1.domain:5432/webapp/PaymentManager• https://host1.domain• https://host1.domain:5433/webapp/PaymentManager• https://host1.domain:8000/accelerator• https://host1.domain:8002/adminconsole• https://host1.domain:8004/orgadminconsole	<ul style="list-style-type: none">• http://host2.domain• https://host2.domain:5432/webapp/PaymentManager• https://host2.domain• https://host2.domain:5433/webapp/PaymentManager• https://host2.domain:8000/accelerator• https://host2.domain:8002/adminconsole• https://host2.domain:8004/orgadminconsole

第 19 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments は、WebSphere Application Server の基本製品と一緒にインストールされます。WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments はどちらも、WebSphere Application Server の基本ノードとみなすことができます。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントは、アプリケーション・サーバーを WebSphere Application Server 管理コンソールから開始するためのメカニズムを備えています。そのメカニズムを、アプリケーション・サーバー・ノードの連合と呼びます。アプリケーション・サーバー・ノードは、セルに連合されますが、セル内のすべてのアプリケーション・サーバーは、デプロイメント・マネージャーによって管理されます。デプロイメント・マネージャーは、アプリケーション・サーバーも兼任します。セルを、デプロイメント・マネージャー・セルと呼ぶこともできます。

WebSphere Commerce ノードと WebSphere Commerce Payments ノードを 1 つのデプロイメント・マネージャー・セルに連合すれば、WebSphere Application Server 管理コンソールから、この両方のアプリケーション・サーバーを開始、停止、および管理することができます。WebSphere Application Server 管理コンソールは、ブラウザ・ベースのアプリケーションであるため、これには、Web ブラウザーを持ったセルと同じネットワーク上のどのマシンからでもアクセスすることができます。WebSphere Application Server 管理コンソールでの Web ブラウザーの要件の詳細は、WebSphere Application Server の資料を参照してください。

重要

WebSphere Commerce を連合する前に、WebSphere Application Server 管理構成をバックアップするよう強くお勧めします。管理構成をバックアップしておくと、連合の処理中に連合に失敗した場合でも、元の構成を復元できます。詳細は、以下の URL でアクセス可能な WebSphere Application Server InfoCenter の『Backing up and restoring administrative configurations』を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

WebSphere Commerce の連合

WebSphere Commerce をデプロイメント・マネージャー・セルに連合するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、データベース、および Web サーバーのインストール先とは別のマシンに WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント製品をインストールします。今後このマシンは、デプロイメント・マネージャーに対するホストになります。

デプロイメント・マネージャーに対するホストとなるのは、1つのシステムだけです。そのシステムは、アプリケーション・サーバーへの連合時に、その管理下のセルを拡張します。デプロイメント・マネージャーと同じマシン上に他のアプリケーション・サーバーをインストールすることができますが、この2つの製品をホスティングするだけの容量を備えたマシンでない限り、通常はそのようなインストールは行いません。デプロイメント・マネージャーは、中央管理のマネージャーだからです。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに関する解説は、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Getting started*」に述べられています。この資料は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント CD の docs ディレクトリーに PDF ファイルで収められています。

重要: WebSphere Commerce README ファイルに説明されている WebSphere Application Server フィックスを、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに必ず適用してください。

README ファイルの詳細は、17 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。

これらのフィックスを適用しないと、連合後に WebSphere Commerce が正しく機能しません。

2. WebSphere Commerce ノードと WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのノードには、必ず root でログインしてください。
3. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシン上で、デプロイメント・マネージャーを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. 次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。

```
WAS_installdir/bin/addNode.sh
  deployment_manager_machine_name deployment_manager_port [-includeapps]
```

表示上の制限のためにコマンドは複数行に分けて示されていますが、このコマンドは 1 行に入力してください。

変数とパラメーターは、以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

deployment_manager_machine_name

これは、デプロイメント・マネージャー・マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

deployment_manager_port

これは、デプロイメント・マネージャーが listen する対象のポートです。デプロイメント・マネージャーのデフォルト・ポートは 8879 です。

-includeapps

このパラメーターはオプションです。

以下の 1 つ以上の条件が当てはまる場合は、このパラメーターを指定します。

- デプロイメント・マネージャー・セルに組み込む WebSphere Commerce ノード上に WebSphere Commerce 以外のアプリケーションがある。
- WebSphere Commerce インスタンスが WebSphere Commerce ノード上に存在する。 WebSphere Commerce インスタンスを作成していない場合は、このパラメーターは不要です。



メモリー不足のエラーが生じた場合、その問題の解決に関する情報は、168 ページの『addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す』を参照してください。

5. WebSphere Commerce インスタンスが入っている WebSphere Commerce ノードを連合してあり、これらの WebSphere Commerce インスタンスをデプロイメント・マネージャー・セルに連合する場合は、ノード上の WebSphere Commerce インスタンスごとに、WebSphere Commerce マシン上で次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーに必要な仮想ホストを作成します。

```
WC_installdir/bin/createVirtualHosts.sh instance_name
```

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

注: このステップを実行する必要があるのは、連合するノード上に WebSphere Commerce インスタンスが存在する場合だけです — インスタンスは、セルに連合する 1 つのノードだけに含まれている必要があります。

追加の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに追加する場合や、ノード上に WebSphere Commerce インスタンスを作成していない場合は、このステップは不要です。

6. WebSphere Commerce マシン上で以下のコマンドを *root* として発行して、重要な WebSphere Commerce ファイルの許可を訂正します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

重要: このコマンドを実行する前に、アプリケーション・サーバーが実行されていないことを確認します。

7. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーのプロセス実行ユーザー ID とグループを変更します。詳細は、106 ページの『プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに統合し終わったら、135 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』の説明に従って WebSphere Commerce を開始および停止することができます。

WebSphere Commerce Payments の連合

WebSphere Commerce Payments をデプロイメント・マネージャー・セルに統合するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、データベース、および Web サーバーのインストール先とは別のマシンに WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント製品をまだインストールしていなければ、ここでインストールします。

デプロイメント・マネージャーに対するホストとなるのは、1 つのシステムだけです。そのシステムは、アプリケーション・サーバーへの連合時に、その管理下のセルを拡張します。デプロイメント・マネージャーと同じマシン上に他のアプリケーション・サーバーをインストールすることができますが、この 2 つの製品をホスティングするだけの容量を備えたマシンでない限り、通常はそのようなインストールは行いません。デプロイメント・マネージャーは、中央管理のマネージャーだからです。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに関する解説は、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Getting started*」に述べられています。この資料は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント CD の docs ディレクトリーに PDF ファイルで収められています。

重要: WebSphere Commerce README ファイルに説明されている WebSphere Application Server フィックスを、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに必ず適用してください。

README ファイルの詳細は、17 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。

これらのフィックスを適用しないと、連合後に WebSphere Commerce Payments が正しく機能しません。

2. WebSphere Commerce Payments ノードと WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのノードには、必ず `root` でログインしてください。
3. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのノードで、デプロイメント・マネージャー・アプリケーション・サーバーを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. 次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。

```
WAS_installdir/bin/addNode.sh  
  deployment_manager_machine_name deployment_manager_port [-includeapps]
```

表示上の制限のためにコマンドは複数行に分けて示されていますが、このコマンドは 1 行に入力してください。

変数とパラメーターは、以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

deployment_manager_machine_name

これは、デプロイメント・マネージャー・マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

deployment_manager_port

これは、デプロイメント・マネージャーが listen する対象のポートです。デプロイメント・マネージャーのデフォルト・ポートは 8879 です。

-includeapps

このパラメーターはオプションです。

以下の 1 つ以上の条件が当てはまる場合は、このパラメーターを指定します。

- デプロイメント・マネージャー・セルに組み込む WebSphere Commerce ノード上に WebSphere Commerce Payments 以外のアプリケーションがある。
- WebSphere Commerce Payments インスタンスが WebSphere Commerce Payments ノード上に存在する。WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成していない場合は、このパラメーターは不要です。



メモリー不足のエラーが生じた場合、その問題の解決に関する情報は、168 ページの『addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す』を参照してください。

5. WebSphere Commerce Payments インスタンスが入っている WebSphere Commerce Payments ノードを連合してある場合は、WebSphere Commerce Payments マシン上で次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーに必要な仮想ホストを作成します。

WC_installdir/payments/bin/createPaymentsVirtualHost.sh instance_name

instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Commerce Payments インスタンス名は *wpm* です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

ノード上に WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成していない場合は、このステップは不要です。

6. WebSphere Commerce マシン上で以下のコマンドを実行して、重要な WebSphere Commerce Payments ファイルの許可を訂正します。

WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

このコマンドを実行する前に、アプリケーション・サーバーが実行されていないことを確認します。

7. WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーのプロセス実行ユーザー ID とグループを変更します。詳細は、『プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連合し終わったら、135 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』の説明に従って WebSphere Commerce Payments を開始および停止することができます。

プロセス実行ユーザー ID およびグループの変更

WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー・ノードをセルに連合し終わったら、プロセス実行ユーザーおよびグループを、WebSphere Commerce のインストールの前に作成した root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID とグループに変更する必要があります。

ここで説明する手順は、デプロイメント・マネージャー・セルに追加したノードごとに実行する必要があります。

セル内のノードのプロセス実行ユーザー ID とグループを変更するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバー・ノードには、必ず root でログインしてください。
2. アプリケーション・サーバー・ノードで、ノード・エージェントを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシンで、デプロイメント・マネージャー・アプリケーション・サーバーを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」をクリックします。「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」ページが表示されます。
6. 「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」で、アプリケーション・サーバーの名前をクリックします。アプリケーション・サーバーのページが表示されます。

WebSphere Commerce の場合のアプリケーション・サーバーの名前は、`WC_commerce_instance_name` です。ただし `commerce_instance_name` は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WebSphere Commerce Payments の場合のアプリケーション・サーバーの名前は、`payments_instance_name_Commerce_Payments_Server` です。ただし `payments_instance_name` は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

7. アプリケーション・サーバー・ページの「追加プロパティ (Additional Properties)」テーブルで、「プロセス定義 (Process Definition)」をクリックします。「プロセス定義 (Process Definition)」ページが表示されます。
8. 「プロセス定義 (Process Definition)」ページの「追加プロパティ (Additional Properties)」テーブルで、「プロセスの実行 (Process Execution)」をクリックします。「プロセスの実行 (Process Execution)」ページが表示されます。
9. 「ユーザーとして実行 (Run as user)」フィールドに、WebSphere Commerce のインストール前に作成した root 以外のユーザー ID を入力します。
10. 「グループとして実行 (Run as group)」フィールドに、root 以外のユーザー ID が所属するユーザー・グループを入力します。
11. 「OK」をクリックします。
12. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
13. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
14. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
15. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
16. アプリケーション・サーバー・ノードで以下を行って、root 以外のユーザーとしてノード・エージェントを再始動します。
 - a. ノード・エージェントを停止します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
 - b. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Commerce のインストールの前に作成した root 以外のユーザー ID にユーザーを切り替えます。

```
su - non_root_user_ID
```

ただし `non_root_user_ID` は、WebSphere Commerce のインストールの前に作成された root 以外のユーザー ID です。
 - c. ノード・エージェントを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。

セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去

アプリケーション・サーバー・ノードが、ノードのメンバーである場合、そのアプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルから除去するには、先にクラスターからそのアプリケーション・サーバー・ノードを除去する必要があります。

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルから除去するには、次のようにします。

1. セル内の各ノードで、ノード・エージェントを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシン上で、デプロイメント・マネージャーを開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. アプリケーション・サーバー・ノード・マシンで、以下のコマンドを実行します。

```
WAS_installdir/bin/removeNode.sh
```

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。



メモリー不足のエラーが生じた場合、その問題の解決に関する情報は、168 ページの『removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す』を参照してください。

`removeNode` コマンドだけが、ノード固有の構成をセルから除去します。このコマンドは、`addNode` コマンドの処理結果としてインストールされたアプリケーションをアンインストールすることはありません。そのようなアプリケーションは、インストール後、Network Deployment セル内の別のサーバー上でデプロイされている可能性があるからです。

`removeNode` コマンドの詳細は、WebSphere Application Server の資料を参照してください。

第 20 章 WebSphere Commerce のクラスター化

この章では、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのクラスター化メカニズムの使用方法を示します。

WebSphere Commerce は、WebSphere Commerce Server のインストール先として選ばれた各ノードに基本 WebSphere Application Server 製品をインストールします。WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント製品は、WebSphere Commerce のインストール後に別のマシンにインストールする必要があります。

この章では、WebSphere Commerce での以下のタイプのクラスター化について述べています。

- 111 ページの『水平複製のクラスター化』
- 112 ページの『垂直複製のクラスター化』

WebSphere Commerce Payments はクラスター化をサポートしないので、WebSphere Commerce のクラスター化の場合、クラスター内のどの WebSphere Commerce ノードでも、同じ WebSphere Commerce Payments インスタンスを使用しなければなりません。ただし、WebSphere Commerce クラスターと一緒に WebSphere Commerce Payments を管理する場合、104 ページの『WebSphere Commerce Payments の連合』の説明に従って、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーを、WebSphere Commerce クラスターと同じデプロイメント・マネージャー・セルに連合することができます。

クラスター化の詳細は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの資料を参照してください。

重要

WebSphere Commerce をクラスター化する前に、WebSphere Application Server 管理構成をバックアップするよう強くお勧めします。管理構成をバックアップしておくと、クラスター化の処理中にクラスター化に失敗した場合でも、元の構成を復元できます。詳細は、以下のアドレスの WebSphere Application Server InfoCenter の『Backing up and restoring administrative configurations』を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

次のページの図は、WebSphere Commerce のカスタム 5 ノード・インストールでのクラスター化を示しています。

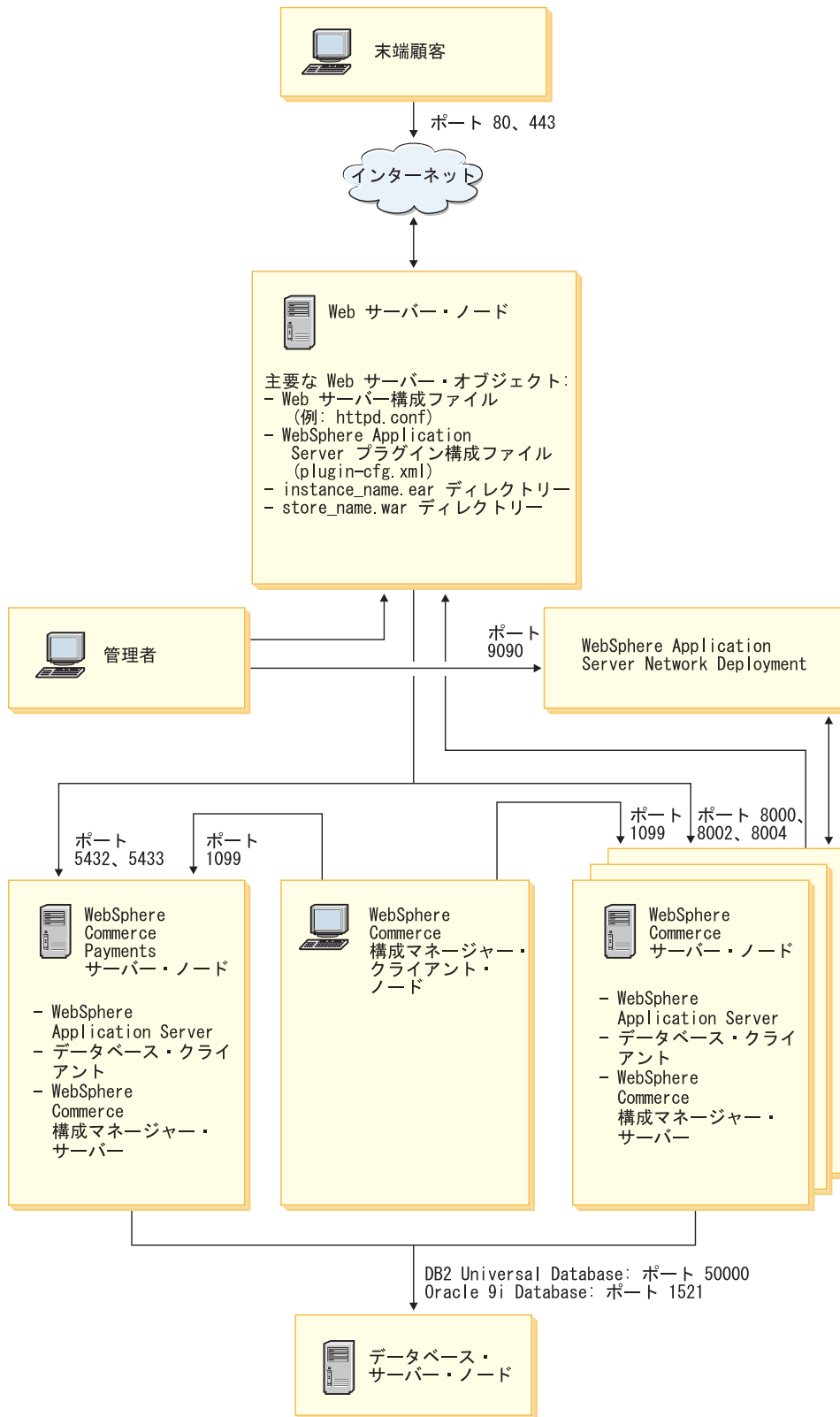


図 3. クラスタ化されたカスタム 5 ノード・インストール

水平複製のクラスター化

水平複製を使用したクラスター化は、複数の物理マシン上のアプリケーション・サーバーのクラスター化を定義する伝統的な手法であり、これによって、1つのアプリケーションが1つのシステム・イメージを表しながら、複数のマシンにまたがって存在することができます。水平複製を使用したクラスター化は、スループットと高可用性を増進する手段になります。

水平複製を使用したクラスター化の場合は、リモート Web サーバーとリモート・データベースの両方を使用することをお勧めします。

水平複製を使用したクラスターを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードのインストールを完了します。詳細は、35 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。詳細は、101 ページの『WebSphere Commerce の連合』を参照してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスを作成します。詳細は、71 ページの『第 5 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』を参照してください。
4. クラスターに追加しようとしている各ノードごとに、追加の水平複製を準備します。詳細は、112 ページの『水平複製の準備』を参照してください。
5. WebSphere Commerce クラスターを作成します。詳細は、113 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』を参照してください。
6. 各クラスター・メンバーの JDBC プロバイダー・パスを検証します。詳細は、114 ページの『JDBC プロバイダー・パスの検証』を参照してください。
7. Web サーバー・プラグインを再生成します。詳細は、116 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。
8. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、117 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
9. WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、117 ページの『WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー』を参照してください。

重要

水平複製を使用したクラスターにストアを発行する前に、121 ページの『WebSphere Commerce クラスター内でのストアの発行』を確認してください。

垂直複製のクラスター化

垂直複製を使用したクラスター化とは、1つの物理マシン上に複数のアプリケーション・サーバーの複製を定義する手法をいいます。これまでの実績では、1つのJava仮想マシン(JVM)プロセスによってインプリメントされた1つのアプリケーション・サーバーは、必ずしも大型のマルチプロセッサ・マシンのCPU能力をすべて利用しているわけではないことが示されています。垂直複製を使用したクラスター化は、複数のJVMプロセスを作成するための手際の良いメカニズムとして機能するので、それらのプロセスがまとまってすべての処理能力を全面的に活用することができます。

垂直複製を使用したクラスターを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードのインストールを完了します。詳細は、35ページの『第4部 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。詳細は、101ページの『WebSphere Commerce の連合』を参照してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスを作成します。詳細は、71ページの『第5部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』を参照してください。
4. WebSphere Commerce クラスターを作成します。詳細は、113ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』を参照してください。
5. Web サーバー・プラグインを再生成します。詳細は、116ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。

水平複製の準備

この項は、水平複製を使用したクラスター化にのみ当てはまります。

水平複製を使用したクラスター化の一環として、各マシンごとに、水平複製を収容するクラスターの一部を成す WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Server コンポーネントをインストールする必要があります。

水平複製を準備するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Server コンポーネントを、水平複製をホスティングするマシン上にインストールします。それには、WebSphere Commerce インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使います。カスタム・インストールの実行に関する説明は、61ページの『第11章 カスタム・インストールの実行』に述べられています。

DB2 カスタム・インストールの実行時にデータベースとして DB2 を使用することにした場合、インストール・ウィザードは、そのマシン上に DB2 管理クライアントと WebSphere Commerce Server コンポーネントをインストールします。

Oracle カスタム・インストールの実行時にデータベースとして Oracle を使用することにした場合、WebSphere Commerce インストール・ウィザードの開始の前に、25ページの『リモート WebSphere Commerce データベースとしての

Oracle9i Database の使用』のステップ 2 (25 ページ) に概略されているとおりに、Oracle クライアント・マシン用の Oracle コンポーネントをインストールする必要があります。

2. 新しい WebSphere Commerce ノードから WebSphere Commerce データベースにアクセスできることを確認します。

DB2 リモート WebSphere Commerce データベース・ノードとリモート WebSphere Commerce データベースをカタログする必要があるかもしれません。詳細は、147 ページの『リモート DB2 データベースをカタログに入れる』を参照してください。

Oracle リモート WebSphere Commerce データベースへのアクセスの確保に関する詳細は、Oracle9i Database の資料を参照してください。

重要: 新しい WebSphere Commerce ノード上に WebSphere Commerce インスタンスを作成しないでください。

WebSphere Commerce クラスターの作成

この項の解説では、元の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの入った新規のクラスターを作成します。このクラスターを作成した後、そのクラスター内にさらに別のノードを作成できます。

新規の WebSphere Commerce クラスターを作成するには、次のようにします。

1. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスターに追加したい各ノードごとに開始します。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
各ノード・エージェントを root 以外の WebSphere Commerce ユーザーとして開始してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. 「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページの「新規」をクリックします。「新規クラスターの作成 (Create New Cluster)」ページが表示されます。
6. 「クラスター名 (Cluster Name)」フィールドにクラスターの名前を入力します。
7. 「既存のサーバー (Existing server)」フィールドで、「このクラスターに追加する既存のアプリケーション・サーバーの選択 (Select an existing application server to add to this cluster)」を選択して、既存のサーバーのリストで、WebSphere Commerce アプリケーションをプルダウン・リストから

選択します。リスト中の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前が、以下の形式で一覧で示されます。

cell_name/machine_name/WC_instance_name

詳細は次のとおりです。

cell_name

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーが所属するセルの名前です。

machine_name

WebSphere Commerce マシンの短いホスト名です。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

8. 「次へ」をクリックします。「新規クラスター・サーバーの作成 (Create New Clustered Servers)」ページが表示されます。
9. 「メンバー名 (Member Name)」フィールドに、作成する新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの名前を入力します。
10. 「メンバーの選択 (Select Member)」フィールドで、新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成場所となるマシンの名前を選択します。

水平クラスター化の場合にはマシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前とは異なる名前になります。

垂直クラスター化の場合にはマシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前と同じ名前になります。

11. 「HTTP ポート (Http Ports)」フィールドで、「固有の HTTP ポートの生成 (Generate unique Http ports)」が選択されていることを確認します。
新規クラスター・メンバーの作成時に設定できるその他のパラメーターの詳細は、『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント』の資料を参照してください。
12. 「適用」をクリックします。
13. さらにクラスター・メンバーを追加したければ、追加するクラスター・メンバーごとにステップ 9 から 12 までを繰り返します。
14. クラスター・メンバーを追加し終わったら、「次へ」をクリックします。
15. 「終了」をクリックします。
16. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
17. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
18. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
19. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。

JDBC プロバイダー・パスの検証

クラスター・メンバーごとに、JDBC プロバイダー・パスが正しく設定されていることを確認する必要があります。確認しないと、クラスターが正しく機能しなくなる原因になることがあります。

各クラスター・メンバーの JDBC プロバイダー・パスを検証するには、次のようにします。

1. ノード・エージェントをまだ開始していなければ、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントによって管理されている各システムごとに開始します。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「リソース」を拡張表示してから、「**JDBC プロバイダー (JDBC Providers)**」をクリックします。「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」が表示されます。
5. 「ノード」フィールドで、クラスター・メンバーを置くマシンの名前を入力します。これは通常、アプリケーション・サーバーが稼働するマシンのものと同じ名前です。

使用可能なノードのリストは、「ブラウズ」をクリックすると表示されます。

6. 「サーバー」フィールドで、検証しようとしている JDBC プロバイダー・パスをもったアプリケーション・サーバーの名前を入力します。これは、クラスター・メンバーのメンバー名です。

使用可能なアプリケーション・サーバーのリストは、「ブラウズ」をクリックすると表示されます。

7. 「適用」をクリックします。JDBC プロバイダーのリストが最新表示になります。
8. 以下の JDBC プロバイダーをクリックします。

instance_name - WebSphere Commerce JDBC Provider

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

9. 「クラスパス (Classpath)」フィールドに示されているパスは、クラスター・メンバーが置かれているマシン上の JDBC ドライバーの絶対パスであることを確認します。

示されたパスが正しいければ、「キャンセル」をクリックします。

示されたパスが誤っていれば、次のようにします。

- a. JDBC ドライバーの正しいパスを「クラスパス (Classpath)」フィールドに入力します。
 - b. 「OK」をクリックします。
 - c. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
 - d. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
 - e. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
10. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成

この項に述べているタスクはすべて、WebSphere Commerce のインストール前に作成した `root` 以外のユーザーとして実行します。

Web サーバー・プラグインを再生成するには、以下のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. ノード・エージェントをまだ開始していなければ、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントによって管理されている各システムごとに開始します。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
3. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション・エリアの「**環境 (Environment)**」を拡張表示してから、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックすると、新規の `plugin-cfg.xml` ファイルが生成されます。
7. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
8. `plugin-cfg.xml` ファイルをテキスト・エディターでオープンします。
`plugin-cfg.xml` ファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

```
WAS_installdir/cells/config
```

`plugin-cfg.xml` ファイル内のすべての絶対パス情報を確認します。絶対パス情報はすべて、WebSphere Commerce ノード上の WebSphere Application Server の絶対パス情報に一致していなければなりません。

たとえば、新たに生成された `plugin-cfg.xml` ファイル内ではいくつかのエレメントに `/opt/WebSphere/DeploymentManager` が入っているのに、WebSphere Application Server が WebSphere Commerce ノード上の `/usr/WebSphere/AppServer` にインストールされている場合、`plugin-cfg.xml` ファイル内の `/opt/WebSphere/DeploymentManager` のすべての出現箇所を `/usr/WebSphere/AppServer` に変更します。

行ったすべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。

9. 再生成された `plugin-cfg.xml` ファイルを WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシンから Web サーバーにコピーします。詳細は、139 ページの『Web サーバーへの `plugin-cfg.xml` ファイルのコピー』を参照してください。
10. WebSphere Commerce Payments を WebSphere Commerce クラスターと同じデプロイメント・マネージャー・セルに連合していない場合は、WebSphere Commerce Payments `plugin-cfg.xml` ファイルの内容を、Web サーバー上の新

規の `plugin-cfg.xml` ファイルにマージします。詳細は、140 ページの『WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイルのマージ』を参照してください。

注: WebSphere Commerce Payments とオリジナルの WebSphere Commerce ノードが別々のマシンにある場合は、このステップをスキップしてください。

11. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。

インスタンス情報のコピー

水平クラスター内の各 WebSphere Commerce 複製ごとに、WebSphere Commerce インスタンス・ストア情報を、元の WebSphere Commerce ノードからクラスター・メンバーにコピーしなければなりません。

この項に述べているタスクはすべて、WebSphere Commerce のインストール前に作成した `root` 以外のユーザーとして実行します。

ここで説明するステップは、新規の WebSphere Commerce インスタンスをクラスター内に作成した後で実行する必要もあります。

インスタンス情報を水平複製にコピーするには、以下のようにします。

1. クラスターが稼働中の場合は、停止します。詳細は、120 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。
2. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
3. 元の WebSphere Commerce ノード上の以下のディレクトリーの内容を、水平複製上の同じディレクトリーにコピーします。

`WC_installdir/instances/instance_name`

`instance_name` は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

4. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。
5. クラスターを始動します。詳細は、120 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー

水平クラスター内の各 WebSphere Commerce 複製ごとに、WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を、元の WebSphere Commerce ノードからクラスター・メンバーにコピーしなければなりません。

この項に述べているタスクはすべて、WebSphere Commerce のインストール前に作成した `root` 以外のユーザーとして実行します。

ここで説明するステップは、クラスター内にストアを発行するたびに実行する必要もあります。

アプリケーションおよびストア情報を水平複製にコピーするには、以下のようになります。

1. クラスターが稼働中の場合は、停止します。詳細は、120 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。
2. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
3. 元の WebSphere Commerce ノード上の以下のディレクトリーの内容を、水平複製上の同じディレクトリーにコピーします。

```
WAS_installdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear
```

変数は以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

cell_name

これは、デプロイメント・マネージャー・セルの名前です。

instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

4. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。
5. クラスターを始動します。詳細は、120 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。

さらに別のクラスター・メンバーの追加

この項の解説では、113 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』で作成したクラスターにさらにメンバーを追加する方法について説明します。

さらに別のクラスター・メンバーを追加するには、以下のようになります。

1. 水平複製をクラスターに追加したい場合、112 ページの『水平複製の準備』のタスクを完了します。
2. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスターに追加したい各ノードごとに開始します。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
各ノード・エージェントを root 以外の WebSphere Commerce ユーザーとして開始してください。
3. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されません。
6. クラスターが停止していることを確認します。クラスターが停止していない場合、クラスター名を選択してから「停止」をクリックします。

7. クラスタ名をクリックします。
8. 「追加プロパティ (Additional Properties)」テーブルの「**クラスター・メンバー (Cluster Members)**」をクリックします。
9. 「クラスター・メンバー (Cluster Members)」ページで「**新規**」をクリックします。
10. 「**メンバー名 (Member Name)**」フィールドに、作成する新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの名前を入力します。
11. 「**メンバーの選択 (Select Member)**」フィールドで、新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成場所となるマシンの名前を選択します。

水平クラスター化の場合にはマシン名は、もともと WebSphere Commerce をインストールしたマシンのものとは異なる名前になります。

垂直クラスター化の場合にはマシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前と同じ名前です。
12. 「**HTTP ポート (Http Ports)**」フィールドで、「**固有の HTTP ポートの生成 (Generate unique Http ports)**」が選択されていることを確認します。

新規クラスター・メンバーの作成時に設定できるその他のパラメーターの詳細は、『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント』の資料を参照してください。
13. 「**適用**」をクリックします。
14. クラスタ内にさらに別の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードを作成するには、「**メンバー名 (Member Name)**」フィールドに新規ノード名を入力してから、「**適用**」をクリックします。

そのクラスタ内に追加したい WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成がすべて完了するまで、上記のステップを繰り返します。
15. 「**次へ**」をクリックします。
16. 「**終了**」をクリックします。
17. 管理コンソールの最上部にあるメニュー内の「**保管**」をクリックします。「保管」ページが表示されます。
18. 「保管」ページで「**ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)**」を選択します。
19. 「保管」ページの「**保管**」をクリックします。
20. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
21. web サーバー・プラグイン構成ファイルを再生成します。詳細は、116 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。
22. 再生成された plugin-cfg.xml ファイルを WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシンから Web サーバーにコピーします。詳細は、139 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
23. 新規の水平複製をクラスターに追加する場合は、以下のようになります。
 - a. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードから新規の各水平複製にコピーします。詳細は、117 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。

- b. WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードから新規の各水平複製にコピーします。詳細は、117 ページの『WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー』を参照してください。

WebSphere Commerce クラスターの開始または停止

この項に述べているタスクはすべて、WebSphere Commerce のインストール前に作成した root 以外のユーザーとして実行します。

WebSphere Commerce クラスターを開始または停止するには、以下のようにします。

1. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスター内の各ノードで開始します。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始して、このコンソールにログオンします。WebSphere Application Server 管理コンソールの開始に関する説明は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されません。
5. 開始または停止しようとしているクラスターの隣のチェック・ボックスを選択して、「開始」または「停止」をクリックします。

クラスター・メンバーの除去

アプリケーション・サーバー・ノードをクラスターから除去するには、次のようにします。

1. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスター内の各ノードで開始します。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
各ノード上のノード・エージェントを root 以外の WebSphere Commerce ユーザーとして開始してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。

4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. クラスター・リストから、メンバーシップを変更したいクラスターを選択します。クラスターのプロパティ・ページが表示されます。
6. 「追加プロパティ (Additional Properties)」テーブルの「クラスター・メンバー (Cluster members)」をクリックします。「クラスター・メンバー (Cluster Members)」ページが表示されます。
7. クラスターから除去したいクラスター・メンバーを選択してから、「削除」をクリックします。
8. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
9. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
10. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
11. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
12. Web サーバー・プラグインを再生成し、そのプラグインを Web サーバーにコピーします。詳細は、116 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce クラスター内でのストアの発行

水平複製を使用したクラスター内でのストアの発行

水平複製を使用したクラスター内にストアを発行するには、次のようにします。このステップの元の *WebSphere Commerce* ノード とは、発行するストアのすべての情報 (SAR ファイルを含む) が入っているノードのことです。

1. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、117 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、117 ページの『WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー』を参照してください。
3. ストアを発行します。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプの「ストア・アーカイブの発行」の項を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発の詳細は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、173 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

垂直複製を使用したクラスター内でのストアの発行

垂直複製を使用したクラスター内でストアを発行する場合は、追加のステップは不要です。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプの「ストア・アーカイブの発行」の項を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発の詳細は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、173 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

第 8 部 インストールと管理のタスク

第 8 部では、WebSphere Commerce のインストールと管理において実行する必要のあるさまざまなタスクについて説明しています。

第 21 章 WebSphere Commerce のタスク

この章では、WebSphere Commerce のインストールと管理の際に実行する必要があると思われる WebSphere Commerce タスクに関する指示を述べています。

WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. Web サーバーが開始されていることを確認します。
3. 開始しようとしている WebSphere Commerce インスタンスのアプリケーション・サーバーを開始、停止、または再始動します。アプリケーション・サーバーの開始および停止の説明は、133 ページの『アプリケーション・サーバーの開始または停止』に記載されています。

注: インスタンスを初めて開始するときには、開始までに長い時間がかかります。この遅延は、Java プログラムに関する情報のキャッシュによるものです。遅延が長引くとしても、それ以降の試行では始動時間が改善されます。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止

WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. Web サーバーが開始されていることを確認します。
3. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
4. 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」→「**ホスト名**」→「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
5. 開始または停止したい WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を右マウス・ボタンでクリックしてから、以下のいずれかを行います。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始するには、ポップアップ・メニューの「**Payments インスタンスの開始**」を選択します。インスタンスの開始の正常完了のダイアログが表示されたら、「**OK**」をクリックしてダイアログを終了します。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを停止するには、ポップアップ・メニューの「**Payments インスタンスの停止**」を選択します。

注: インスタンスを初めて開始するときには、開始までに長い時間がかかります。この遅延は、Java プログラムに関する情報のキャッシュによるものです。遅延が長引くとしても、それ以降の試行では始動時間が改善されます。

WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更

WebSphere Commerce インスタンスの構成設定を変更する場合は、構成マネージャーから実行できます。

構成マネージャーを使用して WebSphere Commerce インスタンスを更新するには、以下のようにします。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
3. インスタンスのリストから、構成するインスタンスを選択し、設定を変更するノードを選択します。構成マネージャーの各種子のフィールドとパネルの詳細は、構成マネージャーのオンライン・ヘルプを参照してください。
4. インスタンスを更新したら、「適用」をクリックして変更内容を適用します。
5. 変更が正常に適用されたら、構成マネージャー・クライアントを終了します。これによって、構成マネージャー・サーバーも終了します。
6. 変更したインスタンスを再始動します。

WebSphere Commerce インスタンスの削除

WebSphere Commerce インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce が停止していることを確認します。WebSphere Commerce の停止の詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャー・セルから WebSphere Commerce インスタンスを削除する場合、デプロイメント・マネージャー・セルから WebSphere Commerce インスタンスを除去します。詳細は、107 ページの『セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去』を参照してください。
3. 次のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」の下で「**ホスト名**」→「**Commerce**」→「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタンでクリックして、「**インスタンスの削除**」を選択します。
 - d. プロセスが完了したら、構成マネージャーを終了します。
4. 以下のいずれかを行います。

WebSphere Commerce がスタンドアロン (連合でない) 環境で実行している場合:
コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを削除します。

```
WC_installdir/bin/rmCommerceServer.sh instance_name
```

instance_name は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

重要

このコマンドは、必ず、WebSphere Commerce 用に作成した root 以外のユーザーとして実行してください。

さらに、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前ではなく、WebSphere Commerce インスタンスの名前を入力してください。

WebSphere Commerce インスタンスの名前が *instance_name* である場合、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前は **WC_instance_name** です。

WC_instance_name を使用すると、エラー・メッセージを受け取ります。

WebSphere Commerce が連合環境で実行している場合:

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの管理コンソールを使用して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを削除します。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの管理コンソールの開始に関する指示は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの管理コンソール内のアプリケーション・サーバーの削除について詳しくは、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント資料を参照してください。

5. WebSphere Commerce で使用しているデータベースに応じて、以下のいずれかを行います。

DB2

削除したい WebSphere Commerce インスタンスに関連した WebSphere Commerce データベースを除去します。

削除したい WebSphere Commerce インスタンスに関連した WebSphere Commerce データベースがリモート・データベースである場合、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 attach to remote_db_node_name
```

WebSphere Commerce データベースを除去するには、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 drop db db_name
```

ただし、*db_name* は、WebSphere Commerce データベースの名前です。

▶ Oracle

WebSphere Commerce テーブル・スペースを除去して、削除したい WebSphere Commerce インスタンスに関連した Oracle ユーザーを削除します。テーブル・スペースの除去と Oracle ユーザーの削除に関する詳細は、Oracle の資料を参照してください。

- 以下のディレクトリーにある、重要なファイルやカスタマイズされたファイルをバックアップします。

```
WC_installdir/instances/instance_name  
WAS_installdir/logs/WC_instance_name  
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

instance_name は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

重要なファイルやカスタマイズされたファイルをバックアップしたら、これらのディレクトリーを削除します。

- (オプション) 削除するインスタンスと同じ名前を持つ WebSphere Commerce をあとで新規に作成する場合、以下のディレクトリーを削除します。

```
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

- ご使用の Web サーバーに応じて、以下のようになります。

Web サーバー	アクション
IBM HTTP Server	<ol style="list-style-type: none">httpd.conf をテキスト・エディターでオープンします。以下のテキストで区切られたすべてのセクションを除去します。 IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section) End of IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section) ファイル内には、テキストで区切られたセクションが複数存在することになります。行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。IBM HTTP Server ノードが WebSphere Commerce ノードに対してリモートである場合、IBM HTTP Server ノード上の以下のディレクトリーを削除します。 <i>WAS_installdir/installedApps/WC_instance_name.ear</i> <i>instance_name</i> は、削除する WebSphere Commerce インスタンスです。Web サーバーを再始動します。

Web サーバー	アクション
Sun ONE Web Server	<p>a. Sun ONE Web Server 構成ファイル (それぞれの WebSphere Commerce ポートごとに) から、以下のテキストで区切られたセクションを除去します。</p> <p>IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section)</p> <p>End of IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section)</p> <p>b. Sun ONE Web Server ノードが WebSphere Commerce ノードに対してリモートである場合、Sun ONE Web Server ノード上の以下のディレクトリーを削除します。</p> <p><i>WAS_installdir/installedApps/WC_instance_name.ear</i></p> <p><i>instance_name</i> は、削除する WebSphere Commerce インスタンスです。</p> <p>c. Web サーバーを再始動します。</p>

9. WebSphere Commerce インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成しなければなりません。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成の詳細は、136 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除

WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除するには、以下のようになります。

- WebSphere Commerce Payments が停止していることを確認します。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』を参照してください。
- 次のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
 - 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」の下で「**ホスト名**」→「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - 削除するインスタンスを右マウス・ボタンでクリックして、「**Payments インスタンスの削除**」を選択します。
 - プロセスが完了したら、構成マネージャーを終了します。

このステップでは、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーも削除されます。
- WebSphere Commerce Payments で使用しているデータベースに応じて、以下のいずれかを行います。

DB2

削除したい WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments データベースを除去します。

削除したい WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments データベースがリモート・データベースである場合、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 attach to remote_db_node_name
```

WebSphere Commerce データベースを除去するには、DB2 コマンド・ウィンドウから以下のコマンドを実行します。

```
db2 drop db db_name
```

ただし、db_name は、WebSphere Commerce Payments データベースの名前です。

Oracle

WebSphere Commerce Payments テーブル・スペースを除去して、削除したい WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した Oracle ユーザーを削除します。テーブル・スペースの除去と Oracle ユーザーの削除に関する詳細は、Oracle の資料を参照してください。

4. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WC_installdir/instances/instance_name
WC_installdir/payments/instances/instance_name
WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server
WAS_installdir/installedApps/hostname/instance_name_Commerce_Payments_App.ear
```

instance_nameは、削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

5. ご使用の Web サーバーに応じて、Web サーバー・ノードで以下のようになります。

Web サーバー	アクション
IBM HTTP Server	a. httpd.conf をテキスト・エディターでオープンします。 b. 以下のテキストで区切られたすべてのセクションを除去します。 IBM WebSphere Payments (Do not edit this section) End of IBM WebSphere Payments (Do not edit this section) ファイル内には、テキストで区切られたセクションが複数存在することになります。 c. 行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
Sun ONE Web Server	Sun ONE Web Server を使用する場合、実行する必要のある追加ステップはありません。

6. WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成しなければなりません。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成の詳細

は、136 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

第 22 章 WebSphere Application Server のタスク

この章では、WebSphere Commerce のインストールと管理の際に実行する必要があると思われる WebSphere Application Server タスクに関する指示を述べています。

アプリケーション・サーバーの開始または停止

アプリケーション・サーバーを開始または停止するには、以下のようにします。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. ターミナル・ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
su - non_root_user  
cd WAS_installdir/bin
```

non_root_user

これは、WebSphere Commerce のインストールの前に作成された root 以外のユーザー ID です。

WAS_installdir

WebSphere Application Server または WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストール・ディレクトリーです。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

3. 以下のいずれかを行います。
 - 次のコマンドを入力して、アプリケーション・サーバーを開始します。

```
./startServer.sh application_server_name
```

- 次のコマンドを入力して、アプリケーション・サーバーを停止します。

```
./stopServer.sh application_server_name
```

詳細は次のとおりです。

application_server_name

開始しようとしているアプリケーション・サーバーの名前です。

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_commerce_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー
server1	デフォルト WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー

ここで、*commerce_instance_name* は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

注: WebSphere Commerce ノードが WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのセルに連合されている場合、このコマンドを使用して WebSphere Commerce を開始することはできません。WebSphere Commerce が WebSphere Application Server ネット

ワーク・デプロイメントのセルに連合されている場合の開始方法に関する詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. ターミナル・ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
cd WAS_ND_installdir/bin
```

```
WAS_ND_installdir
```

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストール・ディレクトリーです。 *WAS_installdir* のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

3. 以下のいずれかを行います。
 - デプロイメント・マネージャーを開始するには、以下のコマンドを入力します。

```
./startManager.sh
```

- デプロイメント・マネージャーを停止するには、以下のコマンドを入力します。

```
./stopManager.sh
```

WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止

WebSphere Application Server ノード・エージェントを開始または停止するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce のインストールの前に作成した root 以外のユーザー ID で必ずログオンします。
2. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
3. ターミナル・ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
su - non_root_user  
cd WAS_installdir/bin
```

```
WC_non_root_user
```

これは、WebSphere Commerce のインストールの前に作成された root 以外のユーザー ID です。

```
WAS_installdir
```

WebSphere Application Server または WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストール・ディレクトリーです。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

4. 以下のいずれかを行います。
 - ノード・エージェントを開始するには、以下のコマンドを入力します。

```
./startNode.sh
```

- ノード・エージェントを停止するには、以下のコマンドを入力します。

```
./stopNode.sh
```

WebSphere Application Server 管理コンソールの開始

以下の条件の下で、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始することができます。

連合アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、以下を開始する必要があります。

- それぞれの連合ノードの WebSphere Application Server ノード・エージェント。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
- WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャー。詳細は、134 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。

スタンドアロン (連合ではない) アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー (server1) を開始する必要があります。詳細は、133 ページの『アプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。

これらの開始に関する指示は、以下の項に述べられています。

Web ブラウザーを開いて以下の URL を入力し、WebSphere Application Server 管理コンソールを開きます。

```
http://hostname:port/admin
```

または

```
https://hostname:port/admin
```

hostname は、WebSphere Application Server を実行しているマシンの完全修飾 TCP/IP 名、*port* は、WebSphere Application Server 管理コンソールの TCP/IP ポートです。

WebSphere Application Server 管理コンソールのデフォルト・ポートは、URL に指定するプロトコルによって異なります。HTTP プロトコルの場合のデフォルト・ポートは 9090 です。Https プロトコルの場合のデフォルト・ポートは 9043 です。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとのアプリケーション・サーバーの開始または停止

ここでの説明は、セルに連合されたアプリケーション・サーバーにのみ当てはまります。セルへのアプリケーション・サーバー・ノードの連合に関する詳細は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの資料を参照してください。

以下の解説は、アプリケーション・サーバーのクラスターの開始または停止の際の参考にはできません。アプリケーション・サーバーのクラスターの開始または停止に関する詳細は、120ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーと WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合する方法の詳細は、101ページの『第19章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合』を参照してください。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでアプリケーション・サーバーを開始するには、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシン上で次のようにします。

1. ノード・エージェントをまだ開始していなければ、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントによって管理されている各システムごとに開始します。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、134ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始して、このコンソールにログオンします。WebSphere Application Server 管理コンソールの開始に関する説明は、135ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」をクリックします。「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」ページが表示されます。
5. 開始または停止しようとしているアプリケーション・サーバーの隣のチェック・ボックスを選択して、「開始」または「停止」をクリックします。以下の表は、利用可能な WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを一覧で示しています。

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_commerce_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー
<i>payments_instance_name_Commerce_Payments_Server</i>	WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成

この項に述べているタスクはすべて、WebSphere Commerce のインストール前に作成した root 以外のユーザーとして実行します。

以下の指示は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下の連合またはクラスター化の環境で WebSphere Commerce または WebSphere

Commerce Payments を操作する時には当てはまりません。そのような環境での Web サーバー・プラグインの生成に関する詳細は、116 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。

Web サーバー・プラグインを再生成するには、WebSphere Commerce ノードで以下のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. デフォルト・アプリケーション・サーバー — server1 がまだ開始していなければ、開始してください。詳しくは、133 ページの『アプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、135 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「**環境 (Environment)**」を拡張表示してから、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックします。
5. 「**OK**」をクリックすると、新規の plugin-cfg.xml ファイルが生成されます。
6. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
7. WebSphere Commerce Payments が別のノードにある場合、WebSphere Commerce Payments ノードでこれらのステップをすべて繰り返します。

Web サーバー・ノードが WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードに対してリモート・ノードである場合、以下を行う必要があります。

1. プラグインを WebSphere Commerce ノードから、Web サーバー・ノードにコピーします。詳細は、139 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments がそれぞれ別々のノード上にある場合、WebSphere Commerce Payments プラグインを WebSphere Commerce プラグインにマージします。詳細は、140 ページの『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を参照してください。

第 23 章 リモート Web サーバーのタスク

この章では、WebSphere Commerce とは別のノードで Web サーバーを使用している場合に実行する必要があるタスクについて説明します。

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー

plugin-cfg.xml ファイルをリモート Web サーバーにコピーするには、次のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. WebSphere Commerce ノード上の以下のファイルを、Web サーバー・ノード上の同じ位置にコピーします。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

重要: plugin-cfg.xml ファイルには、ディレクトリー固有の情報が入っています。このファイルを Web サーバー・ノード上のまったく同じディレクトリー構造にコピーしないと、Web サーバーは正しく機能しなくなり、WebSphere Commerce にはアクセスできなくなります。

3. IBM HTTP Server を使用している場合、WebSphere Application Server プラグインのパスが、Web サーバー・マシン上の httpd.conf ファイルに正しく示されていることを確認します。

パスを調べるには、httpd.conf ファイルをテキスト・エディターでオープンして、以下を探します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノード上の plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスが入っているはずですが、パスが誤っている場合、パスを変更してから httpd.conf ファイルを保管します。

4. Sun ONE Web Server を使用している場合、WebSphere Application Server プラグインのパスが、構成ファイルに正しく示されていることを確認します。構成ファイルの WebSphere Application Server プラグインの行は以下のようになっています。

```
Init fn="as_init"  
bootstrap.properties="/opt/WebSphere/AppServer/config/cells/plugin-cfg.xml"
```

この行は本書に合わせた形式をとっています。この行はファイルに示されるとおりではない場合があります。

構成ファイルのパスが Web サーバー・ノード上の plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスと一致しない場合は、パスを訂正してください。

5. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。

別々のノード上で WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のカスタム・インストールを処理する場合、『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』に進みます。

WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ

WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルを Web サーバーの plugin-cfg.xml ファイルにマージするには、次のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. Web サーバー・ノードで、plugin-cfg.xml ファイルをテキスト・エディターでオープンします。 plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

3. WebSphere Commerce Payments ノードから plugin-cfg.xml ファイルをテキスト・エディターでオープンします。 plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

4. WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<VirtualHostGroup Name="VH_PYM_instance_name">
  <VirtualHost Name="short_host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="short_host_name:5433"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5433"/>
</VirtualHostGroup>
```

変数の詳細は次のとおりです。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

host_name

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの完全修飾ホスト名です。

5. このセクションを Web サーバーの plugin-cfg.xml ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
6. WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<ServerCluster Name="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster">
  <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9081" Protocol="http">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9091" Protocol="http">
  </Server>
```



```
<PrimaryServers>
  <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
</PrimaryServers>
</ServerCluster>
```

変数は以下のように定義されています。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

IP_address

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの TCP/IP アドレスです。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<UriGroup Name="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs">
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/SampleCheckout/*">
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/PaymentManager/*">
</UriGroup>
```

変数は以下のように定義されています。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments マシンの短い (または完全修飾) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<Route ServerCluster="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster"
  UriGroup="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs"
  VirtualHostGroup="VH_PYM_instance_name"/>
```

変数は以下のように定義されています。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments マシンの短い (または完全修飾) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
- 行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。

13. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。

ストアの発行後のタスク

リモート Web サーバーを使用している場合、WebSphere Commerce でストアを発行するたびに以下を行う必要があります。

1. Web サーバー・ノード上の Stores.war ディレクトリーの内容を、WebSphere Commerce 上の Stores.war ディレクトリーの内容に置き換えます。

両方のノードの Stores.war ディレクトリーの絶対パスは以下のとおりです。

`WAS_installdir/installedapps/node_name/WC_instance_name.ear/Stores.war`

変数は以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

node_name

これは、WebSphere Commerce ノードの短いホスト名です。

instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WebSphere Commerce インスタンスの作成後に、`WC_instance_name.ear` ディレクトリーは、Web サーバー・ノードにコピーされているはずですが、

第 24 章 パスワードの設定と変更

WebSphere Commerce のほとんどのコンポーネントでは、オペレーティング・システムによって検証されるユーザー ID とパスワードを使用します。これらのパスワードの変更については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。この章では、オペレーティング・システムを使用してユーザー ID やパスワードの検証を行わない WebSphere Commerce コンポーネント用のパスワードの設定および変更する方法について述べています。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャー・パスワードを変更するには、構成マネージャーを立ち上げてから、ユーザー ID とパスワードを入力するウィンドウで「変更」をクリックします。

あるいは、コマンド・ウィンドウに以下のコマンドを実行して、構成マネージャーのユーザー ID とパスワードを変更します。

```
WC_installdir/bin/config_env.sh
java com.ibm.commerce.config.server.PasswordChecker -action action type
  -pwfile password_file -userid user_ID
  -password password [-newpassword new_password]
```

パラメーターは以下のようになっています。

action type

有効な *action type* (アクション・タイプ) は、Add、Check、Delete、または Modify です。

password_file

ファイルが保管されるパス。デフォルト・パスは *WC_installdir/bin* です。

user_ID

これは、パスワードを追加、作成、削除、または変更したいユーザー ID です。

password

これは、追加、作成、削除、または変更したいパスワードです。

new_password

このパラメーターは、*action type* として Modify を指定する場合にのみ必須です。

これは、ユーザー ID に割り当てる新規パスワードです。

WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更

パスワードは、WebSphere Commerce 管理コンソールで変更できます。

WebSphere Commerce 管理コンソールでパスワードを変更するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 管理コンソールを始動します。
2. WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成されたサイト管理者の ID とパスワードでログオンします。
3. 「パスワード変更」チェック・ボックスを選択し、「ログオン」をクリックします。「パスワード変更」ページが表示されます。
4. 「旧パスワード」フィールドに、現在の管理コンソールのログオン・パスワードを入力します。このフィールドには、最大 128 文字の英数字を入力できます。
5. 「新規パスワード」フィールドに、新しいログオン・パスワードを入力できます。このフィールドには、最大 128 文字の英数字を入力できます。
6. 「確認パスワード」フィールドに、パスワードをもう一度入力します。
7. 新しいパスワードを保管する場合は、「変更」をクリックします。「ストアおよび言語の選択」ページが表示されます。
8. WebSphere Commerce 管理コンソールを終了します。

サイト管理者パスワードのリセット

サイト管理者パスワードを忘れて、パスワードをリセットしたい場合は、以下のようになります。

1. コマンド・プロンプト・セッションを開始します。

Bourne シェルを使用していないことを確認します。WebSphere Commerce コマンドは Bourne シェルで機能しません。WebSphere Commerce コマンドの実行には Korn シェルが推奨されています。

2. 以下のコマンドを実行します。

```
wc_installdir/bin/wcs_password.sh password SALT merchant_key
```

変数は以下のように定義されています。

password

サイト管理者 ID に割り当てたい新規パスワード。

SALT これは任意のランダムな 12 桁の数値です。この数値は、パスワードの暗号化の種子になります。

この数値は後でサイト管理者の WebSphere Commerce データベース USERREG テーブルのエントリを更新するときに必要なので、記録しておいてください。

merchant key

これは、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に定義されたマーチャント鍵です。マーチャント鍵もパスワードの暗号化の種子になります。

以下は、コマンドの出力の例です。

IBM*
Licensed Materials - Property of IBM
5697-A16
(C) Copyrights by IBM and by other(s) 1978, 1997. All Rights Reserved.
* Trademark of International Business Machines Corp.
=== WCS Encrypted Password ===
ASCII Format: pArp97jT4NOXN6MyWswTQpwaPbIFsEWQGwfeu08yIyM=
Hex Format: 7041727039376a54344e4f584e364d79577377545170776d

DB2 暗号化されたパスワードを ASCII 形式の値で記録します。

Oracle 暗号化されたパスワードを 16 進形式の値で記録します。

3. WebSphere Commerce データベースに接続します。

WebSphere Commerce 用に使用しているデータベース管理システムに応じて、以下のコマンドのいずれかを発行します。

DB2 `db2 connect to db_name user user_name using password`

Oracle `sqlplus wc_user_ID/wc_password@wc_SID`

変数は以下のように定義されています。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。

user_name

WebSphere Commerce データベースの DB2 データベース・ユーザー ID。

password

DB2 データベース・ユーザー ID に関連したパスワード。

wc_user_ID

WebSphere Commerce データベースの Oracle ユーザー ID。

wc_password

Oracle ユーザー ID に関連したパスワード。

wc_SID

WebSphere Commerce データベース・インスタンスの Oracle システム ID (SID)。

4. 以下のコマンドを実行することにより、サイト管理者 ID の USERREG テーブルにある SALT 列と LOGONPASSWORD 列を更新します。

DB2 `db2 "update USERREG set LOGONPASSWORD='ASCII_encrypted_string'
where LOGONID='site_admin_id'"`

`db2 "update USERREG set SALT='SALT' where LOGONID='site_admin_id'"`

Oracle `update USERREG set LOGONPASSWORD='Hex_encrypted_string'
where LOGONID='site_admin_id';
update USERREG set SALT='SALT' where LOGONID='site_admin_id';`

変数は以下のように定義されています。

ASCII_encrypted_string

これは、`wcs_password.sh` コマンドから入手した ASCII 形式の値です。

Hex_encrypted_string

これは、`wcs_password.sh` コマンドから入手した 16 進形式の値です。

SALT これは、`wcs_password.sh` のシードに使用したランダムな 12 桁の数です。

site_admin_id

これは、パスワードをリセットするサイト管理者 ID です。

サイト管理者 ID のリカバリー

WebSphere Commerce インスタンスが作成されたときに定義されたサイト管理者 ID を忘れてしまい、サイト管理者として権限が付与された ID が他にない場合、以下のようにしてサイト管理者 ID をリカバリーすることができます。

1. WebSphere Commerce 用に使用しているデータベース管理システムに応じて、以下のコマンドを実行します。

```
DB2 db2 connect to db_name user user_name using password
db2 select LOGONID from USERREG where USERS_ID=-1000
```

```
Oracle sqlplus wc_user_ID/wc_password@wc_SID
select LOGONID from USERREG where USERS_ID=-1000;
```

変数は以下のように定義されています。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。

user_name

WebSphere Commerce データベースの DB2 データベース・ユーザー ID。

password

DB2 データベース・ユーザー ID に関連したパスワード。

wc_user_ID

WebSphere Commerce データベースの Oracle ユーザー ID。

wc_password

Oracle ユーザー ID に関連したパスワード。

wc_SID

WebSphere Commerce データベース・インスタンスの Oracle システム ID (SID)。

これらのコマンドは、サイト管理者 ID を戻します。

第 25 章 通常の管理用タスク

この章では、WebSphere Commerce を使用する際に通常実行する管理用タスクのいくつかについて説明します。

コマンド行での構成作業

コマンド行で、以下を行うことができます。

- インスタンスを更新するには、以下のようになります。

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
updateInstance xml_file
```

- インスタンスを削除するには、以下のようになります。

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
deleteInstance instance_name
```

- 既存のインスタンスをリストするには、以下のようになります。

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstances
```

- インスタンスに関する情報を検索するには、以下のようになります。

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstanceInfo instance_name
```

- インスタンスの構成情報をファイルに出力するには、以下のようになります。

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstanceConfig instance_name print_to_file_name
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』に一覧で示されています。

注: この節ではコマンドは、表示画面の制約のために複数行に分けて示されています。コマンドは、1 行内に入力してください。

リモート DB2 データベースをカタログに入れる

データベース・クライアント/サーバー接続を使用可能にし、ノードとデータベースをクライアント上でカタログに入れるには、以下のコマンドをデータベース・クライアント・マシンから DB2 コマンド・ウィンドウに入力します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote host_name server port_num  
db2 catalog db db_name at node node_name
```

コマンド中の可変情報は以下のように定義されています。

node_name

DB2 が TCP/IP ノードを識別するために使用する固有の名前。名前が固有であることを確かめるには、以下のコマンドを DB2 コマンド・ウィンドウに入力します。

```
db2 list node directory
```

応答にその名前があるかどうかを調べます。その名前がリストになければ、その名前をノード名として使用できます。

host_name

WebSphere Commerce データベースが存在するマシンの完全修飾ホスト名。

port_num

TCP/IP 接続を識別するポート番号。ポート番号を判別するには、データベース・サーバー・マシンから以下のようにします。

1. データベース・ノードの DB2 コマンド・セッションで、以下のコマンドを実行します。

```
db2 get dbm cfg
```

SVCENAME の値 (「TCP/IP Service Name」というテキストによっても識別される) を書き留めます。

2. データベースが稼働しているマシン上で、ファイル `drive:¥winnt¥system32¥drivers¥etc¥services` をオープンし、前のステップで書き留めた名前が始まる行を探します。ポート番号は、この行の 2 番目の欄にあります (ストリング/tcp が付加されています)。DB2 Universal Databaseのデフォルト・ポート番号は 50000 です。

db_name

リモート・データベースの名前。

デフォルトの WebSphere Commerce データベース名は Mall です。

デフォルトの WebSphere Commerce Payments データベース名は wpm です。

第 26 章 AIX のタスク

この章では、WebSphere Commerce のインストール時に AIX 管理者が携わることになるさまざまなタスクについて説明します。この章は次の項に分かれています。

- CD ファイル・システムの割り振りとマウント
- フリー・スペースの増加
- ページング・スペースの処理
- 物理区画のサイズの判別
- 前提条件ファイル・セットのインストール

CD ファイル・システムの割り振りとマウント

CD ファイル・システムの割り振り

CD-ROM が自動的にマウントされない場合は、次のようにして CD ファイル・システムの割り振りを行います。

1. ユーザー ID root でログインします。
2. ターミナル・ウィンドウで smitty storage と入力します。
3. 「ファイル・システム (File Systems)」を選択します。
4. 「ファイル・システムの追加/変更/表示/削除 (Add/Change/Show/Delete File Systems)」を選択します。
5. 「CD-ROM ファイル・システム (CDROM File Systems)」を選択します。
6. 「CD-ROM ファイル・システムの追加 (Add a CDROM File System)」を選択します。
7. DEVICE の名前のプロンプトで、「F4=List」キーを押して、装置名を選択します。
8. MOUNT POINT プロンプトで、CD-ROM ディレクトリーとして使用するディレクトリー名 (たとえば、/cdrom) を入力します。その名前のディレクトリーがすでに存在する場合、マウント・ポイントとして使用する前にそのディレクトリーが空であることを確認してください。
9. **Enter** キーを押します。
10. コマンド状況ウィンドウが表示されます。コマンドが完了したら、「F10=Exit」キーを押します。

CD ファイル・システムのマウント

CD-ROM がマウントされない場合は、次のようにして CD-ROM ファイル・システムをマウントします。

1. ユーザー ID root でログインします。
2. ターミナル・ウィンドウで smitty mountfs と入力します。
3. FILE SYSTEM プロンプトで、/dev/cd0 と入力するか、またはそれをリストから選択します。

4. DIRECTORY プロンプトで、リストから、使用している CD-ROM ディレクトリ-の名前を選択します。
5. TYPE プロンプトで、「F4=List」キーを押し、リストから cdrfs を選択します。
6. **Enter** キーを押しします。
7. コマンド状況ウィンドウが表示されます。コマンドが完了したら、「F10=Exit」キーを押しします。

フリー・スペースの増加

次の最低フリー・スペース容量が必要です。

- /home ディレクトリ-に 1 GB (ブロック・サイズ 512 バイトで 2097152 ブロック)。これは DB2 の場合に必要です。 /home ディレクトリ-に十分なスペースがない場合、DB2 のインストールは失敗するか、または問題が発生します。使用しているデータベースのサイズによっては、もっと大きなスペース容量が必要となる場合もあります。
- /usr ディレクトリ-に 4 GB (ブロック・サイズ 512 バイトで 8388608 ブロック)。
- /tmp ディレクトリ-に 1 GB (ブロック・サイズ 512 バイトで 2097152 ブロック)。 /tmp ディレクトリ-は、インストール中に一時ファイルを格納するために使用されることがあります。

スペースが十分にあるかどうかを判別するには、AIX コマンド行で df と入力し、/home、/usr および /tmp ディレクトリ-の情報を参照します。フリー・スペースが上記の容量より大きい場合は、151 ページの『ページング・スペースの検証』のステップへ進みます。

フリー・スペースが十分でない場合は、現在のサイズと現在 (以下のステップ 9 で使用する際に) 使用可能なフリー・スペース容量を記録し、以下のステップを実行して、
/home、/usr、および /tmp ディレクトリ-のサイズを変更します。

注: 別のファイル・システムのサイズを減らすことによってこれらのディレクトリ-のサイズを増やさないでください。次に説明する方法だけを使用してください。

1. ユーザー ID root でログインします。
2. ターミナル・ウィンドウで smitty と入力します。
3. 「システム管理 (System Management)」メニューから、「システム・ストレージ管理 (物理および論理ストレージ) (System Storage Management (Physical & Logical Storage))」を選択します。
4. 「ファイル・システム (File Systems)」を選択します。
5. 「ファイル・システムの追加/変更/表示/削除 (Add/Change/Show/Delete File Systems)」を選択します。
6. 「ジャーナル・ファイル・システム (Journaled File Systems)」を選択します。

7. 「ジャーナル・ファイル・システムの特性的変更/表示 (**Change/Show Characteristics of a Journaled File System**)」を選択します。
8. **/home** を選択します。
9. 次の数式を使用して、/home ディレクトリーに必要なサイズを計算します。

$$new_size = current_size + required_space - free_space$$

ここで、*current_size* および *free_space* は、上記で記録した値です。
required_space は、この項の冒頭で示したフリー・スペースの必要容量です。

10. *new_size* の値を「ファイル・システムのサイズ (**SIZE of file system**)」フィールドに入力します。
11. **Enter** キーをクリックします。
12. F10 (= 終了) を押します。
13. 必要があれば、/usr および /tmp ディレクトリーに対してもこのステップを繰り返します。

ページング・スペース

ページング・スペースの検証

各 WebSphere Commerce の各プロセッサごとに、最低 1 GB のページング・スペースが必要です。

十分なページング・スペースがあるかどうかを判別するには、次のようにします。

1. AIX コマンド行で `lsps -a` と入力します。
2. これで、すべてのアクティブ なページング・スペースがリストされます。合計値が、各 WebSphere Commerce インスタンスの各プロセッサごとに最低 1 GB であることを確認してください。そうでない場合、合計値を記録し、152 ページの『既存のページング・スペースのサイズ増加』の手順に従ってページング・スペース容量を増やします。

非アクティブ・ページング・スペースの活動化

非アクティブ・ページング・スペースを活動化するには、次のようにします。

1. 「システム管理 (System Management)」メニューから、「システム・ストレージ管理 (物理および論理ストレージ) (**System Storage Management (Physical & Logical Storage)**)」を選択します。
2. 「論理ボリューム・マネージャー (**Logical Volume Manager**)」を選択します。
3. 「ページング・スペース (**Paging Space**)」を選択します。
4. 「ページ・スペースの特性的変更/表示 (**Change/Show Characteristics of a Page Space**)」を選択します。
5. 活動化したいページング・スペースを選択します。
6. 「システムの再始動時ごとにこのページング・スペースを使用する (**Use this paging space each time the system is RESTARTED**)」フィールドで、「はい」を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

8. 依頼内容が開始されたことを示す「コマンド状況 (Command Status)」ウィンドウが表示されます。コマンドが完了したら、「F10=Exit」キーを押します。
9. マシンを再始動します。
10. 以下のコマンドを実行して、ページング・スペースが活動化されているかどうかを調べます。

```
lsps -a
```

既存のページング・スペースのサイズ増加

既存のページング・スペースのサイズを増加する場合、ご使用の AIX マシン上の物理区画のサイズをあらかじめ知っている必要があります。物理区画のサイズの判別に関する詳細は、153 ページの『物理区画のサイズの判別』を参照してください。

既存のページング・スペースのサイズを増やすには、次のようにします。

1. 「システム管理 (System Management)」メニューから、「システム・ストレージ管理 (物理および論理ストレージ) (System Storage Management (Physical & Logical Storage))」を選択します。
2. 「論理ボリューム・マネージャー (Logical Volume Manager)」を選択します。
3. 「ページング・スペース (Paging Space)」を選択します。
4. 「ページング・スペースの特性の変更/表示 (Change/Show Characteristics of Paging Space)」を選択します。
5. サイズを増やしたいページング・スペースを選択します。
6. 1024 からすべてのアクティブ区画の合計サイズ (MB 単位) を引き、それを物理ボリュームの物理区画サイズで割って、追加する必要のある区画数を計算します。小数点以下はすべて切り上げて整数にします。たとえば、151 ページの『ページング・スペースの検証』のステップの実行で、すべてのアクティブ区画の全サイズを 256 MB と算出した場合に物理区画のサイズが 16 であると、さらに $(1024-256)/16 = 48$ 個の区画がページング・スペースに必要となります。
7. 「論理区画の追加数 (NUMBER of additional logical partitions)」フィールドに、上で計算した値を入力します。
8. 「OK」をクリックします。
9. 依頼内容が開始されたことを示す「コマンド状況 (Command Status)」ウィンドウが表示されます。コマンドが完了したら、「F10=Exit」キーを押します。
10. マシンを再始動します。
11. 151 ページの『ページング・スペースの検証』の手順に従って、ページング・スペースのサイズを再度チェックします。もしそのサイズが 1 GB 未満のままであれば、この付録中のステップを反復します。

ページング・スペースの新規作成

新規のページング・スペースのサイズを作成する場合、ご使用の AIX マシン上の物理区画のサイズをあらかじめ知っている必要があります。物理区画のサイズの判別に関する詳細は、153 ページの『物理区画のサイズの判別』を参照してください。

新しいページング・スペースを作成するには、次のようにします。

1. 「システム管理 (System Management)」メニューから、「システム・ストレージ管理 (物理および論理ストレージ) (System Storage Management (Physical & Logical Storage))」を選択します。
2. 「論理ボリューム・マネージャー (Logical Volume Manager)」を選択します。
3. 「ページング・スペース (Paging Space)」を選択します。
4. 「ページング・スペースの追加 (Add Another Paging Space)」を選択します。
5. 名前リストでボリューム・グループを選択します。
6. 「ページング・スペースの追加 (Add Another Paging Space)」メニューで、次のようにします。
 - a. 1024 からすべてのアクティブ区画の合計サイズを引き、それを物理区画サイズで割って、追加する必要がある区画数を計算します。たとえば、151 ページの『ページング・スペースの検証』のステップの実行で、すべてのアクティブ区画の全サイズを 256 MB と算出した場合に物理区画のサイズが 16 MB であると、 $(1024-256)/16 = 48$ 個の区画のページング・スペースがさらに必要となります。
 - b. 「ページング・スペースのサイズ (論理区画数) (SIZE of paging space (in logical partitions))」フィールドに、上で計算した値を入力します。
 - c. 「ページング・スペースを使用して即時に開始する (Start using the paging space now)」フィールドで、タブ・キーを使用して「はい」を選択します。
 - d. 「システムの再始動時ごとにこのページング・スペースを使用する (Use this paging space each time the system is RESTARTED)」フィールドで、タブ・キーを使用して「はい」を選択します。
7. 「OK」をクリックします。
8. 依頼内容が開始されたことを示す「コマンド状況 (Command Status)」ウィンドウが表示されます。コマンドが完了したら、「F10=Exit」キーを押します。
9. 151 ページの『ページング・スペースの検証』の手順に従って、ページング・スペースのサイズをチェックします。もしそのサイズが 1 GB 未満であれば、152 ページの『既存のページング・スペースのサイズ増加』に概略されている手順を実行します。

物理区画のサイズの判別

物理区画のサイズを判別するには、次のようにします。

1. コマンド行ウィンドウで、コマンド `lsvg -o` を入力します。このコマンドは、AIX マシン上のすべてのアクティブ・ボリュームのリストを戻します。出力を書きとめておいてください。次のステップで必要になります。たとえば、デフォルトのボリューム・グループを備えたマシンでこのコマンドを実行すると、以下が戻されます。

```
rootvg
```
2. コマンド行ウィンドウで、コマンド `lsvg volume_group` を実行します。`volume_group` は、ステップ 1 で示されたリストにあったボリューム・グループのうちの 1 つです。たとえば、`lsvg rootvg` と入力します。

3. コマンド出力中の **PP SIZE** を書きとめます。それが物理ボリュームの物理区画サイズです。たとえば、以下にステップ 2 のサンプル・コマンドの出力を示してあります。

```
VOLUME GROUP:  rootvg                VG IDENTIFIER:  0007866266359e7e
VG STATE:      active                PP SIZE:        16 megabyte(s)
VG PERMISSION: read/write           TOTAL PPs:      1352 (21632 megabytes)
MAX LVs:       256                   FREE PPs:       1077 (17232 megabytes)
LVs:           12                     USED PPs:       275 (4400 megabytes)
OPEN LVs:      9                      QUORUM:         2
TOTAL PVs:     3                      VG DESCRIPTORS: 3
STALE PVs:     0                      STALE PPs:      0
ACTIVE PVs:    3                      AUTO ON:        yes
MAX PPs per PV: 1016                 MAX PVs:        32
```

この場合、この rootvg ボリューム・グループの区画サイズは 16MB になります。

4. ステップ 1 で検出したボリューム・グループごとに、ステップ 2~3 を繰り返します。各ボリューム・グループの物理区画サイズを書きとめておきます。

前提条件ファイル・セットがインストール済みかどうかの確認

以下のファイル・セットをインストールしなければなりません。これらは AIX 5.1 の基本のインストール内容には組み込まれていません。

- X11.adt.lib
- X11.adt.motif
- X11.base.lib
- X11.base.rte
- X11.motif.lib
- bos.adt.base
- bos.adt.include
- bos.rte.net
- bos.rte.libc
- bos.net.tcp.client

これらのファイルがシステムにそろっていることを確認するには、ターミナル・ウィンドウで以下のコマンドを実行します。

```
ls1pp -l X11.adt.lib X11.adt.motif X11.base.lib X11.base.rte X11.motif.lib
ls1pp -l bos.adt.base bos.adt.include bos.rte.net bos.rte.libc
bos.net.tcp.client
```

ファイルがそろっていれば、出力に次の一覧が示されます。

Fileset	Level	State	Description
Path: /usr/lib/objrepos			
X11.adt.lib	5.1.0.0	COMMITTED	AIXwindows Application Development Toolkit Libraries
X11.adt.motif	5.1.0.0	COMMITTED	AIXwindows Application Development Toolkit Motif
bos.adt.base	5.1.0.10	COMMITTED	Base Application Development Toolkit
bos.adt.include	5.1.0.10	COMMITTED	Base Application Development Include Files

未インストールのファイルはすべて、以下のようにコマンド出力の末尾にエラーとして一覧で示されます。

```
lspp: 0505-132 Fileset X11.adt.lib not installed
```

システム上にまだないファイルをインストールするには、次のステップを行います。

1. AIX 5.1 Vol. 1 CD をマシンの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ターミナル・ウィンドウで次のコマンドを実行します。

```
installp -aX -d device_path X11.adt.lib X11.adt.motif bos.adt.base
bos.adt.include
```

```
installp -aX -d device_path X11.adt.lib X11.adt.motif bos.adt.base
bos.adt.include bos.adt.lib bos.adt.libm
```

コマンドは、読みやすいように数行に分けて示されています。必ずそれぞれ 1 行ごとに入力してください。

3. このコマンドの実行中、ターミナル・ウィンドウに表示されたすべての指示に従います。
4. インストール済みのファイル・セット・レベルを示す「インストール要約 (Installation Summary)」パネルがオープンします。

第 27 章 WebSphere Commerce の管理に必要なユーザー ID

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。

WebSphere Commerce のユーザー ID に対して、デフォルトのパスワードが識別されます。

構成マネージャーのユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。

構成マネージャーには、WebSphere Commerce マシンからアクセスするか、または、グラフィカル・ユーザー・インターフェースをサポートしていて、しかも構成マネージャー・クライアントがインストールされた、WebSphere Commerce と同じネットワーク上のマシンからアクセスできます。

将来、WebSphere Commerce 修正パックを適用する場合は、WebSphere Commerce 構成マネージャー サーバーおよびクライアントの両方のマシンの修正パッケージのレベルが同じになるようにしてください。

重要: 構成マネージャー サーバーと 構成マネージャー クライアントは両方とも、root 以外の WebSphere Commerce ユーザー ID で開始する必要があります。また、構成マネージャー サーバーまたはクライアントを Bourne シェルで開始することはできません。

WebSphere Commerce のサイト管理者

サイト管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに対して適用されます。

WebSphere Commerce アクセラレーター

Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンから WebSphere Commerce アクセラレーター にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8000/accelerator`

WebSphere Commerce 管理コンソール

Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8002/adminconsole`

WebSphere Commerce 組織管理コンソール

Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンから

WebSphere Commerce 組織管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8004/orgadminconsole`

サイト管理者の初期ユーザー ID とパスワードは、WebSphere Commerce インスタンスの作成中に指定されます。WebSphere Commerce では、サイト管理者のユーザー ID とパスワードは次の規則を順守していなければなりません。

- パスワードの長さは少なくとも 8 文字でなければなりません。
- パスワードには少なくとも 1 つの数値を使用しなければなりません。
- パスワードでは 1 つの文字を 5 つ以上使用してはなりません。
- パスワードでは同じ文字を 4 回以上繰り返してはなりません。

第 9 部 付録

付録 A. 確認済みの問題と制限事項

ここでは、WebSphere Commerce における確認済みの問題と制限事項について述べています。最新の問題と制限事項の詳細は、README ファイルを参照してください。

追加のトラブルシューティング情報は、WebSphere Application Server にある WebSphere Commerce のトレース・フィーチャーをオンにすることによって収集できます。トレース・フィーチャーについて詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

インストール上の問題と制限事項

コンソール・モードでのインストール時に、フリー・スペースのメッセージが変わらない

インストール・ウィザードをコンソール・モードで実行しているときに、インストール・ディレクトリーを変更すると、そのディレクトリー内の使用可能なフリー・スペースを示すメッセージは、選択した位置のフリー・スペースを反映するように更新されません。

製品をインストールするのに十分なフリー・スペースが新しい位置にない場合に、「次へ」をクリックすると、エラーが生じます。

マシンへの以前の DB2 Universal Database インストールによってもたらされるインストールの問題

以前のバージョンの DB2 Universal Database がマシンにインストールされ、まだそれがアンインストールされていない場合、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用して DB2 Universal Database をインストールする前に、以下の条件が満たされているか確認してください。

- 以前のデータベースがすべて正しく除去され、アンカタログされていることを確認する。
- `dasdrop` および `db2idrop` コマンドを使用してすべてのデータベース ID が除去されていることを確認する。
これらのコマンドとその使い方については、DB2 Universal Database の資料を参照してください。
- `/etc/services` ファイルから DB2 ポートが除去されていることを確認する。
- 以下のユーザーがシステム上に存在しないことを確認する。
 - `db2fwc1`
 - `daswc1`
- 以下のグループがシステム上に存在しないことを確認する。
 - `daswcg1`
 - `db2fwcg1`

Web サーバーの問題と制限事項

セキュア (HTTPS) URL が機能しない

WebSphere Commerce のセキュア URL のいずれかが機能しない場合、Web サーバーの SSL 証明書が欠落しているか期限が切れている可能性があります。

SSL 証明書のインストールまたは更新について詳しくは、Web サーバーの資料を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンスの問題と制限事項

構成マネージャー開始時の不正 ulimit メッセージ

Solaris オペレーティング環境で、WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントまたはサーバーの始動時に、不正 ulimit メッセージを受け取る場合があります。このエラー・メッセージは、無視して差し支えありません。

createsp.log ファイルにエラーが含まれる

createsp.log ファイルにエラーが残る場合、このセクションの以下の手順に従うことによって、それらのエラーを訂正することができます。

createsp.log ファイルは以下のディレクトリーにあります。

```
WC_installdir/instances/instance_name/logs
```

ただし、WC_installdir のデフォルト値は v ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

createsp.log ファイルにエラーが残る場合、次のようにします。

1. DB2 Universal Database インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID が DB2 隔離ユーザー・グループに属していることを確認します。
このグループに属していない場合は、追加します。
2. DB2 Universal Database を再始動します。詳細は、DB2 Universal Database の資料を参照してください。
3. 端末セッションを開始します。 Korn シェルを使用していることを確認します。
4. 以下のディレクトリーに移動します。

```
WC_installdir/bin
```

5. 以下のコマンドを実行します。

```
./dropsp.db2.sh db_name db_user_ID db_user_password  
./createsp.db2.sh db_name db_user_ID db_user_password dbschema
```

変数は以下のように定義されています。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。デフォルトの WebSphere Commerce データベース名は mall です。

db_user_ID

DB2 Universal Database インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID。

db_user_password

db_user_ID に関連したパスワード。

WebSphere Commerce のインストール言語以外のデフォルト言語での WebSphere Commerce インスタンスの作成

WebSphere Commerce のインストール時にインストール・ウィザード用の言語を選択すると、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に使用するデフォルト言語が設定されます。インストール言語以外のデフォルト言語を使用してインスタンスを作成すると、選択言語にとっては無効のデータを移植されたインスタンスが作成されます。

インストール言語以外のデフォルト言語でインスタンスを作成するには、次のようにします。

1. テキスト・エディターを開いてから、WebSphere Commerce データベースとして使用するデータベースに応じて、以下のファイルを編集します。

WebSphere Commerce データベースのタイプ	編集するファイル
DB2	<i>WC_installdir</i> /schema/wcs.schema.ws_m1_db2.input <i>WC_installdir</i> /schema/wcs.schema2.ws_m1_db2.input
Oracle	<i>WC_installdir</i> /schema/wcs.schema.ws_m1_oracle.input <i>WC_installdir</i> /schema/wcs.schema2.ws_m1_oracle.input

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

2. インストール言語のロケール・コードの出現箇所をすべて、新規のデフォルト・インスタンス言語のロケール・コードに置き換えます。WebSphere Commerce で使用されるロケール・コードは『インスタンスの作成に有効なロケール・コード』に一覧で示されています。
3. 行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
4. 必ず新規のデフォルト言語を指定して、新規の WebSphere Commerce インスタンスを作成します。新規の WebSphere Commerce インスタンスの作成に関する説明は、71 ページの『第 5 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に記載されています。

インスタンスの作成に有効なロケール・コード

以下は、インスタンス作成ファイルの更新時に使用する有効なロケール・コードです。

言語	ロケール・コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES

言語	ロケール・コード
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

インスタンスの作成中にメモリー不足エラーが発生する

インスタンスの作成に失敗すると、インスタンスの作成時に `java.lang.OutOfMemory` 例外を受け取る場合があります。以下のログ・ファイルで `java.lang.OutOfMemory` 例外を確認してください。

`WC_installdir/instances/WCSconfig.log`

メモリー不足エラーを訂正するには、以下のようにします。

1. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。

```
WC_installdir/bin/config_server.sh
```

2. 以下のテキストを求めてファイルを検索します。

```
if [ $OS_NAME != "OS400" ]; then
    MAX_HEAP=-Xmx256m
fi
```

3. `MAX_HEAP` の値を増やします。たとえば、256 から 512 に変更します。
4. 変更を保管します。
5. インスタンスを再び作成します。

root 以外のユーザーとしてログインしたときに WebSphere Commerce インスタンスが始動しない

いったん `root` として WebSphere Commerce インスタンスを始動したら、`root` 以外のユーザーとして WebSphere Commerce インスタンスを始動することはできません。

再び `root` 以外のユーザーとして WebSphere Commerce インスタンスを始動するには、以下のようにします。

1. `root` としてログインし、端末セッションを開始します。
2. WebSphere Commerce を停止します。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』を参照してください。
3. 次のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

4. `root` 以外のユーザー ID に切り替えます。

5. WebSphere Commerce を開始します。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』を参照してください。

ログ内のポートの競合の表示

WebSphere Commerce インスタンスの始動を試みたときに、以下のメッセージが表示されることがあります。

```
EJB6121: Application server did not start
```

以下のディレクトリーに置かれている SystemOut.log ファイルを調べてください。
`WAS_installdir/logs/WC_instance_name`

`instance_name` は、始動しなかった WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

すでに使用中のポートが SystemOut.log に示されていることがあります。その場合のメッセージは次のものです。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host, port xxxx.
```

このメッセージの推定原因は、ポートがすでに使用されているということです。他のアプリケーションがこのポートを使用していないことを確認してから、サーバーを再始動してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題と制限事項

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが機能しない

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが機能しない場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成が正しくない可能性があります。

WebSphere Commerce Payments の構成を検査するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce ノードで、以下のファイルをテキスト・エディターでオープンします。

```
WC_installdir/instances/WC_instance_name/xml/  
WC_instance_name.xml
```

`WC_instance_name` は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

2. 以下のテキストを検索します。

```
<PaymentManager
```

3. 見つかったテキストの下の `Hostname` エントリーが、WebSphere Commerce Payments によって使用される Web サーバー・ノードを指し示すようにします。エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

4. 行ったすべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。

5. WebSphere Commerce Payments ノードで、以下のファイルをテキスト・エディターでオープンします。

```
WC_installdir/instances/Payments_instance_name/xml/  
Payments_instance_name.xml
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

6. 以下のテキストを検索します。

```
<PMWCSRealm
```

7. 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが、WebSphere Commerce によって使用される Web サーバー・ノードを指し示すようにします。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

8. 行ったすべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
9. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を再始動します。詳細は、125 ページの『第 21 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスが始動しない

ポート 9090 以外のポートを使用するように WebSphere Application Server が構成されていると、WebSphere Commerce Payments インスタンスは始動しません。

それが問題の原因であることを確認するには、次のようにします。

1. テキスト・エディターで以下を開きます。

```
WAS_installdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server/  
SystemOut.log
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

2. 以下のメッセージを求めてファイルを検索します。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host *, port 9090.
```

このエラー・メッセージが出たら、WebSphere Commerce Payments ポートを変更します。詳細は、『WebSphere Commerce Payments ポートの変更』を参照してください。

このエラー・メッセージが示されていない場合、IBM サポート担当員に連絡してください。

WebSphere Commerce Payments ポートの変更

WebSphere Commerce Payments のポートを変更するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、73 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. **WebSphere Commerce** の下の *hostname* を拡張表示します。
3. 「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」→「*payments_instance_name*」→「**インスタンス・プロパティ**」を拡張表示します。
4. 「**Web サーバー (Webserver)**」タブをクリックします。
5. 希望するポートを更新します。
6. 「**適用**」をクリックして、変更を適用します。

注: Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、73 ページの『第 13 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』の説明に従って、構成マネージャーを使用してください。これで、すべてのプロパティとファイルが同じ情報で更新されるようになります。

root 以外のユーザーとしてログインしたときに WebSphere Commerce Payments インスタンスが始動しない

いったん root として WebSphere Commerce Payments インスタンスを始動したら、root 以外のユーザーとして WebSphere Commerce Payments インスタンスを始動することはできません。

再び root 以外のユーザーとして WebSphere Commerce Payments インスタンスを始動するには、以下のようにします。

1. root としてログインし、端末セッションを開始します。
2. WebSphere Commerce Payments を停止します。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』を参照してください。
3. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server/
```

instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

4. 次のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

5. root 以外のユーザー ID に切り替えます。
6. WebSphere Commerce Payments を開始します。詳細は、125 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』を参照してください。

addNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連
合すると、 addNode.sh コマンドはメモリー不足エラーを戻すことがあります。そ
のような場合には、次のようにします。

1. addNode.sh コマンドが実行中であることを確認します。
2. root でログオンします。
3. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。
`WAS_installdir/bin/addNode.sh`
4. テキスト・ファイルで、以下のテキスト行を見つけ出します。
`"$JAVA_HOME"/bin/java ¥`
5. 以下のテキスト行を "`$JAVA_HOME"/bin/java ¥` テキスト行の下に挿入します。
`-Xmx512m ¥`
6. 行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
7. addNode.sh コマンドを実行します。

removeNode.sh コマンドがメモリー不足エラーを戻す

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連
合すると、 removeNode.sh コマンドはメモリー不足エラーを戻すことがあります。
そのような場合には、次のようにします。

1. removeNode.sh コマンドが実行中であることを確認します。
2. root でログオンします。
3. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。
`WAS_installdir/bin/removeNode.sh`
4. テキスト・ファイルで、以下のテキスト行を見つけ出します。
`"$JAVA_HOME"/bin/java ¥`
5. 以下のテキスト行を "`$JAVA_HOME"/bin/java ¥` テキスト行の下に挿入します。
`-Xmx512m ¥`
6. 行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
7. removeNode.sh コマンドを実行してください。

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

WebSphere Commerce コンポーネントは、インストール時の順序とは逆順にアンインストールする必要があります。 WebSphere Commerce コンポーネントは、以下の順序でアンインストールします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャーおよびクライアント
これらのコンポーネントを、他のコンポーネントをアンインストールする前に、インストールされているすべてのノードから除去しなければなりません。
2. WebSphere Application Server
3. Web サーバー
4. データベース

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントをノードからアンインストールするには、以下のようにします。

1. 125 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』で説明されているように、WebSphere Commerce を停止します。
2. 125 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』で説明されているように、WebSphere Commerce Payments を停止します。
3. 126 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの削除』の指示に従って、すべての WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
4. 129 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除』の指示に従って、すべての WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
5. `WC_installdir` ディレクトリーまたはそのサブディレクトリーでいずれかのファイルを作成またはカスタマイズしていた場合に、それらのファイルを保存したい場合、いずれの WebSphere Commerce コンポーネントによっても使用されないディレクトリーにそれらをバックアップします。
`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』に一覧で示されています。
6. `root` でログインし、オペレーティング・システムに応じて以下のコマンドのうちの 1 つを発行して、アンインストール・ウィザードを開始します。

```
WC_installdir/_uninst/uninstall_aix.jar
```

➤ AIX

または

```
WC_installdir/_uninst/uninstall_aix.jar -console
```

```
WC_installdir/_uninst/uninstall_solaris.jar
```

Solaris

または

```
WC_installdir/_uninst/uninstall_solaris.jar -console
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

WebSphere Commerce の分散インストールの場合、WebSphere Commerce ノード、WebSphere Commerce Payments ノード、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント・ノードでアンインストール・ウィザードを実行します。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードと GUI ベースのアンインストール・ウィザードのステップは同じですが、アンインストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

この節では、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのアンインストール・ウィザードのもののみを記載しています。テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合は、テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。

7. プロンプトの指示に従って、アンインストール・ウィザードの処理を完了します。

アンインストール・ウィザードが完了するのを待ってから、先に進みます。

8. `WC_installdir` がノード上にまだ存在している場合は、除去します。

`WC_installdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントをインストールしたそれぞれのノードで指示を繰り返します。

WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server のアンインストールの詳細は、「*IBM WebSphere Application Server 概説* バージョン 5」を参照してください。この資料は、以下の WebSphere Application Server ライブラリーから入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのアンインストール

WebSphere Application Server を WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments ノードからアンインストールしなければなりません。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのアンインストールの詳細は、「*IBM WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント概説*」

バージョン 5」を参照してください。この資料は、以下の WebSphere Application Server ライブラリーから入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>

IBM HTTP Server のアンインストール

IBM HTTP Server が WebSphere Application Server と同じノードにインストールされている場合、IBM HTTP Server は WebSphere Application Server をアンインストールする際に自動的にアンインストールされます。

IBM HTTP Server のアンインストールに関する詳細は、「IBM HTTP Server V1.3.26 powered by Apache Installation」ファイルを参照してください。これは、以下の URL から入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/library.html>

DB2 Universal Database のアンインストール

DB2 Universal Database のアンインストールの詳細は、「*IBM DB2 Universal Database* インストールおよび構成 補足」を参照してください。この資料は、以下の DB2 Universal Database ライブラリーから入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

注: WebSphere Commerce に提供される DB2 Universal Database CD には .tar ファイルが含まれます。DB2 Universal Database 資料の指示に従うには、CD の内容を一時ロケーションに `untar` する必要があります。DB2 Universal Database CD から実行するコマンドを、代わりにこの一時ロケーションから実行します。DB2 Universal Database をアンインストールした後に、一時ロケーションを削除します。

付録 C. 詳細情報の入手方法

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな形式でさまざまな情報源から入手できます。この部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

WebSphere Commerce に関する情報

WebSphere Commerce の情報源は、以下のとおりです。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce のインストールが完了したら、以下に示す URL に移動してオンライン情報内のトピックにアクセスすることができます。

`https://host_name:8000/wchelp/`

ただし `host_name` は、WebSphere Commerce がインストールされているマシンの TCP/IP ホスト名です。

WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー

WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーは、以下の URL に掲載されています。

`http://www.ibm.com/software/commerce/library/`

このマニュアルのコピー、およびこのマニュアルの更新済みバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトの Library のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。さらに、この Web サイトから、新規および更新された文書を入手することができます。

WebSphere Commerce Payments に関する情報

WebSphere Commerce Payments のヘルプを表示するには、以下の「ヘルプ」アイコンをクリックします。



この「ヘルプ」アイコンは、WebSphere Commerce 管理コンソールと WebSphere Commerce アクセラレーター内の WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースに表示され、また、以下の URL のスタンドアロン WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースにも表示されます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager`

変数は以下のように定義されています。

host_name

WebSphere Commerce Payments に関連付けられた Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される HTTP ポート。デフォルト HTTP ポートは、5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される SSL ポート。デフォルト SSL ポートは、5433 です。

WebSphere Commerce Payments が SSL 対応の場合、セキュア URL (HTTPS) を使用してください。SSL 対応でない場合、非セキュア URL (HTTP) を使用してください。

以下の URL にも「ヘルプ」が用意されています。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

変数は以下のように定義されています。

host_name

WebSphere Commerce Payments に関連付けられた Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される HTTP ポート。デフォルト HTTP ポートは、5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される SSL ポート。デフォルト SSL ポートは、5433 です。

language

ヘルプ・ページの表示に使われる言語の言語コード。大半の言語の場合、これは 2 文字です。言語コードは以下のとおりです。

言語	コード
ドイツ語	de
英語	en
スペイン語	es
フランス語	fr
イタリア語	it
日本語	ja

言語	コード
韓国語	ko
ブラジル・ポルトガル語	pt
中国語 (簡体字)	zh
中国語 (繁体字)	zh_TW

WebSphere Commerce Payments と Payments Cassettes に関する詳細は、WebSphere Commerce Technical Library に記載されています。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

IBM HTTP Server に関する情報

IBM HTTP Server に関する情報は、IBM HTTP Server Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

WebSphere Application Server に関する情報

WebSphere Application Server に関する情報は、WebSphere Application Server InfoCenter から入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

DB2 Universal Database に関する情報

HTML 文書ファイルが `/doc/locale/html` サブディレクトリーにあります。ただし、`locale` はロケールの言語コードです (たとえば米国英語の場合は `en`)。各国語で入手できない文書は、英語で表示されます。

入手可能な DB2 資料の総合リストについてと、その表示または印刷の方法についての詳細は、「*DB2 UDB (UNIX 版) 概説およびインストール*」を参照してください。DB2 の追加情報は、以下の DB2 Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

その他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は IBM 特約店あるいは営業担当員から購入することができます。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX	DB2	DB2 Universal Database
@server	IBM	Lotus
Notes	pSeries	QuickPlace
RS/6000	Sametime	WebSphere

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。